

学生による授業認識 と大学教育

大東文化大学授業認識報告書（全学データ）

2024 年度

大東文化大学

目次

1. はじめに.....	3
2. 結果.....	4
2.1 2024 年度前期・学生による授業認識アンケート.....	4
2.2 2024 年度後期・学生による授業認識アンケート.....	53
3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察.....	103
文学部 日本文学科.....	103
文学部 中国文学科.....	104
文学部 英米文学科.....	105
文学部 教育学科.....	106
文学部 書道学科.....	107
文学部 歴史文化学科.....	109
経済学部 社会経済学科・現代経済学科.....	110
外国語学部 中国語学科.....	112
外国語学部 英語学科.....	114
外国語学部 日本語学科.....	115
法学部 法律学科.....	116
法学部 政治学科.....	118
国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科.....	119
経営学部 経営学科.....	120
スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科.....	122
スポーツ・健康科学部 健康科学科.....	125
スポーツ・健康科学部 看護学科.....	128
社会学部 社会学科.....	130
4. おわりに.....	133
資料.....	134
1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程.....	134
2. 2024 年度 学生による授業認識アンケート実施要項.....	137

1. はじめに

全学 FD 委員会委員長 中野 紀和

2024 年度の授業は、コロナ禍前の通常運転に戻ったと言ってよいだろう。マスク姿の学生が減り、顔と名前が一致しやすくなった。互いの表情をみながらの対面でのディスカッションや発表、学外活動は、教員が考える以上に学生にとっては大きな刺激になっていることだろう。昨年までは停滞していたサークル活動も徐々に以前の活発さを取り戻していると聞く。大学生活全般がのびのびとしたものになれば、おのずとその影響は授業へも及ぶ。

学生の授業に対する関心や内容の理解度が教員に直に伝われば、教員も説明の工夫や進捗具合の調整をしやすくなる。とはいえ、高校までの学習内容が以前とは徐々に変わってきているなかで、学生の動向を見定めつつ、伝えるべきことをいかに伝えるか、多くの教員が試行錯誤していることだろう。難しいことを難しく説明するのは簡単だが、難しいことを相手が理解できるように伝えることは難しい。それでも、昨年度に引き続き今年度の授業認識アンケートでも、学生は教員の授業に対する熱意を非常に高く評価してくれており、嬉しい限りである。

コロナ禍での授業を経験して以降、文科省は対面であれ遠隔であれ、教員と学生の双方向性を確保した授業展開を求める傾向にある。教員側からの一方通行にならないよう、学生との迅速かつ確実な双方向性を確保するための工夫が、今後益々求められるだろう。

学生たちが 2024 年度の授業をどのように受け止めたのか、「学生による授業認識アンケート」の結果に表れている。本報告書はそのまとめである。アンケートの実施にご理解とご協力をいただいた全ての学生と教職員の方々に感謝申し上げたい。

ありがとうございました。

以上

2. 結果

2.1 2024 年度前期・学生による授業認識アンケート

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学FD委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3. アンケート項目

2024年度前期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。
（対面授業に戻ったことから、2022年度の内容をQ3のみ変更）

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

- 2) はい（おおよそ）知っています → Q1b に
- 1) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとばして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
- 2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

- 5) とても難しかった 4) やや難しかった 3) 適切だった
- 2) やや易しかった 1) とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

Y) はい、あります → Q4 に

N) いいえ、したことはありません → Q4 はとばして Q5 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長実感】

**Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。**

- 5) 強くそう思う 4) どちらかと言えばそう思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

**Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1
を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。**

- 10) 10 9) 9 8) 8 ・ ・ ・ 3) 3 2) 2 1) 1

【自由記述】

**Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)**

**Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読みま
す)。**

4. 結果

4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 829 科目、対象延べ学生数(各対象科目内の履修者数の合計)は 10,336 人、実際に回答した延べ学生数は 17,418 人であった。2023 年度に重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更しており、今年度は前年度と結果を比較し傾向や改善点を確認することができた。2023 年度と同じく、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行った。

ただし、全学共通科目(90 科目)を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、今回は教員所属別の分析は全学のみとした。全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計は、昨年度同様に実施した。

今回の分析では平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の「格差」の有無について検証を試みた。変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。その値が高い程、相対的なバラツキが大きいことを示し、良い傾向とは言えない。なお、数値は%で表している。

変動係数はローデータに基づいて算出しているため、各表の平均と標準偏差を用いて計算する値と異なる場合があるが、学科間の相対的な格差分析に問題は生じない。

4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科/部局別)にある回答者数(Q1b は 14,964 人、Q2 は 17,432 人、Q4 は 6,559 人、Q5 は 17,429 人、Q6 は 17,459 人、Q7 は 17,461 人、Q8 は 17,418 人)は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、15,769 人、32.89%(前年度:前期 22.69%、後期 31.62%)であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2024 年度においても担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。その結果、2023 年度の前期より 10.2%、後期より 1.27%の上昇がみられた。

僅かでも回答率が上昇している理由としては、2023 年度前期の回答率の低さを受けて、授業中(9 時~18 時)に学生の回答が集中していることをグラフによって可視化したことで、教員が授業中の回答を促してくれるようになったからだと思われる。

その一方で、授業中にスマートフォンを取り出して回答している(ように見える)にもかかわらず、回答率が思ったほどには伸びないという声もやはり聞かれた。スマートフォンを使用したアンケートならではの課題が残っている。

もう一つの課題は、大人数の履修者を抱える科目の回答率がやはり芳しくないことである。大人数ゆえの難しさはあると思われるが、全体の回答率にも影響することから、学生への授業中の回答を一層促してほしい。

すべての学科部局における回答率の上昇率(=2024 年度前期－2023 年度後期)は、2023 年度後期の値のように大幅に増加していないものの、全般的に上昇している。学科別の上昇率は以下の通りである。

上昇率の高い順に、社会学科 6.5% (24 年度前期 47.20%、23 年度後期 40.70%)、国際文化学科 4.47% (同前期 27.49%、同後期 23.02%)、政治学科 4.41% (同前期 38.10%、同後期 33.69%)、歴史文化学科 4.05% (同前期 30.22%、同後期 26.17%)、現代経済学科 4.00% (同前期 22.54%、同後期 18.54%)、法律学科 3.89% (同前期 29.07%、同後期 25.18%)、教職課程センター 3.83% (同前期 38.45%、同後期 34.62%)、スポーツ科学科 3.75% (同前期 32.98%、同後期 29.23%)、経営学科 3.33% (同前期 26.43%、同後期 23.10%)、日本語学科 2.89% (同前期 34.63%、同後期 31.74%)、英語学科 2.51% (同前期 38.04%、同後期 35.53%)、国際交流センター 2.46% (同前期 44.81%、同後期 42.35%)、教育学科 2.28% (同前期 26.36%、同後期 24.08%)、健康科学科 1.60% (同前期 47.44%、同後期 45.84%)、英米文学科 1.25% (同前期 38.40%、同後期 37.15%)、中国文学科 1.24% (同前期 30.18%、同後期 28.94%)、日本文学科 0.02% (同前期 38.29%、同後期 38.27%) となっている。

一方、上昇率の値が減少している学科は、看護学科－12.93% (同前期 57.28%、同後期 70.21%)、社会経済学科－8.72% (同前期 17.13%、同後期 25.85%)、国際関係学科－3.70% (同前期 33.84%、同後期 37.54%)、中国語学科－2.54% (同前期 42.50%、同後期 45.04%)、書道学科－0.11% (同前期 39.74%、同後期 39.85%) であった。

学年別では、学年が上がるごとに回答率は下がる傾向にある。

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。授業改善のためには、学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、無視するわけにはいかない。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇し、教員側のコメント入力状況も僅かに上昇したとはいえ、決して良いとは言えない(2024 年度前期の全学平均 52.7%)。教員からの反応がないことで、学生は次回アンケートへの回答意欲を低下させかねない。教員のコメント入力率を上げることも、引き続き大きな課題である。

2024 年度前期の専任教員の入力率は 64.4%、非常勤は 45.6% であった(2023 年度後期：専任 61.5%、非常勤 45.0%)。一学部のなかでも学科によってはコメント入力率に大きな差があることから、学科においても入力を促すことが必要だと思われる。

ちなみに、2024 年度前期の各学科のコメント入力状況は、入力率の高い順に以下の通りである。法学部 62.5% (法律 58.1%、政治 69.0%)、国際関係学部 62.3% (国際関係 75.0%、

国際文化 48.0%)、経営学部 58.3%、社会学部 56.3%、経済学部 52.8% (社会経済 56.5%、現代経済 50.0%)、文学部 51.1% (日本文学 75.0%、中国文学 80.0%、英米文 37.7%、教育 46.7%、書道 47.4%、歴史文化 46.9%)、スポーツ・健康科学部 50.5% (スポーツ科学 47.9%、健康科学 39.1%、看護 68.2%)、外国語学部 44.8% (中国語 42.0%、英語 44.1%、日本語 54.5%)、部局別では、教職課程センター51.9%、国際交流センター50.0%であった。

学科/部局別 (左) および学年別 (右) 回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	829	1,336	2,165	38.29%
中国文学科	293	678	971	30.18%
英米文学科	730	1,171	1,901	38.40%
教育学科	1,188	3,319	4,507	26.36%
書道学科	300	455	755	39.74%
歴史文化学科	504	1,164	1,668	30.22%
社会経済学科	544	2,631	3,175	17.13%
現代経済学科	704	2,419	3,123	22.54%
中国語学科	584	790	1,374	42.50%
英語学科	1,595	2,598	4,193	38.04%
日本語学科	277	523	800	34.63%
法律学科	1,456	3,553	5,009	29.07%
政治学科	976	1,586	2,562	38.10%
国際関係学科	581	1,136	1,717	33.84%
国際文化学科	417	1,100	1,517	27.49%
経営学科	1,653	4,601	6,254	26.43%
スポーツ科学科	1,192	2,422	3,614	32.98%
健康科学科	732	811	1,543	47.44%
看護学科	527	393	920	57.28%
社会学科	1,750	1,958	3,708	47.20%
教職課程センター	491	786	1,277	38.45%
国際交流センター	95	117	212	44.81%
全学	17,418	35,547	52,965	32.89%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	8,463	9,075	17,538	48.26%
2	5,668	11,417	17,085	33.18%
3	2,423	10,117	12,540	19.32%
4	830	4,873	5,703	14.55%

4.3.1 【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは80.4% (23年度後期 77.9%) であった。2023年度後期よりは増加(2.5%)しているが、19.6%の回答学生がシラバスを承知していない。「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、87.7%の看護学科(23年度後期 81.5%)であった。

学年別では学年が上がるにつれ、2「知っている」の比率が高くなる傾向にある。

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおよそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	16.5%	83.5%
中国文学科	15.9%	84.1%
英米文学科	19.5%	80.5%
教育学科	18.4%	81.6%
書道学科	17.9%	82.1%
歴史文化学科	16.6%	83.4%
社会経済学科	14.5%	85.5%
現代経済学科	19.9%	80.1%
中国語学科	22.8%	77.2%
英語学科	20.8%	79.2%
日本語学科	18.0%	82.0%
法律学科	20.9%	79.1%
政治学科	18.3%	81.7%
国際関係学科	12.9%	87.1%
国際文化学科	12.7%	87.3%
経営学科	19.3%	80.7%
スポーツ科学科	26.8%	73.2%
健康科学科	19.0%	81.0%
看護学科	12.3%	87.7%
社会学科	23.7%	76.3%
教職課程センター	25.0%	75.0%
国際交流センター	13.5%	86.5%
全学	19.6%	80.4%

学年	1	2
1	21.3%	78.7%
2	19.1%	80.9%
3	18.0%	82.0%
4	11.5%	88.5%

4.3.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおよそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.37（23 年度後期 4.37）で標準偏差は 0.71（23 年度後期 0.72）であった。この結果は 2023 年度後期と同じ傾向である。

学科で最も平均値が高かったのは書道学科で 4.58（23 年度後期は日本語学科 4.55）であった。標準偏差の 0.59 を加味すると、その値は 3.99 から 5.17 の幅に位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 90.72%（23 年度後期 90.01%）であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

尚、全学の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数からみると、学科間の格差を確認できる。平均 16.28%に対し、係数が最も大き

かったのは法律学科 17.50%、次いで中国文学科 17.16%、経営学科 17.11%が 17%を超えている。部局で 17%を超えたのは国際交流センター17.21%であった。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	719	4.45	0.62	14.03%
中国文学科	255	4.36	0.75	17.16%
英米文学科	626	4.35	0.74	16.91%
教育学科	1,021	4.35	0.71	16.41%
書道学科	263	4.58	0.59	12.91%
歴史文化学科	437	4.33	0.70	16.25%
社会経済学科	472	4.39	0.70	15.91%
現代経済学科	590	4.27	0.71	16.53%
中国語学科	496	4.35	0.72	16.48%
英語学科	1,382	4.40	0.73	16.52%
日本語学科	236	4.50	0.67	14.81%
法律学科	1,217	4.31	0.75	17.50%
政治学科	862	4.33	0.71	16.29%
国際関係学科	536	4.41	0.73	16.50%
国際文化学科	381	4.44	0.70	15.81%
経営学科	1,419	4.29	0.73	17.11%
スポーツ科学科	975	4.40	0.73	16.69%
健康科学科	636	4.39	0.68	15.57%
看護学科	485	4.50	0.61	13.59%
社会学科	1,463	4.29	0.69	16.16%
教職課程センター	404	4.45	0.64	14.49%
国際交流センター	89	4.44	0.76	17.21%
全学	14,964	4.37	0.71	16.28%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,174	4.34	0.72	16.65%
2	4,918	4.37	0.70	16.14%
3	2,090	4.40	0.69	15.57%
4	749	4.47	0.69	15.53%

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

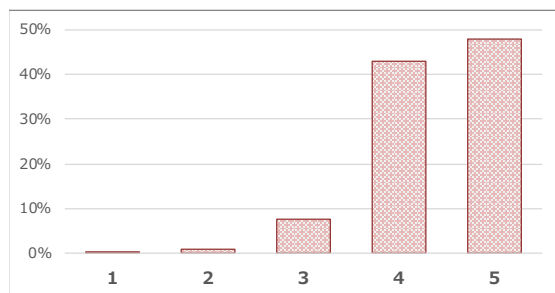
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.14%	0.28%	5.42%	42.98%	51.18%
中国文学科	0.78%	1.57%	7.06%	41.57%	49.02%
英米文学科	0.64%	1.28%	7.99%	42.17%	47.92%
教育学科	0.78%	0.49%	7.93%	44.07%	46.72%
書道学科	0.00%	0.00%	5.32%	31.18%	63.50%
歴史文化学科	0.46%	1.60%	6.18%	48.28%	43.48%
社会経済学科	0.85%	1.06%	4.24%	45.76%	48.09%
現代経済学科	0.51%	1.02%	8.98%	50.17%	39.32%
中国語学科	0.60%	0.40%	9.48%	41.94%	47.58%
英語学科	0.29%	1.74%	7.45%	39.15%	51.37%
日本語学科	0.00%	1.69%	4.66%	35.17%	58.47%
法律学科	0.74%	1.81%	7.89%	44.86%	44.70%
政治学科	0.58%	0.58%	8.58%	45.71%	44.55%
国際関係学科	0.37%	1.68%	7.09%	38.43%	52.43%
国際文化学科	0.26%	0.79%	8.40%	35.70%	54.86%
経営学科	0.78%	0.92%	9.23%	46.65%	42.42%
スポーツ科学科	0.21%	1.13%	10.36%	35.18%	53.13%
健康科学科	0.16%	0.94%	7.70%	41.67%	49.53%
看護学科	0.21%	0.00%	4.95%	39.38%	55.46%
社会学科	0.41%	0.82%	8.82%	49.28%	40.67%
教職課程センター	0.00%	0.99%	5.45%	41.34%	52.23%
国際交流センター	1.12%	1.12%	6.74%	34.83%	56.18%
全学	0.47%	1.02%	7.79%	42.96%	47.77%

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.57%	1.07%	8.22%	43.78%	46.35%
2	0.33%	1.04%	8.15%	42.70%	47.78%
3	0.29%	0.91%	7.03%	41.82%	49.95%
4	0.93%	0.80%	3.60%	39.92%	54.74%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	70	0.47%
2	153	1.02%
3	1165	7.79%
4	6428	42.96%
5	7148	47.77%
合計	14964	

4.3.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」の5段階であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は 3.55(23 年度後期 3.54)、標準偏差は 0.78(23 年度後期 0.79)であった。どの学科も 3「適切だった」から 4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。学科では現代経済学科が 3.88(標準偏差 0.79)と最も高く、授業内容をやや難しいと受け止めている傾向にある。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では 3 と 4 の合計が 83.92%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が 5 割を超える高い数値を示したのは、高い順にスポーツ科学科 63.26%、中国文学科 59.73%、教職課程センター59.27%、書道学科 57.67%、国際文化学科 55.29%、日本語学科 55.04%、歴史文化学科 54.67%、日本文学科 53.91%、看護学科 51.70%、社会学科 50.06%であった。授業を易しいと受け止めている 1 と 2 の回答の合計値が比較的高かったのは、スポーツ科学科 8.03%、日本語学科 6.12%、中国文学科 5.12%であった。この 3 学科は、5 の回答も他学科に比べると少なかった。

学年別の平均値は、1 年生 3.55、2 年生 3.57、3 年生 3.56 と、ほぼ同じ水準であるが、4 年生は 3.45 と僅かに低くなり、他学年よりは授業を難しいとは捉えていない。

全学の学年別回答分布を 2023 年度後期と比較すると、1 年生 47.53% (23 年度後期 47.38%)、2 年生 46.98% (23 年度後期 46.18%) は、3「適切だった」が増加している。一方で、3 年生 49.24% (23 年度後期 52.82%) と 4 年生 57.11% (23 年度後期 58.03%) は減少している。これに連動して、5「とても難しかった」は 3 年生 13.06% (23 年度後期 8.76%)、4 年生 10.72% (23 年度後期 8.58%) と、3 年生で 4.31%、4 年生 2.14%の増加がみられた。学年が進むほど、授業を難しいと捉えていることが示された。

変動係数をみると、全学平均 22.08%より高い学科が 9 学科あり、学科間の格差を確認できる。なかでも、スポーツ科学科 24.68%と中国語学科 23.50%は高い値を示し、今後、改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	831	3.45	0.73	21.07%
中国文学科	293	3.38	0.75	22.07%
英米文学科	728	3.63	0.81	22.34%
教育学科	1,188	3.52	0.77	21.96%
書道学科	300	3.46	0.73	21.16%
歴史文化学科	503	3.49	0.70	20.13%
社会経済学科	543	3.56	0.79	22.09%
現代経済学科	705	3.88	0.79	20.39%
中国語学科	586	3.70	0.87	23.50%
英語学科	1,595	3.57	0.77	21.47%
日本語学科	278	3.39	0.77	22.80%
法律学科	1,454	3.63	0.80	22.09%
政治学科	977	3.65	0.81	22.13%
国際関係学科	580	3.54	0.73	20.68%
国際文化学科	416	3.44	0.72	20.88%
経営学科	1,654	3.66	0.78	21.35%
スポーツ科学科	1,195	3.24	0.80	24.68%
健康科学科	733	3.68	0.81	22.14%
看護学科	528	3.48	0.79	22.58%
社会学科	1,758	3.52	0.73	20.82%
教職課程センター	491	3.39	0.67	19.69%
国際交流センター	96	3.67	0.75	20.33%
全学	17,432	3.55	0.78	22.08%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,462	3.55	0.80	22.66%
2	5,679	3.57	0.76	21.24%
3	2,427	3.56	0.78	21.89%
4	830	3.45	0.77	22.29%

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

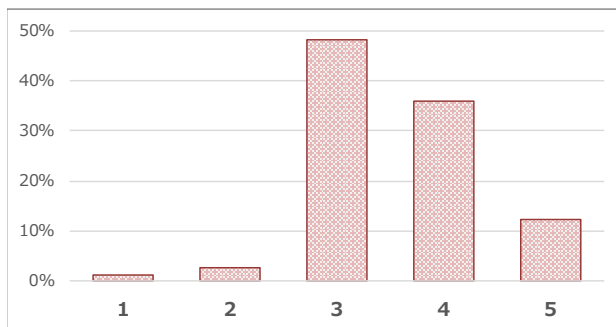
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.20%	2.53%	53.91%	34.42%	7.94%
中国文学科	1.02%	4.10%	59.73%	26.28%	8.87%
英米文学科	0.96%	3.16%	42.86%	37.77%	15.25%
教育学科	1.35%	2.44%	49.83%	35.44%	10.94%
書道学科	0.67%	2.33%	57.67%	29.33%	10.00%
歴史文化学科	0.00%	2.98%	54.67%	33.20%	9.15%
社会経済学科	1.66%	2.39%	45.49%	39.23%	11.23%
現代経済学科	0.57%	1.28%	30.92%	44.40%	22.84%
中国語学科	2.39%	1.02%	39.93%	37.54%	19.11%
英語学科	1.19%	2.32%	46.21%	39.12%	11.16%
日本語学科	1.80%	4.32%	55.04%	30.58%	8.27%
法律学科	1.17%	2.27%	43.67%	38.17%	14.72%
政治学科	1.13%	2.56%	41.76%	39.20%	15.35%
国際関係学科	0.34%	2.93%	49.14%	37.07%	10.52%
国際文化学科	0.72%	3.37%	55.29%	32.69%	7.93%
経営学科	0.60%	2.54%	41.96%	39.90%	14.99%
スポーツ科学科	3.77%	4.27%	63.26%	21.42%	7.28%
健康科学科	0.68%	2.32%	43.38%	35.74%	17.87%
看護学科	1.52%	3.22%	51.70%	32.95%	10.61%
社会学科	0.63%	2.73%	50.06%	36.75%	9.84%
教職課程センター	1.02%	2.04%	59.27%	32.38%	5.30%
国際交流センター	0.00%	3.13%	40.63%	42.71%	13.54%
全学	1.18%	2.64%	48.03%	35.89%	12.25%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.42%	3.05%	47.53%	35.37%	12.63%
2	0.90%	2.27%	46.98%	38.23%	11.62%
3	0.91%	2.35%	49.24%	34.45%	13.06%
4	1.57%	1.81%	57.11%	28.80%	10.72%

Q2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」 / 2「やや易しかった」 / 3「適切だった」 / 4「やや難しかった」 / 5「とても難しかった」)



回 答	回答者数	割 合
1	206	1.18%
2	461	2.64%
3	8373	48.03%
4	6256	35.89%
5	2136	12.25%
合計	17432	

4.3.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で1「あります」と回答したのは17.9%(23年度後期15.7%)と低い比率になっているが、2023年度後期より少し改善がみられる結果となった。

2023年度後期において、2「いいえ、したことはありません」と回答したのは全学で84.3%、と高い比率を示していた。これに対して、2024年度前期の比率は全学で82.1%となり、前年度に比べて少し低下したが、依然として学生の授業における消極的な様子は変わらない。1については、全学の約6割の学科が20%未満であった。

1と回答した学生を学年別の比率でも、全学で1年生18.8%、2年生15.8%、3年生18.4%、4年生19.6%、全学年で20%以下を示し、低い水準となった。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	19.4%	80.6%
中国文学科	20.5%	79.5%
英米文学科	26.5%	73.5%
教育学科	16.1%	83.9%
書道学科	27.8%	72.2%
歴史文化学科	14.1%	85.9%
社会経済学科	14.8%	85.2%
現代経済学科	16.5%	83.5%
中国語学科	28.1%	71.9%
英語学科	29.8%	70.2%
日本語学科	31.8%	68.2%
法律学科	10.7%	89.3%
政治学科	17.2%	82.8%
国際関係学科	19.3%	80.7%
国際文化学科	21.2%	78.8%
経営学科	10.3%	89.7%
スポーツ科学科	16.8%	83.2%
健康科学科	20.6%	79.4%
看護学科	16.0%	84.0%
社会学科	10.9%	89.1%
教職課程センター	13.9%	86.1%
国際交流センター	36.2%	63.8%
全学	17.9%	82.1%

学年	1	2
1	18.8%	81.2%
2	15.8%	84.2%
3	18.4%	81.6%
4	19.6%	80.4%

4.3.5 【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.15（23年度後期は3.73）、標準偏差は0.96（23年度後期は1.31）であった。4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の間にあり、対応は迅速であったと認識されていると言える。

学科部局別回答分布をみても、4と5の合計が72.77%と7割を超えており、2023年度後期の4、5の合計60.27%と比較すると、大きく増加している。

2023年度後期は、1「まったくそう思わない」9.76%と2「どちらかといえばそう思わない」7.23%の合計が16.99%を示していたが、2024年度前期の1と2の合計は3.51%で5分の1に近い値に減少した。この結果により、質問に対する教員対応が前年度後期に比べて大幅に改善したと言える。

学科では2023年度後期と同様、書道学科(平均4.59、標準偏差0.71)が最も高かった(23

年度後期：平均 4.36、標準偏差 1.15)。部局では国際交流センターが平均 4.30、標準偏差 0.96 であった(23 年度後期：平均 4.17、標準偏差 1.23)。

学年別では、全学の平均は 1 年生 4.13(標準偏差 0.98)から、2 年生 4.14(標準偏差 0.93)、3 年生 4.17(標準偏差 0.98)、4 年生 4.23 (標準偏差 0.95) を示し、増加している。4 年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

変動係数は平均が 23.22%、12 学科が 23%を超え、相対的に高い数値を示し、良い傾向とは言えない。最も高いのは経営学科で 26.56%であり、最も低い書道学科 15.55%と、11.01%の差が生じている。5 段階および学科部局別の全学平均をみると改善されているという結果になってはいるが、学科間では大きな格差が生じていることが確認された。

Q 4 「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	279	4.26	0.90	21.11%
中国文学科	117	4.22	1.01	24.01%
英米文学科	333	4.10	1.02	24.79%
教育学科	412	4.09	1.02	24.90%
書道学科	128	4.59	0.71	15.55%
歴史文化学科	152	4.11	0.89	21.53%
社会経済学科	192	4.10	0.94	22.79%
現代経済学科	251	3.97	0.94	23.61%
中国語学科	288	4.16	0.88	21.22%
英語学科	761	4.34	0.90	20.81%
日本語学科	133	4.38	0.92	21.07%
法律学科	414	3.99	0.95	23.84%
政治学科	355	4.20	0.98	23.40%
国際関係学科	229	4.17	0.97	23.31%
国際文化学科	179	4.35	0.85	19.65%
経営学科	541	3.83	1.02	26.56%
スポーツ科学科	497	4.20	0.98	23.25%
健康科学科	308	4.11	0.97	23.55%
看護学科	210	4.23	1.01	23.93%
社会学科	569	4.03	0.95	23.56%
教職課程センター	151	4.25	0.86	20.28%
国際交流センター	60	4.30	0.86	20.05%
全学	6,559	4.15	0.96	23.22%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	3,296	4.13	0.98	23.66%
2	2,036	4.14	0.93	22.51%
3	862	4.17	0.98	23.55%
4	340	4.23	0.95	22.43%

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

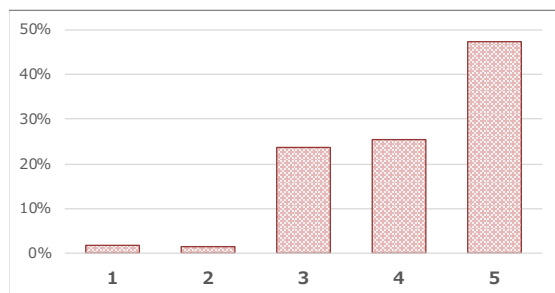
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.08%	1.08%	21.15%	24.37%	52.33%
中国文学科	2.56%	2.56%	19.66%	20.51%	54.70%
英米文学科	3.00%	2.10%	22.82%	26.13%	45.95%
教育学科	2.67%	2.43%	24.51%	24.27%	46.12%
書道学科	0.00%	0.78%	10.94%	17.19%	71.09%
歴史文化学科	0.00%	3.29%	24.34%	30.26%	42.11%
社会経済学科	1.56%	0.52%	28.13%	25.52%	44.27%
現代経済学科	2.39%	1.59%	26.29%	35.86%	33.86%
中国語学科	0.35%	1.74%	25.00%	27.78%	45.14%
英語学科	2.10%	0.79%	14.59%	26.54%	55.98%
日本語学科	2.26%	0.75%	15.04%	20.30%	61.65%
法律学科	1.21%	3.14%	28.99%	28.50%	38.16%
政治学科	2.54%	1.69%	20.00%	24.79%	50.99%
国際関係学科	1.75%	1.31%	25.76%	20.52%	50.66%
国際文化学科	0.56%	0.56%	20.11%	21.23%	57.54%
経営学科	3.14%	2.22%	36.04%	25.32%	33.27%
スポーツ科学科	2.21%	0.80%	23.94%	20.52%	52.52%
健康科学科	1.95%	2.60%	22.40%	28.25%	44.81%
看護学科	3.33%	0.95%	19.52%	21.43%	54.76%
社会学科	1.93%	0.70%	29.88%	27.24%	40.25%
教職課程センター	0.66%	0.66%	21.85%	27.15%	49.67%
国際交流センター	0.00%	3.33%	16.67%	26.67%	53.33%
全学	1.95%	1.56%	23.72%	25.45%	47.32%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	2.34%	1.52%	23.48%	25.76%	46.91%
2	1.28%	1.52%	25.15%	25.74%	46.32%
3	2.32%	1.51%	22.74%	24.01%	49.42%
4	1.47%	2.06%	21.18%	22.94%	52.35%

Q4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	128	1.95%
2	102	1.56%
3	1556	23.72%
4	1669	25.45%
5	3104	47.32%
合計	6559	

4.3.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[自分意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.11 (23 年度後期：4.07)、標準偏差 0.79 (23 年度後期：0.81) であり、2023 年度後期に比べてやや高い数値であった。学科別では 2023 年度後期と同様、書道学科 4.57 (標準偏差 0.62) が最も高かった (23 年度後期：平均値 4.41、標準偏差 0.68)。学科による平均値の幅(最大値 4.57－最小値 3.87)は 0.7 で小さくはない。部局の平均値では、教職課程センターが 4.29(標準偏差 0.68)と高かった (23 年度後期：平均 4.16、標準偏差 0.76)。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」49.32%、5「強くそう思う」32.77%と、4 と 5 の合計 82.09%と 8 割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、1 年生から 4 年生は 4.0 以上であり、4 年生 4.13 (標準偏差 0.77) が最も高い数値を表している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均 19.26%に対し、書道学科 13.61%、スポーツ科学科 15.97%と低い値を示す。一方で、経営学科 21.54%、現代経済学科 21.45%、社会学科 20.46%、教育学科 20.44%、政治学科 20.29%、法律学科 19.77%、部局では国際交流センター22.43%と 6 学科 1 部局が平均を超えている。最大で 7.93%の格差を生じている。

Q 5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	831	4.12	0.73	17.77%
中国文学科	294	4.23	0.73	17.21%
英米文学科	728	4.19	0.74	17.64%
教育学科	1,188	4.11	0.84	20.44%
書道学科	299	4.57	0.62	13.61%
歴史文化学科	504	4.10	0.73	17.74%
社会経済学科	544	4.06	0.76	18.68%
現代経済学科	704	3.87	0.83	21.45%
中国語学科	585	4.15	0.79	19.04%
英語学科	1,595	4.21	0.73	17.43%
日本語学科	277	4.17	0.79	18.97%
法律学科	1,453	3.98	0.79	19.77%
政治学科	975	4.04	0.82	20.29%
国際関係学科	582	4.14	0.77	18.67%
国際文化学科	415	4.19	0.73	17.36%
経営学科	1,651	3.94	0.85	21.54%
スポーツ科学科	1,197	4.37	0.70	15.97%
健康科学科	732	4.09	0.78	19.17%
看護学科	527	4.23	0.80	18.98%
社会学科	1,759	3.99	0.82	20.46%
教職課程センター	493	4.29	0.68	15.89%
国際交流センター	96	4.11	0.92	22.43%
全 学	17,429	4.11	0.79	19.26%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,473	4.11	0.80	19.47%
2	5,675	4.10	0.78	19.13%
3	2,418	4.12	0.79	19.13%
4	829	4.13	0.77	18.64%

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

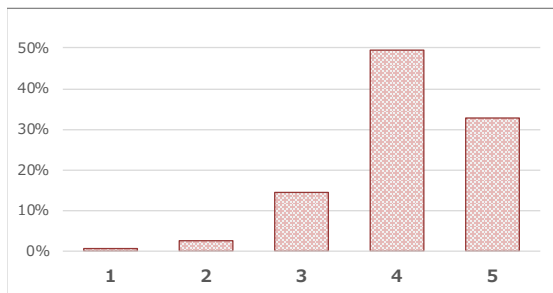
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.36%	1.68%	14.32%	52.95%	30.69%
中国文学科	0.34%	1.02%	12.59%	47.62%	38.44%
英米文学科	0.14%	2.06%	12.64%	49.04%	36.13%
教育学科	1.18%	2.53%	15.74%	45.20%	35.35%
書道学科	0.33%	0.67%	3.01%	34.11%	61.87%
歴史文化学科	0.20%	1.98%	14.88%	53.77%	29.17%
社会経済学科	0.55%	2.76%	14.34%	54.78%	27.57%
現代経済学科	0.85%	5.26%	20.88%	51.99%	21.02%
中国語学科	0.85%	1.71%	14.53%	47.18%	35.73%
英語学科	0.44%	1.69%	10.85%	50.03%	36.99%
日本語学科	0.36%	2.89%	13.36%	45.85%	37.55%
法律学科	0.69%	3.58%	17.27%	54.37%	24.09%
政治学科	0.92%	3.49%	15.79%	50.67%	29.13%
国際関係学科	0.34%	2.58%	14.09%	48.80%	34.19%
国際文化学科	0.00%	1.93%	13.01%	49.40%	35.66%
経営学科	1.03%	4.24%	20.35%	48.64%	25.74%
スポーツ科学科	0.42%	0.75%	7.94%	43.61%	47.28%
健康科学科	0.55%	2.87%	14.75%	50.68%	31.15%
看護学科	0.57%	2.85%	11.39%	43.26%	41.94%
社会学科	0.97%	3.47%	17.45%	51.34%	26.78%
教職課程センター	0.00%	1.42%	8.72%	49.70%	40.16%
国際交流センター	1.04%	6.25%	12.50%	40.63%	39.58%
全学	0.64%	2.69%	14.58%	49.32%	32.77%

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.66%	2.90%	14.41%	48.67%	33.35%
2	0.58%	2.59%	15.12%	50.11%	31.59%
3	0.70%	2.36%	14.43%	48.97%	33.54%
4	0.60%	2.29%	13.51%	50.78%	32.81%

Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	111	0.64%
2	469	2.69%
3	2541	14.58%
4	8596	49.32%
5	5712	32.77%
合計	17429	

4.3.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学の平均 4.51 と標準偏差 0.71 は、2023 年度後期の平均 4.49 と標準偏差 0.72 に比べてわずかに上昇しているが、ほぼ前年度の後期並みと言える。この平均値は、4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の中間点であり、学科部局別と全学の回答分布をみても、5 が 60.64%、4 が 31.36%であった。4 と 5 の合計が 92.00%という高い数値を示し、満足してよい結果であると言える。これはどの学科も同じ傾向にある。

学科別では書道学科の平均が 4.77(標準偏差 0.48)と最も高かった (23 年度後期も書道学科：平均 4.69、標準偏差 0.60)。部局では教職課程センターの平均が 4.70 (標準偏差 0.53) と高かった (23 年度後期：平均 4.49、標準偏差 0.72)。

学年別の平均では 4.5 以上の高い数値を示しており、4 年生の数値が最も高い(全学 4.58)。

変動係数からみると、学科間の格差は生じているものの、他の質問項目ほど大きい値ではない。とはいえ、全学平均 15.73%に対し、経営学科 19.06%、現代経済学科 18.26%、法律学科 17.66%、健康科学科 17.25%、社会学科 16.34%、社会経済学科 15.89%、看護学科 15.86%、部局では国際交流センターが 16.13%と平均を超えており、学科間の格差が確認された。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	832	4.57	0.60	13.08%
中国文学科	295	4.63	0.67	14.49%
英米文学科	730	4.58	0.63	13.86%
教育学科	1,192	4.51	0.69	15.33%
書道学科	300	4.77	0.48	10.11%
歴史文化学科	504	4.52	0.63	13.88%
社会経済学科	544	4.48	0.71	15.89%
現代経済学科	703	4.30	0.78	18.26%
中国語学科	585	4.49	0.69	15.42%
英語学科	1,599	4.56	0.66	14.57%
日本語学科	278	4.62	0.67	14.41%
法律学科	1,458	4.39	0.78	17.66%
政治学科	978	4.53	0.69	15.33%
国際関係学科	582	4.61	0.63	13.77%
国際文化学科	416	4.64	0.65	14.10%
経営学科	1,655	4.32	0.82	19.06%
スポーツ科学科	1,198	4.63	0.62	13.48%
健康科学科	733	4.47	0.77	17.25%
看護学科	529	4.49	0.71	15.86%
社会学科	1,758	4.47	0.73	16.34%
教職課程センター	494	4.70	0.53	11.35%
国際交流センター	96	4.55	0.73	16.13%
全学	17,459	4.51	0.71	15.73%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,483	4.50	0.72	16.10%
2	5,683	4.49	0.70	15.58%
3	2,427	4.55	0.68	15.01%
4	832	4.58	0.68	14.92%

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

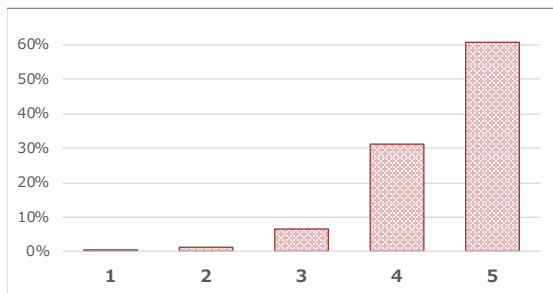
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	0.00%	5.65%	31.49%	62.86%
中国文学科	1.02%	0.00%	4.75%	23.39%	70.85%
英米文学科	0.27%	0.41%	5.07%	29.59%	64.66%
教育学科	0.42%	0.76%	6.63%	31.80%	60.40%
書道学科	0.00%	0.33%	1.67%	19.00%	79.00%
歴史文化学科	0.20%	0.40%	4.76%	36.90%	57.74%
社会経済学科	0.55%	0.92%	6.80%	33.27%	58.46%
現代経済学科	1.00%	1.42%	10.10%	41.96%	45.52%
中国語学科	0.17%	0.68%	8.38%	31.79%	58.97%
英語学科	0.31%	0.63%	5.94%	29.33%	63.79%
日本語学科	0.72%	1.08%	2.88%	25.90%	69.42%
法律学科	0.69%	2.13%	7.68%	36.21%	53.29%
政治学科	0.92%	0.51%	4.60%	32.62%	61.35%
国際関係学科	0.17%	0.69%	5.15%	25.95%	68.04%
国際文化学科	0.24%	1.44%	4.09%	22.60%	71.63%
経営学科	0.91%	2.78%	9.24%	37.58%	49.49%
スポーツ科学科	0.33%	0.50%	4.26%	25.88%	69.03%
健康科学科	0.68%	2.05%	7.09%	29.47%	60.71%
看護学科	0.00%	1.70%	7.75%	30.43%	60.11%
社会学科	0.40%	1.42%	7.57%	31.97%	58.65%
教職課程センター	0.20%	0.20%	2.02%	24.09%	73.48%
国際交流センター	0.00%	2.08%	8.33%	21.88%	67.71%
全学	0.47%	1.13%	6.40%	31.36%	60.64%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.52%	1.25%	6.83%	30.97%	60.44%
2	0.46%	0.99%	6.30%	33.43%	58.82%
3	0.29%	1.15%	5.69%	29.46%	63.41%
4	0.60%	0.84%	5.05%	26.92%	66.59%

Q6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	82	0.47%
2	197	1.13%
3	1118	6.40%
4	5475	31.36%
5	10587	60.64%
合計	17459	

4.3.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

この設問に対する全学の平均は 4.31(標準偏差：0.78)であり、2023 年度後期(平均 4.29、標準偏差 0.79)とほぼ同じ数値となっている。全体としてはまずまずの結果と言えるだろう。学科別の平均は前年度と同様、書道学科が 4.67 (標準偏差 0.53) と最も高く(23 年度後期：平均 4.59、標準偏差 0.60)、部局では教職課程センターが平均 4.51(標準偏差 0.64)であった(23 年度後期：平均 4.32、標準偏差 0.83)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」42.48%、5「強くそう思う」45.79%である。4 よりも 5 のほうが高くなっており、両方の合計が 88.27%と前年度後期(88.28%)とほぼ同じであった。ちなみに、4 よりも 5 の割合のほうが高かった学科は、高い順に書道学科 70.10%、スポーツ科学科 56.14%、国際文化学科 54.44%、看護学科 51.80%、国際関係学科 50.77%、英語学科 50.47%、中国文学科 49.49%、日本語学科 48.92%、健康科学科 48.77%、中国語学科 47.86%、日本文学科 47.72%、教育学科 45.76%であった。なかでも、書道学科は 7 割を超える高い数値を示しており、技術の習得が成長実感をもたらしていると考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター58.50%、国際交流センター51.04%であった。

学年別の回答分布を見ると、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは 4 年生 51.92%であった。

成長実感を変動係数からみると、全学平均 18.02%、平均を超えていたのが 9 学科 1 部局であった。現代経済学科 21.44%、国際交流センター22.27%、経営学科 19.74%、中国語学科 19.38%、社会経済学科 18.88%、法律学科 18.79%、社会学科 18.71%、政治学科 18.52%、中国文学科 18.40%、教育学科 18.38%が平均を超えていた。書道学科は 11.34%とばらつきが少ないことが示された。

Q 7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	832	4.36	0.71	16.25%
中国文学科	295	4.34	0.80	18.40%
英米文学科	730	4.28	0.74	17.31%
教育学科	1,191	4.30	0.79	18.38%
書道学科	301	4.67	0.53	11.34%
歴史文化学科	505	4.29	0.75	17.47%
社会経済学科	545	4.26	0.80	18.88%
現代経済学科	705	4.06	0.87	21.44%
中国語学科	585	4.29	0.83	19.38%
英語学科	1,597	4.39	0.72	16.34%
日本語学科	278	4.36	0.73	16.74%
法律学科	1,457	4.23	0.79	18.79%
政治学科	978	4.26	0.79	18.52%
国際関係学科	581	4.38	0.73	16.75%
国際文化学科	417	4.43	0.73	16.55%
経営学科	1,657	4.18	0.83	19.74%
スポーツ科学科	1,197	4.45	0.73	16.41%
健康科学科	732	4.35	0.76	17.42%
看護学科	529	4.39	0.74	16.92%
社会学科	1,759	4.23	0.79	18.71%
教職課程センター	494	4.51	0.64	14.07%
国際交流センター	96	4.25	0.95	22.27%
全学	17,461	4.31	0.78	18.02%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,488	4.29	0.80	18.61%
2	5,681	4.30	0.76	17.61%
3	2,426	4.35	0.75	17.20%
4	832	4.41	0.75	17.07%

Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

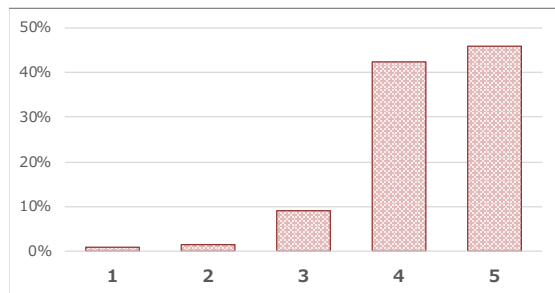
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.48%	0.48%	9.25%	42.07%	47.72%
中国文学科	1.36%	1.36%	8.47%	39.32%	49.49%
英米文学科	0.68%	1.23%	9.59%	46.71%	41.78%
教育学科	1.09%	1.68%	9.15%	42.32%	45.76%
書道学科	0.00%	0.00%	2.99%	26.91%	70.10%
歴史文化学科	0.59%	2.57%	6.53%	48.12%	42.18%
社会経済学科	2.20%	0.92%	6.79%	49.36%	40.73%
現代経済学科	2.13%	2.98%	13.48%	50.07%	31.35%
中国語学科	1.20%	1.37%	12.99%	36.58%	47.86%
英語学科	0.50%	1.00%	7.83%	40.20%	50.47%
日本語学科	0.36%	1.44%	8.63%	40.65%	48.92%
法律学科	1.10%	2.06%	10.02%	46.88%	39.95%
政治学科	1.12%	1.84%	9.20%	45.40%	42.43%
国際関係学科	0.34%	1.20%	9.47%	38.21%	50.77%
国際文化学科	0.72%	0.96%	7.43%	36.45%	54.44%
経営学科	1.27%	2.35%	11.95%	45.56%	38.87%
スポーツ科学科	0.84%	0.84%	6.77%	35.42%	56.14%
健康科学科	0.55%	2.05%	7.92%	40.71%	48.77%
看護学科	0.38%	1.89%	7.75%	38.19%	51.80%
社会学科	0.80%	2.44%	10.40%	46.05%	40.31%
教職課程センター	0.00%	0.61%	5.87%	35.02%	58.50%
国際交流センター	2.08%	3.13%	13.54%	30.21%	51.04%
全学	0.90%	1.64%	9.19%	42.48%	45.79%

Q 7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.00%	1.89%	9.93%	41.85%	45.33%
2	0.74%	1.60%	8.94%	44.43%	44.29%
3	0.78%	1.11%	8.57%	40.89%	48.64%
4	1.32%	0.96%	5.41%	40.38%	51.92%

Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	157	0.90%
2	286	1.64%
3	1605	9.19%
4	7418	42.48%
5	7995	45.79%
合計	17461	

4.3.9【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）であるQ8の結果をみると、全学の平均は8.19(標準偏差1.78)であり、まずは、8を超えているので「合格点」と言えるのではないだろうか。しかし、2023年度後期(平均8.26、標準偏差1.69)に比べて、僅かに減少している。学科別の平均では、その値が最も高かった学科は2023年度後期(平均8.98、標準偏差1.18)と同じく、書道学科であり、9.13(標準偏差1.30)を示している。部局の平均は教職課程センターが高く、8.63(標準偏差1.37)であった(23年度後期：平均8.13、標準偏差1.87)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、8が23.09%(23年度後期24.38%)、9が19.67%(23年度後期22.02%)、10が29.21%(23年度後期27.92%)である。8～10の合計は71.97%(23年度後期74.32%)となり、全体の7割以上を占めているが、2023年度後期の結果と比較すると、やや減少している。それでも最頻値10であり、全体としてはまずまずの結果と考えることができるだろう。

学科別では、10が全学平均値の29.21%を超える数値を示すのは、書道学科54.00%、スポーツ科学科42.53%、看護学科38.52%、日本語学科36.10%、英語学科33.54%、国際文化学科35.49%、中国文学科33.45%、中国語学科32.53%、国際関係学科32.01%、教育学科31.06%、英米文学科29.73%の11学科であった。書道学科は2～4までが0%であり、8～10の合計が90.33%と、概して満足度が高い。

2023年度後期に10の割合が平均値(27.92%)を超えたのは、書道学科44.76%、スポーツ科学科39.82%、日本語科33.22%、国際関係学科32.91%、看護学科31.98%、英語学科31.55%、英米文学科31.52%、日本文学科31.42%、歴史文化学科28.72%、国際文化学科28.33%の10学科であった。前年度後期よりも平均値を超えた学科が1学科増えている。

部局では、10の割合は教職課程センター34.42%、国際交流センター40.00%を示し、全学の平均値(29.21%)を上回っている。8～10の合計は教職課程センター81.67%、国際交流センター71.58%であった。

学年別では4年生が10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。

ただし、1と2の数値については注意が必要であろう。1の割合を学年別にみると、どの学年も2より1のほうが高い。さらに、1、2年生よりも3、4年生のほうが、1と2の合計値が高い。これは学年が上がるにつれて総合満足度の低い層が多くなっていることを示している。

変動係数から総合満足度をみると、他の質問項目に比べて相対的にやや高い数値を示し、良い傾向とは言えない。総合満足度に対する学生認識が、学科間で大きな格差を生じていることを意味する。数値が最も低いのは書道学科 14.20%、次いでスポーツ科学科 16.89%であった。これ以外は18%以上となる。現代経済学科 27.48%は、書道学科との差が13.28%と倍ちかい数値を示した。次いで高い値を示したのが、経営学科 25.15%、法律学科 24.87%、中国語学科 23.46%であった。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	829	8.32	1.61	19.35%
中国文学科	293	8.37	1.84	21.95%
英米文学科	730	8.28	1.69	20.45%
教育学科	1,188	8.24	1.80	21.81%
書道学科	300	9.13	1.30	14.20%
歴史文化学科	504	8.14	1.71	21.03%
社会経済学科	544	8.16	1.77	21.70%
現代経済学科	704	7.41	2.04	27.48%
中国語学科	584	8.10	1.90	23.46%
英語学科	1,595	8.42	1.63	19.32%
日本語学科	277	8.58	1.56	18.17%
法律学科	1,456	7.83	1.95	24.87%
政治学科	976	8.16	1.82	22.33%
国際関係学科	581	8.33	1.62	19.49%
国際文化学科	417	8.47	1.69	19.99%
経営学科	1,653	7.73	1.94	25.15%
スポーツ科学科	1,192	8.74	1.48	16.89%
健康科学科	732	8.18	1.78	21.82%
看護学科	527	8.50	1.65	19.46%
社会学科	1,750	8.04	1.71	21.32%
教職課程センター	491	8.63	1.37	15.88%
国際交流センター	95	8.28	2.05	24.75%
全学	17,418	8.19	1.78	21.73%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	8,463	8.13	1.83	22.56%
2	5,668	8.21	1.70	20.66%
3	2,423	8.31	1.78	21.41%
4	830	8.40	1.76	20.99%

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

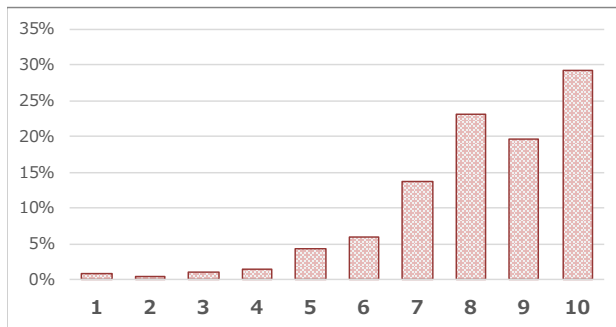
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.36%	0.36%	0.36%	1.33%	3.50%	6.63%	12.55%	23.52%	22.56%	28.83%
中国文学科	1.37%	0.68%	0.34%	2.05%	3.75%	3.41%	12.63%	18.43%	23.89%	33.45%
英米文学科	0.55%	0.55%	1.10%	0.96%	3.84%	4.11%	15.34%	23.29%	20.55%	29.73%
教育学科	0.84%	0.51%	1.26%	1.35%	3.62%	6.57%	13.30%	21.89%	19.61%	31.06%
書道学科	0.67%	0.00%	0.00%	0.00%	1.33%	1.67%	6.00%	13.00%	23.33%	54.00%
歴史文化学科	0.99%	0.20%	0.40%	0.79%	4.37%	9.52%	13.69%	23.21%	20.63%	26.19%
社会経済学科	1.10%	0.74%	1.29%	1.10%	2.57%	5.70%	15.44%	23.71%	22.98%	25.37%
現代経済学科	1.56%	0.71%	2.84%	4.12%	8.10%	9.52%	18.47%	22.59%	15.77%	16.34%
中国語学科	0.86%	0.51%	0.86%	1.88%	7.02%	7.02%	13.87%	20.21%	15.24%	32.53%
英語学科	0.56%	0.13%	0.38%	1.44%	3.45%	4.95%	12.54%	22.76%	20.25%	33.54%
日本語学科	0.36%	0.36%	0.72%	0.36%	3.25%	3.61%	10.83%	20.94%	23.47%	36.10%
法律学科	1.51%	0.76%	2.13%	2.27%	4.67%	6.87%	16.41%	24.86%	18.89%	21.63%
政治学科	1.54%	0.41%	0.92%	1.13%	4.30%	5.74%	12.50%	25.20%	21.21%	27.05%
国際関係学科	0.17%	0.34%	0.34%	1.38%	4.65%	5.51%	13.43%	24.10%	18.07%	32.01%
国際文化学科	0.48%	0.72%	1.20%	1.20%	2.40%	3.60%	11.51%	23.50%	19.90%	35.49%
経営学科	1.27%	0.91%	1.69%	2.60%	6.65%	7.20%	17.48%	25.65%	15.43%	21.11%
スポーツ科学科	0.42%	0.00%	0.42%	0.50%	2.18%	3.78%	9.31%	21.39%	19.46%	42.53%
健康科学科	0.82%	0.14%	1.09%	1.50%	5.74%	5.46%	15.44%	18.99%	22.40%	28.42%
看護学科	0.38%	0.19%	0.57%	0.76%	4.17%	6.26%	11.01%	19.92%	18.22%	38.52%
社会学科	0.51%	0.34%	1.20%	1.49%	5.26%	7.09%	14.57%	26.46%	19.89%	23.20%
教職課程センター	0.00%	0.20%	0.20%	0.81%	1.43%	4.07%	11.61%	23.63%	23.63%	34.42%
国際交流センター	0.00%	2.11%	2.11%	3.16%	4.21%	5.26%	11.58%	12.63%	18.95%	40.00%
全学	0.82%	0.44%	1.06%	1.54%	4.38%	5.99%	13.80%	23.09%	19.67%	29.21%

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.86%	0.53%	1.28%	1.78%	4.90%	6.19%	13.84%	22.65%	19.56%	28.41%
2	0.56%	0.32%	0.90%	1.29%	4.22%	6.23%	14.61%	23.48%	20.32%	28.07%
3	1.16%	0.41%	0.66%	1.32%	3.63%	5.53%	12.22%	23.90%	18.41%	32.77%
4	1.20%	0.36%	1.08%	1.45%	2.29%	3.73%	12.29%	23.01%	20.24%	34.34%

Q 8 「総合満足」に対する全学の回答分布

(1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回 答	回答者数	割 合
1	143	0.82%
2	77	0.44%
3	184	1.06%
4	268	1.54%
5	763	4.38%
6	1043	5.99%
7	2404	13.80%
8	4022	23.09%
9	3426	19.67%
10	5088	29.21%
合計	17418	

4.4.1 【クロス表に関する結果 (全学)】

当該クロス表(表 1、表 2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に 4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を計算した数字を記載している。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字に注目する(29→77→341→4167→9681)と、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著になる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

● クロス集計 (【自分意欲】×【教員熱意】) [回答数]

		自分意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教 員 熱 意	1 まったくそう思わない	24	9	20	14	15	82	29
	2 どちらかと言えばそう思わない	12	50	58	68	9	197	77
	3 どちらとも言えない	19	94	661	279	62	1,115	341
	4 どちらかと言えばそう思う	30	191	1,076	3,760	407	5,464	4,167
	5 強くそう思う	25	125	725	4,470	5,211	10,556	9,681
合 計		110	469	2,540	8,591	5,704	17,414	14,295

● クロス集計（〔自分の意欲〕×〔教員熱意〕）〔パーセント〕

		自分の意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えそう思う	5 強くそう思う		
教員熱意	1 まったくそう思わない	29.27%	10.98%	24.39%	17.07%	18.29%	100.00%	35.37%
	2 どちらかと言えそう思わない	6.09%	25.38%	29.44%	34.52%	4.57%	100.00%	39.09%
	3 どちらとも言えない	1.70%	8.43%	59.28%	25.02%	5.56%	100.00%	30.58%
	4 どちらかと言えそう思う	0.55%	3.50%	19.69%	68.81%	7.45%	100.00%	76.26%
	5 強くそう思う	0.24%	1.18%	6.87%	42.35%	49.37%	100.00%	91.71%

4.5.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正（負）の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字、強い正の相関関係を赤字で記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

最も重要な「総合満足度」に対しては、特に「成長実感 0.66」との間に強い正の相関関係がみられ、正の相関関係が強い順に「教員熱意 0.58」「自分の意欲 0.52」「FB 丁寧 0.50」「シラバス通りかどうか 0.49」となっている。ここから、「総合満足度」の向上に対しては、「成長実感を持てるかどうか」が項目の中で最も強い正の相関関係を示しており、次いで「教員熱意」「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

次に、その「成長実感」と関連性の強い項目順に見ていくと、「教員の熱意 0.60」との間に強い正の相関関係がみられ、その後、「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」と続く。ここから、「成長実感」の向上に対しては、「教員の熱意があるかどうか」が項目の中で最も強い正の相関関係を示しており、次いで「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」以外の他の変数が5点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は3点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、表1の相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数における関連性は、単純に2つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で統計的に判断することができない。

まとめると、「教員熱意」が「成長実感や学生の意欲向上」に繋がり、それらが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

● 相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【自分意欲】	【教員熱意】	【成長実感】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.00						
Q2	【難易度適切】	-0.07	1.00					
Q4	【FB丁寧】	0.45	-0.07	1.00				
Q5	【自分意欲】	0.40	-0.10	0.46	1.00			
Q6	【教員熱意】	0.48	-0.09	0.50	0.48	1.00		
Q7	【成長実感】	0.48	-0.13	0.50	0.56	0.60	1.00	
Q8	【総合満足】	0.49	-0.23	0.50	0.52	0.58	0.66	1.00

まとめと結論（教員所属別）

2024年度前期の主な結果をまとめると、以下のようになる。

1. シラバス内容を知っている学生(Q1a)は全学80.4%であった。この数値は2023年度後期の全学77.9%より増加しており、徐々に改善がみられる。シラバスは授業内容だけでなく、2023年度から星付けによってDPとの関連性が示され、カリキュラムの順次性や体系性がわかるようになってきている。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要があるだろう。
2. シラバス内容を知っている学生(Q1b)は、授業はシラバス通りに実施されたと概ね認識した。（最頻値：全学5、平均値：全学4.37）
3. 授業の難易度について(Q2)は「適切だった」という認識が最も多く、次に「やや難しかった」という認識が多かった。2023年度後期に引き続き、全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。

ただし、学年別回答分布の動向を2023年度後期と比較すると、留意すべき点がある。1年生から2年生までは3「適切だった」が増加している一方で、3年生と4年生は減少している。これに連動して、3年生と4年生は5「とても難しかった」が増加している。学年が進み専門科目が増えるにつれ、授業を難しいと捉えていることが示された。学科によっては一定の層が授業を易しいと捉えており、学力差が生じているとも言える。

全体の平均では改善はみられていても、変動係数に基づくと、学科間の相対的な格差がみられ、高い数値を示した学科は今後、改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

4. 質問をしたことのある学生(Q3)は、全学の平均で17.9%であった。2023年度後期に比べて、質問する学生が僅かながら増えており、良い傾向と言える(23年度後期平均：全学15.7%)。

5. 質問に対する対応は概ね「迅速である」(Q4)と認識されていた(最頻値：全学5、平均値：全学4.15)。全学の平均をみると、「迅速ではない」という認識している学生が、2023年後期に比べて大幅に減少している。しかし、変動係数は全質問項目のなかでは最も高く、学科間の格差が大きいことが確認された。学生の質問に対する教員の対応如何によって、学生の質問意欲が変わることを考えると、格差を縮小させる努力が必要だろう。
6. 学生は「熱意・意欲(Q5)」をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた(最頻値：全学4、平均値：全学4.11)。2023年度後期(平均値：全学4.07)と比較して、平均値がやや増加していることは良い傾向と言えるだろう。一方で変動係数をみると、学科間の格差が大きく、留意が必要である。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている(Q6)、と学生は概ね認識していた(最頻値＝全学5、平均値：全学4.51)。その平均値は2023年度後期(全学4.49)に比べて、やや上昇している。変動係数をみても、他の質問項目よりも平均が低く、学科間の格差がそれほど見られない。学生は教員に対して好意的な評価をしていると言える。
8. 学生自身の意欲の自己認識と、学生が感じる教員の熱意には、弱い正の相関関係が確認された。学生が教員熱意を感じようになると、連動して学生自身の意欲も向上するようになっていくと言える。ただし、相関係数表(全学0.48)から判断する限り、教員としては熱意をもって授業に取り組むことは当然として、熱意が学生に伝わるよう一層努力する必要があるだろう。
9. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識(Q7)は多くの学生が持っており、最頻値が2023年度後期と同じく5である。学年別では4年生が高い数値を示していた。全学的な平均から学生の成長実感は高く示されたとはいえ、変動係数からは、平均を超える学科が半数近くあることがわかる。学科間の格差の広がりにも留意が必要であろう。
10. すべてを総合して授業に概ね満足だと認識した学生(Q8：8～10を選んだ学生)は全学で71.97%となり、2023年度後期(74.32%)より減少している(最頻値：全学10、平均値：全学8.19)。さらに、満足度の低い1の割合が全学的に微増し、学年が上がるごとにこの傾向が強まることは無視できない。変動係数の平均値も20%を超え、低いとは言えず、学科間格差も大きく、今後の動向は注視する必要がある。
11. 「自分意欲」と「教員熱意」のクロス集計表をみると、教員の「強くそう思う」と学生の「どちらかと言えばそう思う」との関係は、全学42.35%であり、お互いに「強くそう思う」の関係は、全学49.37%を示し、それぞれ合わせると、全学91.71%となる。この結果から、2024年度前期も2023年度後期と同じく、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。
12. 「総合満足」に最も影響があるのは、相関係数表によると、全学は「成長実感」であり、次いで「教員の熱意」「自身の意欲」「フィードバックが丁寧かどうか」「シラバス通りかどうか」という順序であった。
13. 変動係数から各質問項目における学科間の格差を確認できる。特に、全学平均が20%を超えるのは、「Q2：授業の難易度」22.08%、「Q4：FB丁寧」23.22%、「Q8：総合満足度」21.73%であった。授業の難易度と総合満足度は学生の学力を反映していると考えられ、変動係数の大きい学科ほどバラツキが大きくなっていると言える。その分、授業における学生対応は難しくなるため、今後さらなる授業改善が求められるだろう。

【全学共通科目（学生所属別）】

2023 年度後期に引き続き、全学共通科目を対象に学生の所属学科ごとに、アンケート結果を集計し分析を行った。2024 年度前期から学科別に「変動係数」を算出し、格差があるか否かの検証を試みた。結果は次の通りである。

回答率が最も高かった学科は看護学科 64.21%であった。全学平均 34.23%は 2023 年度後期の 30.28%より 3.95%増加している。回答率が平均値以上である学科は、高い順に書道学科 51.49%、法律学科 47.74%、日本文学科 46.21%、歴史文化学科 43.98%、社会学科 42.91%、英米文学科 34.77%の 7 学科であった。20 学科中 13 学科が平均以下の回答率となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	414	482	896	46.21%
中国文学科	24	106	130	18.46%
英米文学科	186	349	535	34.77%
教育学科	157	342	499	31.46%
書道学科	69	65	134	51.49%
歴史文化学科	157	200	357	43.98%
社会経済学科	318	699	1,017	31.27%
現代経済学科	214	556	770	27.79%
中国語学科	97	238	335	28.96%
英語学科	221	582	803	27.52%
日本語学科	64	140	204	31.37%
法律学科	465	509	974	47.74%
政治学科	183	370	553	33.09%
国際関係学科	91	348	439	20.73%
国際文化学科	70	237	307	22.80%
経営学科	420	1,071	1,491	28.17%
スポーツ科学科	155	394	549	28.23%
健康科学科	78	197	275	28.36%
看護学科	183	102	285	64.21%
社会学科	227	302	529	42.91%
全学	3,793	7,289	11,082	34.23%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	2,447	3,220	5,667	43.18%
2	1,066	2,633	3,699	28.82%
3	142	611	753	18.86%
4	131	807	938	13.97%

【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。〔シラバス既知〕

2「知っている」と回答したのは全学平均 81.4%であった。比率が最も高かったのは、中国文学科 100.0%である(23 年度後期：国際関係学科 90.4%)。中国文学科は今回のアンケート自体への回答率は最も低かったが、回答者全員が「シラバス内容を知っている」を選んだことになる。授業にまじめに取り組む学生ほど、アンケートにもまじめに回答する傾向にあるようだ。

全学平均の 81.4%を超えている学科は、国際関係学科 95.6%、健康科学科 89.7%、国際

文化学科 88.6%、中国語学科 87.6%、政治学科 85.9%、看護学科 84.8%、社会経済学科 84.6%、日本文学科 82.9%、現代経済学科 82.8%、書道学科 82.6%、教育学科 82.4%、法律学科 82.3%、経営学科 82.1%となっている。

これに対して、1「知らない」という回答の平均は 18.6%であった。1 が最も高かった学科はスポーツ科学科 32.5%であった。平均値を超えていたのが、社会学科 28.8%、英語学科 26.2%、英米文学科 23.8%、歴史文化学科 22.2%、日本語学科 20.3%であり、この 6 学科の学生は他学科に比べ、シラバスを見ていないという結果になった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.1%	82.9%
中国文学科	0.0%	100.0%
英米文学科	23.8%	76.2%
教育学科	17.6%	82.4%
書道学科	17.4%	82.6%
歴史文化学科	22.2%	77.8%
社会経済学科	15.4%	84.6%
現代経済学科	17.2%	82.8%
中国語学科	12.4%	87.6%
英語学科	26.2%	73.8%
日本語学科	20.3%	79.7%
法律学科	17.7%	82.3%
政治学科	14.1%	85.9%
国際関係学科	4.4%	95.6%
国際文化学科	11.4%	88.6%
経営学科	17.9%	82.1%
スポーツ科学科	32.5%	67.5%
健康科学科	10.3%	89.7%
看護学科	15.2%	84.8%
社会学科	28.8%	71.2%
全学	18.6%	81.4%

学年	1	2
1	19.8%	80.2%
2	17.3%	82.7%
3	13.3%	86.7%
4	13.6%	86.4%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。

5「強くそう思う」と 4「どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計が最も大きい学科は国際文化学科 98.39%であった(23 年度後期：中国文学科 100%)。4 と 5 の比率の全学合計は 91.60%と、2023 年度後期(90.37%)よりもやや改善した。多くの学科が 91.60%を超えている一方で、英語学科 89.33%、教育学科 88.97%、英米文学科 87.67%、社会学科

86.67%、スポーツ科学科 86.29%、中国語学科 80.65%の 6 学科は 90%以下であった。

尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数をみると、全体的に他の質問項目と比較して低い水準になっている。最大値は中国語学科 18.41%、最小値は国際文化学科 11.63%であった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	353	4.46	0.64	14.31%
中国文学科	25	4.56	0.57	12.53%
英米文学科	146	4.34	0.74	17.14%
教育学科	136	4.43	0.77	17.46%
書道学科	59	4.39	0.64	14.54%
歴史文化学科	128	4.45	0.64	14.27%
社会経済学科	283	4.35	0.71	16.31%
現代経済学科	187	4.28	0.69	16.17%
中国語学科	93	4.23	0.78	18.41%
英語学科	178	4.42	0.71	16.03%
日本語学科	54	4.63	0.62	13.34%
法律学科	400	4.39	0.65	14.90%
政治学科	166	4.47	0.65	14.46%
国際関係学科	89	4.46	0.64	14.28%
国際文化学科	62	4.55	0.53	11.63%
経営学科	364	4.40	0.65	14.75%
スポーツ科学科	124	4.30	0.74	17.22%
健康科学科	73	4.49	0.58	12.83%
看護学科	160	4.61	0.57	12.40%
社会学科	180	4.27	0.71	16.70%
全学	3,260	4.40	0.68	15.39%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,077	4.41	0.68	15.44%
2	930	4.37	0.69	15.72%
3	130	4.44	0.59	13.40%
4	116	4.52	0.62	13.78%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.28%	0.57%	4.53%	42.21%	52.41%
中国文学科	0.00%	0.00%	4.00%	36.00%	60.00%
英米文学科	0.00%	2.05%	10.27%	39.04%	48.63%
教育学科	0.74%	1.47%	8.82%	32.35%	56.62%
書道学科	0.00%	0.00%	8.47%	44.07%	47.46%
歴史文化学科	0.00%	0.78%	5.47%	41.41%	52.34%
社会経済学科	0.71%	0.35%	8.48%	43.82%	46.64%
現代経済学科	0.53%	1.60%	5.88%	53.48%	38.50%
中国語学科	0.00%	1.08%	18.28%	37.63%	43.01%
英語学科	0.00%	1.12%	9.55%	35.96%	53.37%
日本語学科	0.00%	0.00%	7.41%	22.22%	70.37%
法律学科	0.00%	1.00%	6.50%	44.75%	47.75%
政治学科	0.00%	1.20%	4.82%	39.76%	54.22%
国際関係学科	0.00%	0.00%	7.87%	38.20%	53.93%
国際文化学科	0.00%	0.00%	1.61%	41.94%	56.45%
経営学科	0.27%	0.27%	6.59%	45.05%	47.80%
スポーツ科学科	0.00%	1.61%	12.10%	41.13%	45.16%
健康科学科	0.00%	0.00%	4.11%	42.47%	53.42%
看護学科	0.00%	0.00%	4.38%	30.63%	65.00%
社会学科	0.00%	1.11%	12.22%	45.00%	41.67%
全学	0.18%	0.80%	7.42%	41.53%	50.06%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2：授業難易度」の回答分布状況をみると、1「とても易しかった」1.77%（2023 年度後期 1.89%）、2「やや易しかった」2.69%（23 年度後期 3.20%）、3「適切だった」52.95%（23 年度後期 51.91%）、4「やや難しかった」32.89%（23 年度後期 33.99%）、5「とても難しかった」9.70%（23 年度後期 9.01%）と、1、3、5 が微増している。

3 と 4 の合計が最も高かったのは国際文化学科 91.43%（23 年度後期は中国文学科 97.37%）である。ただし、国際文化学科の学生は 4 の比率（51.43%）が 5 割を超えており、全学共通科目に対して、総じて「やや難しい」と感じていると言える。中国文学科では 20% の学生が 5 を選び（23 年後期 2.63%）、1 と 2 を選ぶ学生も合計 12%（23 年度後期 0%）いることから、授業の難易度の受け止め方が両極化していると考えられる。

3 と 4 の合計比率が 90%を超えるのは、国際文化学科を含め、日本語学科 90.63%と日本文学科 90.12%の 3 学科であった。さらに、1 と 2 の合計と 5 の数値を比較すると、両比率

が同率であるのは、国際文化学科 4.29%とスポーツ科学科 11.54%であった。これ以外は5のほうが高い。健康科学科は1と2の合計 14.10%、5は 8.97%であった。全学共通科目に対して「易しい」と捉えている学生が、健康科学科は他学科よりも多いことがわかる。

変動係数をみると全学平均は 22.42%であり、他の質問項目と比べても高い数値を示している。難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は注視する必要があるだろう。書道学科 18.70%と日本語学科 18.71%以外の学科は 20%を超えている。学科間の格差が大きく、中国文学科は 31.60%と高い数値を示した。

【全学共通科目〈学生所屬別〉】

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	3.43	0.71	20.81%
中国文学科	25	3.48	1.10	31.60%
英米文学科	185	3.56	0.76	21.40%
教育学科	157	3.55	0.81	22.77%
書道学科	69	3.64	0.68	18.70%
歴史文化学科	158	3.42	0.71	20.60%
社会経済学科	319	3.55	0.83	23.30%
現代経済学科	215	3.57	0.84	23.47%
中国語学科	97	3.51	0.84	23.93%
英語学科	220	3.51	0.80	22.81%
日本語学科	64	3.53	0.66	18.71%
法律学科	459	3.35	0.72	21.51%
政治学科	184	3.44	0.73	21.36%
国際関係学科	91	3.57	0.79	22.02%
国際文化学科	70	3.53	0.73	20.73%
経営学科	419	3.49	0.71	20.30%
スポーツ科学科	156	3.28	0.95	28.82%
健康科学科	78	3.18	0.93	29.26%
看護学科	184	3.46	0.77	22.31%
社会学科	229	3.34	0.73	21.80%
全学	3,794	3.46	0.78	22.42%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,443	3.45	0.79	22.94%
2	1,070	3.48	0.75	21.51%
3	143	3.48	0.77	21.97%
4	131	3.39	0.69	20.48%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.69%	1.69%	54.70%	35.42%	6.51%
中国文学科	8.00%	4.00%	40.00%	28.00%	20.00%
英米文学科	2.16%	0.54%	45.95%	41.62%	9.73%
教育学科	1.91%	1.27%	49.68%	33.76%	13.38%
書道学科	0.00%	0.00%	47.83%	40.58%	11.59%
歴史文化学科	1.27%	1.90%	56.96%	32.91%	6.96%
社会経済学科	1.88%	3.45%	44.83%	36.99%	12.85%
現代経済学科	1.86%	2.33%	47.91%	33.02%	14.88%
中国語学科	3.09%	0.00%	53.61%	29.90%	13.40%
英語学科	1.36%	2.27%	53.64%	29.55%	13.18%
日本語学科	0.00%	0.00%	56.25%	34.38%	9.38%
法律学科	1.31%	3.92%	59.69%	28.32%	6.75%
政治学科	0.54%	4.89%	52.72%	33.70%	8.15%
国際関係学科	1.10%	2.20%	48.35%	35.16%	13.19%
国際文化学科	2.86%	1.43%	40.00%	51.43%	4.29%
経営学科	0.48%	2.15%	53.94%	34.37%	9.07%
スポーツ科学科	5.77%	5.77%	54.49%	22.44%	11.54%
健康科学科	6.41%	7.69%	56.41%	20.51%	8.97%
看護学科	1.63%	2.72%	53.26%	32.61%	9.78%
社会学科	1.75%	3.49%	60.26%	27.95%	6.55%
全学	1.77%	2.69%	52.95%	32.89%	9.70%

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

1「ある」という回答の全学平均は 12.4%であった。この平均値を超えている学科は、国際文化学科 22.9%、英語学科 20.9%、政治学科 20.2%、日本語学科 18.8%、スポーツ科学学科 17.2%、中国文学科 16.0%、教育学科 16.0%、健康科学科 14.1%、中国語学科 13.7%、社会経済学科 13.5%、国際関係学科 13.3%、書道学科 13.0%、看護学科 12.8%の 13 学科であった。全学共通科目においては質問に関しては消極的な姿勢がみえる。

これに対して、2「したことがない」という回答の全学平均値は 87.6%である。法律学科 94.5%、歴史文化学科 93.5%、社会学科 90.7%、日本文学科 90.3%、経営学科 88.5%、現代経済学科 88.3%、英米文学科 87.8%で、7 学科は平均値を上回り、そのうち 4 学科は 9 割を超える結果となった。全学共通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	9.7%	90.3%
中国文学科	16.0%	84.0%
英米文学科	12.2%	87.8%
教育学科	16.0%	84.0%
書道学科	13.0%	87.0%
歴史文化学科	6.5%	93.5%
社会経済学科	13.5%	86.5%
現代経済学科	11.7%	88.3%
中国語学科	13.7%	86.3%
英語学科	20.9%	79.1%
日本語学科	18.8%	81.3%
法律学科	5.5%	94.5%
政治学科	20.2%	79.8%
国際関係学科	13.3%	86.7%
国際文化学科	22.9%	77.1%
経営学科	11.5%	88.5%
スポーツ科学科	17.2%	82.8%
健康科学科	14.1%	85.9%
看護学科	12.8%	87.2%
社会学科	9.3%	90.7%
全学	12.4%	87.6%

学年	1	2
1	12.5%	87.5%
2	11.9%	88.1%
3	11.2%	88.8%
4	17.6%	82.4%

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」を選んだ学生のみが回答した。5「強くそう思う」と4「どちらかと言えばそう思う」の比率の合計は68.32%であった。2023年度後期の合計51.09%よりも大幅に増加した。この68.32%を超える学科は、日本語学科95.00%、看護学科83.64%、英語学科81.40%、書道学科80.77%、政治学科77.50%、国際文化学科77.42%、健康科学科75.00%、教育学科72.41%の8学科であった。

一方で、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は全学で3.14%であった。2023年度後期19.59%に比べると大幅に減少した。学科別の合計が3.14%を超えているのは、中国語学科11.11%、国際関係学科9.38%、英米文学科8.20%、スポーツ科学科7.35%、現代経済学科5.41%、中国語学科4.76%、健康科学科3.57%、教育学科3.45%の8学科であった。

変動係数をみると、教員所属別と同じく、他の項目に比べて相対的に高い数値が確認され

た。中国文学科が 33.33% という高い係数を示した。質問する学生数が少なかったとはいえ、質問対応の格差の大きさをみる限り、適切な対応が求められる。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	83	4.00	0.92	22.96%
中国文学科	9	4.00	1.33	33.33%
英米文学科	61	3.95	1.17	29.50%
教育学科	58	4.12	0.95	23.01%
書道学科	26	4.46	0.80	17.83%
歴史文化学科	33	3.94	0.89	22.48%
社会経済学科	107	3.98	0.92	23.03%
現代経済学科	74	3.92	1.02	26.12%
中国語学科	42	3.86	1.01	26.28%
英語学科	86	4.33	0.91	20.99%
日本語学科	20	4.70	0.56	11.85%
法律学科	119	3.89	0.91	23.51%
政治学科	80	4.29	0.81	18.87%
国際関係学科	32	3.91	1.23	31.59%
国際文化学科	31	4.32	0.82	18.94%
経営学科	139	4.04	0.96	23.85%
スポーツ科学科	68	3.96	1.13	28.57%
健康科学科	28	4.14	0.87	21.12%
看護学科	55	4.40	0.87	19.67%
社会学科	58	4.07	0.96	23.65%
全学	1,209	4.08	0.97	23.89%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	794	4.04	0.99	24.62%
2	322	4.16	0.92	22.13%
3	39	3.90	1.06	27.13%
4	49	4.31	0.84	19.46%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.00%	2.41%	34.94%	22.89%	39.76%
中国文学科	11.11%	0.00%	22.22%	11.11%	55.56%
英米文学科	6.56%	1.64%	26.23%	21.31%	44.26%
教育学科	1.72%	1.72%	24.14%	27.59%	44.83%
書道学科	0.00%	0.00%	19.23%	15.38%	65.38%
歴史文化学科	0.00%	3.03%	33.33%	30.30%	33.33%
社会経済学科	0.93%	0.93%	34.58%	26.17%	37.38%
現代経済学科	4.05%	1.35%	28.38%	31.08%	35.14%
中国語学科	2.38%	2.38%	38.10%	21.43%	35.71%
英語学科	2.33%	0.00%	16.28%	25.58%	55.81%
日本語学科	0.00%	0.00%	5.00%	20.00%	75.00%
法律学科	0.84%	0.84%	40.34%	24.37%	33.61%
政治学科	0.00%	0.00%	22.50%	26.25%	51.25%
国際関係学科	9.38%	0.00%	25.00%	21.88%	43.75%
国際文化学科	0.00%	0.00%	22.58%	22.58%	54.84%
経営学科	1.44%	1.44%	31.65%	23.02%	42.45%
スポーツ科学科	4.41%	2.94%	30.88%	16.18%	45.59%
健康科学科	0.00%	3.57%	21.43%	32.14%	42.86%
看護学科	1.82%	0.00%	14.55%	23.64%	60.00%
社会学科	1.72%	0.00%	32.76%	20.69%	44.83%
全学	1.99%	1.16%	28.54%	23.99%	44.33%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[自分意欲]

「Q5：学生の意欲／熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計が81.51%と、2023年度後期(79.93%)より高かった。学科別で最も高かったのが健康科学科92.31%であった。健康科学科以外では、4と5の合計が全学合計の81.51%を上回る学科は、国際文化学科91.43%、日本語学科90.48%、中国文学科88.00%、国際関係学科87.78%、政治学科85.87%、日本文学科85.54%、英語学科85.07%、歴史文化学科83.54%、法律学科83.37%、看護学科82.07%であった。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は3.63%と、2023年度後期(4.25%)よりもやや低くなった。一方で、この3.63%を超える学科は、書道学科7.35%、経営学科6.44%、中国語学科6.19%、社会学科5.70%、現代経済学科5.14%、スポーツ科学科5.10%、社会経済学科4.09%、中国文学科4.00%、英米文学科3.76%の9学科であった。国際文化学科は0%であった。

変動係数に基づいて判断する限り、学科の格差は明らかである。その係数を最も高く示しているのは書道学科 22.96%であり、全学共通科目に対する意欲のバラツキが示された。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	4.14	0.81	19.64%
中国文学科	25	4.32	0.93	21.44%
英米文学科	186	4.08	0.79	19.46%
教育学科	159	4.08	0.79	19.42%
書道学科	68	4.25	0.98	22.96%
歴史文化学科	158	4.07	0.69	16.84%
社会経済学科	318	3.93	0.79	20.20%
現代経済学科	214	3.94	0.79	19.95%
中国語学科	97	3.87	0.86	22.17%
英語学科	221	4.19	0.78	18.56%
日本語学科	63	4.35	0.69	15.95%
法律学科	463	4.08	0.73	17.82%
政治学科	184	4.18	0.72	17.24%
国際関係学科	90	4.19	0.66	15.87%
国際文化学科	70	4.33	0.63	14.47%
経営学科	419	4.02	0.86	21.35%
スポーツ科学科	157	4.12	0.93	22.64%
健康科学科	78	4.37	0.66	15.15%
看護学科	184	4.25	0.80	18.88%
社会学科	228	4.02	0.91	22.60%
全学	3,797	4.09	0.81	19.67%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,449	4.11	0.79	19.32%
2	1,068	4.06	0.84	20.72%
3	141	4.02	0.84	20.83%
4	132	4.23	0.68	16.11%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.93%	1.45%	11.08%	51.57%	33.98%
中国文学科	4.00%	0.00%	8.00%	36.00%	52.00%
英米文学科	0.54%	3.23%	15.05%	50.54%	30.65%
教育学科	0.63%	1.26%	20.13%	45.28%	32.70%
書道学科	1.47%	5.88%	11.76%	27.94%	52.94%
歴史文化学科	0.00%	1.90%	14.56%	58.23%	25.32%
社会経済学科	0.63%	3.46%	21.07%	51.89%	22.96%
現代経済学科	0.93%	4.21%	15.89%	57.94%	21.03%
中国語学科	0.00%	6.19%	25.77%	43.30%	24.74%
英語学科	1.36%	0.45%	13.12%	48.42%	36.65%
日本語学科	0.00%	1.59%	7.94%	44.44%	46.03%
法律学科	0.22%	2.59%	13.82%	56.16%	27.21%
政治学科	0.00%	2.17%	11.96%	51.09%	34.78%
国際関係学科	0.00%	1.11%	11.11%	55.56%	32.22%
国際文化学科	0.00%	0.00%	8.57%	50.00%	41.43%
経営学科	0.48%	5.97%	15.04%	47.97%	30.55%
スポーツ科学科	1.27%	3.82%	19.11%	33.12%	42.68%
健康科学科	0.00%	1.28%	6.41%	46.15%	46.15%
看護学科	0.54%	1.09%	16.30%	36.96%	45.11%
社会学科	2.63%	3.07%	15.35%	47.81%	31.14%
全学	0.82%	2.82%	14.85%	49.28%	32.24%

【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6：教員の意欲/熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計が92.95%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。スポーツ科学科89.17%、中国語学科86.60%、教育学科86.16%の3学科以外の学科は90%以上の高い比率を示している。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計が中国文学科4.00%と国際関係学科2.20%であったが、この2学科以外は2%未満であった。書道学科、歴史文化学科、日本語学科、国際文化学科、健康科学科、看護学科は1と2の合計は0%であり、教員の授業における熱意を高く評価している結果となった。

変動係数をみると、全学平均が14.94%と、他の質問項目よりも低い数値であった。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きい値ではなく良い傾向と言えるだろう。ただし、中国文学科(20.08%)は、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	415	4.54	0.67	14.86%
中国文学科	25	4.48	0.90	20.08%
英米文学科	186	4.55	0.65	14.24%
教育学科	159	4.40	0.77	17.49%
書道学科	69	4.74	0.50	10.57%
歴史文化学科	158	4.56	0.57	12.47%
社会経済学科	319	4.51	0.68	14.98%
現代経済学科	215	4.38	0.72	16.38%
中国語学科	97	4.40	0.74	16.84%
英語学科	220	4.55	0.69	15.12%
日本語学科	64	4.66	0.59	12.72%
法律学科	464	4.53	0.62	13.66%
政治学科	184	4.63	0.58	12.62%
国際関係学科	91	4.58	0.71	15.54%
国際文化学科	70	4.64	0.54	11.53%
経営学科	419	4.47	0.73	16.31%
スポーツ科学科	157	4.46	0.74	16.48%
健康科学科	78	4.55	0.63	13.92%
看護学科	184	4.61	0.61	13.17%
社会学科	228	4.43	0.70	15.81%
全学	3,802	4.52	0.68	14.94%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,450	4.52	0.67	14.77%
2	1,070	4.50	0.70	15.46%
3	143	4.52	0.70	15.43%
4	132	4.63	0.62	13.40%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.48%	1.20%	3.86%	32.53%	61.93%
中国文学科	4.00%	0.00%	4.00%	28.00%	64.00%
英米文学科	0.54%	0.54%	3.76%	33.87%	61.29%
教育学科	0.00%	1.89%	11.95%	30.19%	55.97%
書道学科	0.00%	0.00%	2.90%	20.29%	76.81%
歴史文化学科	0.00%	0.00%	3.80%	36.71%	59.49%
社会経済学科	0.31%	0.31%	7.52%	31.66%	60.19%
現代経済学科	0.93%	0.47%	6.98%	42.79%	48.84%
中国語学科	0.00%	1.03%	12.37%	31.96%	54.64%
英語学科	0.91%	0.00%	5.91%	29.09%	64.09%
日本語学科	0.00%	0.00%	6.25%	21.88%	71.88%
法律学科	0.22%	0.43%	4.09%	36.85%	58.41%
政治学科	0.00%	0.54%	3.80%	27.72%	67.93%
国際関係学科	1.10%	1.10%	3.30%	27.47%	67.03%
国際文化学科	0.00%	0.00%	2.86%	30.00%	67.14%
経営学科	0.48%	1.43%	6.92%	33.41%	57.76%
スポーツ科学科	0.00%	1.91%	8.92%	29.94%	59.24%
健康科学科	0.00%	0.00%	7.69%	29.49%	62.82%
看護学科	0.00%	0.00%	6.52%	26.09%	67.39%
社会学科	0.44%	0.88%	7.02%	38.60%	53.07%
全学	0.37%	0.71%	5.97%	32.64%	60.31%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

「Q7：成長実感」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計は88.56%を示し、2023年度後期の88.31%から微増している。

一方で、経営学科88.10%、中国文学科88.00%、英語学科87.78%、社会経済学科86.79%、現代経済学科86.51%、英米文学科84.95%、スポーツ科学科84.08%、教育学科83.02%、社会学科82.89%、中国語学科81.44%の10学科が平均を下回った。とはいえ、8割以上の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。書道学科と国際文化学科は1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が0%と、全学共通科目を通じての学びを高く評価していると言える。

変動係数をみると、全学平均17.49%であった。20%を超えたのは中国語学科20.75%と社会学科20.02%の2学科で、この2学科以外は比較的ばらつきが少ない結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	414	4.40	0.69	15.77%
中国文学科	25	4.40	0.80	18.18%
英米文学科	186	4.22	0.77	18.22%
教育学科	159	4.30	0.76	17.63%
書道学科	69	4.62	0.57	12.27%
歴史文化学科	158	4.31	0.76	17.69%
社会経済学科	318	4.23	0.78	18.39%
現代経済学科	215	4.18	0.80	19.27%
中国語学科	97	4.21	0.87	20.75%
英語学科	221	4.30	0.79	18.40%
日本語学科	64	4.44	0.68	15.36%
法律学科	464	4.36	0.68	15.54%
政治学科	184	4.41	0.71	16.08%
国際関係学科	91	4.42	0.71	16.12%
国際文化学科	70	4.53	0.58	12.78%
経営学科	420	4.29	0.75	17.41%
スポーツ科学科	157	4.29	0.81	19.00%
健康科学科	78	4.33	0.75	17.20%
看護学科	184	4.32	0.77	17.90%
社会学科	228	4.15	0.83	20.02%
全学	3,802	4.31	0.75	17.49%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,450	4.30	0.76	17.70%
2	1,070	4.31	0.76	17.53%
3	143	4.41	0.75	17.03%
4	132	4.55	0.58	12.77%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.72%	0.97%	4.83%	44.20%	49.28%
中国文学科	0.00%	4.00%	8.00%	32.00%	56.00%
英米文学科	0.54%	1.61%	12.90%	45.16%	39.78%
教育学科	0.00%	0.63%	16.35%	35.22%	47.80%
書道学科	0.00%	0.00%	4.35%	28.99%	66.67%
歴史文化学科	1.27%	1.27%	6.96%	46.20%	44.30%
社会経済学科	1.26%	0.94%	11.01%	46.86%	39.94%
現代経済学科	1.40%	2.33%	9.77%	50.23%	36.28%
中国語学科	1.03%	3.09%	14.43%	37.11%	44.33%
英語学科	1.36%	0.90%	9.95%	42.08%	45.70%
日本語学科	0.00%	1.56%	6.25%	39.06%	53.13%
法律学科	0.00%	1.08%	8.19%	44.18%	46.55%
政治学科	0.54%	0.54%	8.15%	38.59%	52.17%
国際関係学科	1.10%	0.00%	6.59%	40.66%	51.65%
国際文化学科	0.00%	0.00%	4.29%	38.57%	57.14%
経営学科	0.48%	1.67%	9.76%	44.76%	43.33%
スポーツ科学科	0.64%	1.91%	13.38%	36.31%	47.77%
健康科学科	1.28%	0.00%	8.97%	43.59%	46.15%
看護学科	1.09%	1.63%	7.61%	43.48%	46.20%
社会学科	1.32%	2.19%	13.60%	45.61%	37.28%
全学	0.74%	1.29%	9.42%	43.08%	45.48%

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として 10 段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

「Q8：総合満足」は、8 から 10 までの比率を合計すると、全学平均は 73.21%となり、2023 年度後期の 74.72%に比べてやや減少した。各学科の回答は 67.76%(現代経済学科)から 87.14%(国際文化学科)の間に分布している。その中で、全学平均の 73.21%を下回るのは、英語学科 72.40%、スポーツ科学科 72.26%、国際関係学科 71.43%、社会経済学科 71.07%、英米文学科 70.97%、法律学科 70.97%、教育学科 69.43%、中国語学科 69.08%、社会学科 67.84%、現代経済学科 67.76%の 10 学科であった。8 から 10 までの比率の合計でみると、20 学科中 10 学科が平均を下回った。

これを 7 から 10 に広げると、全学平均は 87.11%となる。9 割には満たないが、全体としてはまずまずの結果となる。

ただし、各評価ごとに前年度後期と比較して増減をみると留意すべき点がある。1 の全学

平均 0.55% (23 年度後期 0.22%)、2 は 0.32% (同 0.15%)、3 は 0.69% (同 0.62%)、4 は 1.27% (同 0.98%)、5 は 4.30% (同 3.81%)、6 は 5.77% (同 5.48%)、7 は 13.89% (同 14.02%)、8 は 23.10% (同 24.52%)、9 は 19.59% (同 21.07%)、10 は 30.53% (同 29.13%) という結果となった。1 から 6 までのすべての評価が増加しており、8 と 9 で減少している。すなわち、総合満足度の低い層が増え、高い層が減少していることになる。現状は微増減であるが、明らかに傾向として表れていることに留意が必要であろう。

変動係数をみると、全学共通科目の総合満足は、学科間に大きな格差が生じていることが確認できる。全学平均 20.40% に対し、中国語学科 24.41%、社会学科 23.03%、英語学科 22.65%、教育学科 22.25%、社会経済学科 22.10%、スポーツ科学科 21.57%、現代経済学科 21.31%、経営学科 21.21%、英米文学科 21.00% の 9 学科が高い値を示した。最も低い国際文化学科 12.39% と最も数値の高い中国語学科 24.41% では、およそ倍の格差が生じている。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	414	8.41	1.63	19.40%
中国文学科	24	8.71	1.74	20.02%
英米文学科	186	8.08	1.70	21.00%
教育学科	157	8.21	1.83	22.25%
書道学科	69	8.74	1.44	16.49%
歴史文化学科	157	8.43	1.56	18.57%
社会経済学科	318	8.03	1.77	22.10%
現代経済学科	214	8.00	1.70	21.31%
中国語学科	97	8.01	1.96	24.41%
英語学科	221	8.35	1.89	22.65%
日本語学科	64	8.55	1.35	15.74%
法律学科	465	8.24	1.52	18.42%
政治学科	183	8.56	1.46	17.04%
国際関係学科	91	8.42	1.58	18.73%
国際文化学科	70	8.73	1.08	12.39%
経営学科	420	8.29	1.76	21.21%
スポーツ科学科	155	8.25	1.78	21.57%
健康科学科	78	8.53	1.48	17.39%
看護学科	183	8.46	1.68	19.87%
社会学科	227	8.01	1.84	23.03%
全学	3,793	8.28	1.69	20.40%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,447	8.26	1.69	20.51%
2	1,066	8.24	1.71	20.70%
3	142	8.45	1.60	18.98%
4	131	8.72	1.42	16.30%

【全学共通科目〈学生所屬別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.72%	0.00%	0.72%	1.45%	2.66%	5.31%	11.35%	24.15%	21.50%	32.13%
中国文学科	0.00%	0.00%	0.00%	4.17%	4.17%	4.17%	12.50%	4.17%	20.83%	50.00%
英米文学科	0.54%	0.00%	1.61%	1.08%	4.84%	7.53%	13.44%	29.57%	16.13%	25.27%
教育学科	0.00%	0.64%	0.64%	1.91%	7.64%	7.64%	12.10%	19.11%	14.65%	35.67%
書道学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	2.90%	5.80%	13.04%	17.39%	14.49%	46.38%
歴史文化学科	0.64%	0.64%	0.00%	0.64%	1.91%	5.73%	12.10%	27.39%	19.11%	31.85%
社会経済学科	0.94%	0.31%	0.94%	2.20%	5.03%	6.60%	12.89%	28.93%	18.24%	23.90%
現代経済学科	0.47%	0.47%	0.93%	2.34%	3.74%	7.94%	16.36%	27.10%	18.22%	22.43%
中国語学科	0.00%	2.06%	0.00%	0.00%	16.49%	3.09%	9.28%	20.62%	18.56%	29.90%
英語学科	1.81%	0.00%	0.45%	0.45%	5.88%	6.33%	12.67%	16.29%	17.65%	38.46%
日本語学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.13%	4.69%	14.06%	21.88%	25.00%	31.25%
法律学科	0.00%	0.43%	1.08%	1.08%	2.37%	4.30%	19.78%	22.58%	25.16%	23.23%
政治学科	0.00%	0.00%	0.55%	0.55%	2.19%	6.56%	12.57%	19.67%	22.95%	34.97%
国際関係学科	1.10%	0.00%	0.00%	0.00%	2.20%	5.49%	19.78%	16.48%	23.08%	31.87%
国際文化学科	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.43%	11.43%	32.86%	21.43%	32.86%
経営学科	0.48%	0.48%	0.95%	1.67%	5.00%	5.24%	11.90%	22.86%	19.05%	32.38%
スポーツ科学科	0.65%	0.65%	0.00%	0.65%	8.39%	5.16%	12.26%	21.29%	18.06%	32.90%
健康科学科	0.00%	0.00%	1.28%	0.00%	2.56%	3.85%	14.10%	26.92%	14.10%	37.18%
看護学科	0.55%	0.00%	0.00%	1.64%	3.83%	6.56%	14.21%	18.03%	14.75%	40.44%
社会学科	1.32%	0.44%	0.88%	2.20%	4.41%	7.05%	15.86%	23.35%	19.82%	24.67%
全学	0.55%	0.32%	0.69%	1.27%	4.30%	5.77%	13.89%	23.10%	19.59%	30.53%

まとめと結論（全学共通科目・学生所屬別）

2023 年度後期に続き、学生の所属を軸に全学共通科目のみを対象として集計を行った。全学共通科目は 1、2 年生の履修者が多いことから、各学科の 1、2 年生の傾向がうかがえる結果となった。

1. 全学共通科目は幅広い知識を得る機会であり、学生自身の知的な世界を広げる第一歩となる。学生の関心に沿って自由に選択できる科目であるがゆえに、シラバスは重要な役割を果たす。内容だけでなく授業方法、星付けによって DP との関連性等も明記される等、シラバス自体も改善が図られている。学生が自身の学びを体系立てて理解するうえでもシラバスの確認は重要であろう。「シラバス内容を知っている」学生が、2023 年度後期の全学平均 78.2%と比較すると、今回は 81.4%と僅かでも増加したのは良い傾向といえる。
2. 授業での質問の有無については「質問したことがない」学生が 87.6%と依然として高数値を示している。受講者の多い全学共通科目は学生が受け身になりがちで、教員との距離も生じやすいが、2023 年度後期(90.3%)に比べると「質問したことがない」割合が減少しており、良い傾向と言える。
3. 授業難易度に関しては、「適切」あるいは「やや難しい」と捉えている学生が大半であっ

た。その一方で、「とても難しい」と捉えている層が多い学科と、逆に「とても易しい」「やや易しい」と捉えている層が一定数を占める学科があり、学科間の相違が顕著となった。これは昨年同様である。一つの学科内で「易しい」と「難しい」と捉える層の二極化の傾向がみられる学科もあり、各学科の補習授業や初年次教育、補充教育を通した丁寧な対応が、今まで以上に求められることになりそうだ。難易度については、今後も推移をみる必要があるだろう。

変動係数をみると全学平均は 22.42%であった。これは他の質問項目の平均値と比べても、「質問への対応」に次いで高い数値を示し、良い傾向とは言えない。学科間の格差も大きく、全学共通科目の授業の難易度の受け止め方は、主として1年生、2年生の学力のばらつきを反映していると考えられる。

4. 教員の意欲や熱意は 4 と 5 の合計は 92.95%と高い数値を示している。2023 年度後期の 92.66%と比較しても微増しており、20 学科中 17 学科の学生が、教員の熱意を高く評価している。多数の履修者を抱えている授業が多いなかで、教員による授業の工夫と授業改善の努力や熱意が学生に伝わっている結果であろう。

変動係数は他の質問項目よりも低い数値を示し、学科間の格差は生じているものの、大きい値ではない。学生が教員の熱意に対して好意的な見方をしていると言えるだろう。

5. 成長実感は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の合計が 2023 年度後期から微増している。一部の学科では、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が 0%と、全学共通科目を通じての学びを高く評価していると言える。変動係数も比較的ばらつきが少ない結果となった。

6. 総合満足度に関しては、今後の推移を注視する必要があるだろう。昨年度よりも満足度の低い層が増加しており、逆に満足度の高い層が減少している。微増減とはいえ、この傾向は無視できない。各評価を合計した数字だけをみると、まずまずの結果となるが、詳細をみると満足度が落ちてきていることがわかる。

授業の難易度についても二極化の傾向が見え、近年の学生の学力との関連性がないとはいえないだろう。教員の意欲や熱意は学生に伝わってはいても、授業についていけない層と物足りない層が一定数いることから、教員側の思いが空回りしているとも言える。2025 年度には新学習指導要領のもとで学んだ高校生が入学してくることから、全学共通科目にはその影響が出てくる可能性は否定できないだろう。教員側も学生の動向をみながら、さらなる工夫が必要となりそうだ。授業難易度、および総合満足度の変動係数が相対的に高いことから、今後どのように推移するのか注視していく必要があるだろう。

7. 「Q2：授業の難易度」、「Q4：FB丁寧」、「Q8：総合満足度」における変動係数は、他の質問項目に比べて相対的に高い数値が確認された。全学共通科目を履修する学生（主として1年生、2年生）の授業に対する姿勢や認識が大きくばらついていることを示している。

以上

2.2 2024 年度後期・学生による授業認識アンケート

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てることを目的として実施した。

2. 実施の対象

- (1) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とした。
- (2) 対象科目は教員（専任・非常勤を問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とした。
- (3) 実施対象科目を全学FD委員会にて選定し、各学部学科にて精査したうえ決定とした。

3. アンケート項目

2024年度後期の授業に関する学生の授業認識アンケートは以下の項目の通りであった。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

2) はい（おおよそ）知っています → Q1b に

1) いいえ（あまりよく）知りません → Q1b はとばして Q2 に

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

5) 強く思う 4) どちらかと言えば思う 3) どちらとも言えない

2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

5) とても難しかった 4) やや難しかった 3) 適切だった

2) やや易しかった 1) とても易しかった

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

Y) はい、あります → Q4 に

N) いいえ、したことはありません → Q4 はとばして Q5 に

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。

- 5) 強く思う 4) どちらかと言えば思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

- 5) 強く思う 4) どちらかと言えば思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

- 5) 強く思う 4) どちらかと言えば思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【成長実感】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」
あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

- 5) 強く思う 4) どちらかと言えば思う 3) どちらとも言えない
2) どちらかと言えばそう思わない 1) まったくそう思わない

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10を「100%満足」、1
を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んでください。

- 10) 10 9) 9 8) 8 ・ ・ ・ 3) 3 2) 2 1) 1

【自由記述】

Q9a 授業について良かった点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)

Q9b 授業について困った点があれば具体的に書いてください。(授業担当教員が直接読み
ます)。

4. 結果

4.1 対象科目数と対象人数

対象科目数は 877 科目、対象延べ学生数（各対象科目内の履修者数の合計）は 9,617 人、実際に回答した延べ学生数は 15,581 人であった。2023 年度に重回帰分析からクロス集計へと分析方法を変更しており、今年度は前年度と結果を比較し傾向や改善点を確認することができた。2023 年度と同じく、各設問の相関関係を示し、全学的な結果について分析を行った。

ただし、全学共通科目（82 科目）を教員所属別に集計すると、学科によっては該当する教員が 1 人となり個人が特定されることから、前期同様に後期も（全学共通科目を含む）全科目を教員所属別に集計した。全学共通科目のみを対象とした学生所属別の集計は、昨年度同様に実施した。

今回の分析も前期と同様に、平均値とその標準偏差を用いて算出した「変動係数(変異係数、あるいは変化係数ともいう)」に基づいて、アンケートの各項目における学科別の「格差」の有無について検証を試みた。変動係数は複数の変数間の相対的な格差を示す指標として用いられる。本アンケートでは複数の学科間の相対的な格差を表す。その値が高い程、相対的なバラツキが大きいことを示し、良い傾向とは言えない。なお、数値は%で表している。

変動係数はローデータに基づいて算出しているため、各表の平均と標準偏差を用いて計算する値と異なる場合があるが、学科間の相対的な格差分析に問題は生じない。

4.2 のべ回答者数と回答率

各質問項目の回答分布(学科／部局別)にある回答者数（Q1b は 13,427 人、Q2 は 15,610 人、Q4 は 6,097 人、Q5 は 15,594 人、Q6 は 15,605 人、Q7 は 15,608 人、Q8 は 15,581 人）は、設問によって異なるが、全学平均の回答者数・回答率は、15,581 人、30.66%（前期 32.89%）であった。

学生たちの回答科目数の多さから生じる負担、教員のコメント対応の負担等を考慮し、回答率をあげることを目的として、2024 年度後期においても担当科目のなかから最も履修者数の多い 1 科目を対象としてアンケートを実施した。1 科目であっても、確実にアンケートを実施し、学生の回答から教員自身が授業方法について見直し、課題を認識し、改善に向けて取り組んでいくことが重要だと考えたからである。

2024 年度後期の回答率（30.66%）は 2023 年度後期の 31.62%、2024 年度前期の 32.89%と比較すると、それぞれ 0.96%、2.23%減少した。30%は超えてはいるが、回答率が僅かとはいえ減少しているのは気になる点である。30%台を維持できているのは、教員が授業中の回答を促してくれるようになったお陰である。それでも回答率が減少したことを考えると、アンケート期間中は学生たちに意識的に回答を促してほしい。

スマートフォンを使用するアンケートでは、回答している（ように見える）にもかかわら

ず、回答率が思ったほどには伸びないという課題が残っている。効果的な解決方法は見つからないが、やはり回答を強く促していくしかなさそう。

もう一つの継続課題は、大人数の履修者を抱える科目の回答率がやはり芳しくなく、今年度後期はそれが顕著であった。大人数ゆえの難しさはあると思われるが、学生へ授業中の回答を一層促してほしい。

すべての学科部局における回答率の増減率(=2024 年度後期－2024 年度前期)は、2023 年度後期の値に比べて半数以上の学科が減少している。学科別の増減率は以下の通りである。

増加率の高い順に、看護学科 9.28% (24 年度後期 66.56%、24 年度前期 57.28%)、中国文学科 6.03% (24 年度後期 36.21%、24 年度前期 30.18%)、社会経済学科 5.21% (24 年度後期 22.35%、24 年度前期 17.13%)、国際文化学科 4.61% (24 年度後期 32.10%、24 年度前期 27.49%)、教職課程センター 4.09% (24 年度後期 42.54%、24 年度前期 38.45%)、国際交流センター 3.02% (24 年度後期 47.83%、44.81%)、日本文学科 0.93% (24 年度後期 39.22%、24 年度前期 38.29%)、英米文学科 0.84% (24 年度後期 39.24%、24 年度前期 38.40%) となっている。

一方、回答率が減少している学科は、減少率の高い順に健康科学科-11.65% (24 年度後期 35.79%、24 年度前期 47.44%)、スポーツ科学科-6.50% (24 年度後期 26.48%、24 年度前期 32.98%)、英語学科-5.65% (24 年度後期 32.39%、24 年度前期 38.04%)、社会学科-5.50% (24 年度後期 41.69%、24 年度前期 47.20%)、国際関係学科-5.35% (24 年度後期 28.49%、24 年度前期 33.84%)、法律学科-4.95% (24 年度後期 24.11%、24 年度前期 29.07%)、中国語学科-4.61% (24 年度後期 37.89%、24 年度前期 42.50%)、経営学科-4.04% (24 年度後期 22.39%、24 年度前期 26.43%)、日本語学科-3.73% (24 年度後期 30.89%、24 年度前期 34.63%)、現代経済学科-3.12% (24 年度後期 19.43%、24 年度前期 22.54%)、政治学科-2.28% (24 年度後期 35.81%、24 年度前期 38.10%)、書道学科-1.74% (24 年度後期 38.00%、24 年度前期 39.74%)、歴史文化学科-0.57% (24 年度後期 29.64%、24 年度前期 30.22%)、教育学科-0.31% (24 年度後期 26.05%、24 年度前期 26.36%) であった。

学年別では、学年が上がるごとに回答率は下がる傾向にある。

本アンケートは、授業に対する学生の認識を問うだけではなく、その結果に対して、教員からのコメント入力も必須となっている。授業改善のためには、学生からの指摘あるいは好評であった部分も含め、無視するわけにはいかない。学生からのアンケート回答率は徐々に上昇し、教員側のコメント入力状況も上昇が見られたとはいえ、決して良い数値とは言えない(専任のみ/2024 年度前期の全学平均 52.7%、後期 58.4%)。

2024 年度後期の専任教員の入力率は 58.4%、非常勤は 43.0% であり(前期:専任 64.4%、非常勤 45.6%)、前期と比べても専任教員の入力率が 6 %低下している。一学部のなかでも学科によってはコメント入力率に大きな差があることから、学科においても教員に対して

入力を促すことが必要だと思われる。

教員のアンケートへの反応の低さが、学生のアンケートへの回答意欲を低下させかねないことはいうまでもない。教員のコメント入力率を上げることは、教員自身のアンケートへの意識を高めることでもあり継続課題である。

ちなみに、2024 年度後期の各学科（専任・非常勤）のコメント入力状況は、入力率の高い順に以下の通りである。国際関係学部 60.0%（国際関係 70.4%、国際文化 47.8%）、法学部 53.4%（法律 55.6%、政治 50.0%）、経営学部 53.1%、経済学部 51.4%（社会経済 52.5%、現代経済 50.0%）、文学部 51.0%（日本文学 61.7%、中国文学 85.0%、英米文学 34.4%、教育 57.6%、書道 39.3%、歴史文化 43.3%）、社会学部 46.4%、外国語学部 42.5%（中国語 51.0%、英語 38.1%、日本語 44.4%）、スポーツ・健康科学部 35.3%（スポーツ科 38.0%、健康 20.8%、看護 54.5%）、部局別では、国際交流センター66.7%、教職課程センター53.6%であった。

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合計	回答率
日本文学科	1,015	1,573	2,588	39.219%
中国文学科	256	451	707	36.209%
英米文学科	664	1,028	1,692	39.243%
教育学科	1,091	3,097	4,188	26.051%
書道学科	353	576	929	37.998%
歴史文化学科	466	1,106	1,572	29.644%
社会経済学科	718	2,495	3,213	22.347%
現代経済学科	534	2,215	2,749	19.425%
中国語学科	474	777	1,251	37.890%
英語学科	1,277	2,666	3,943	32.387%
日本語学科	295	660	955	30.890%
法律学科	1,163	3,660	4,823	24.114%
政治学科	814	1,459	2,273	35.812%
国際関係学科	484	1,215	1,699	28.487%
国際文化学科	434	918	1,352	32.101%
経営学科	1,316	4,562	5,878	22.389%
スポーツ科学科	907	2,518	3,425	26.482%
健康科学科	568	1,019	1,587	35.791%
看護学科	613	308	921	66.558%
社会学科	1,586	2,218	3,804	41.693%
教職課程センター	465	628	1,093	42.543%
国際交流センター	88	96	184	47.826%
全学	15,581	35,245	50,826	30.656%

学年	回答数	未回答数	合計	回答率
1	7,144	10,169	17,313	41.264%
2	5,145	11,975	17,120	30.053%
3	2,631	9,705	12,336	21.328%
4	639	3,347	3,986	16.031%

4.3.1 【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

全学では2「知っている」と回答したのは 80.49%（24 年度前期 80.4%）であった。2024 年度前期よりは僅かに増加しているが、19.51%の回答学生がシラバスを承知していない。

「知っている」と回答した比率が最も高かったのは、88.56%の国際文化学科（24 年度前期 87.3%）であった。

学年別では学年が上がるにつれ、1 年生を除き、2「知っている」の比率が高くなる傾向にある。

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	13.681%	86.319%
中国文学科	14.063%	85.938%
英米文学科	17.470%	82.530%
教育学科	19.322%	80.678%
書道学科	16.292%	83.708%
歴史文化学科	22.222%	77.778%
社会経済学科	14.722%	85.278%
現代経済学科	19.181%	80.819%
中国語学科	22.059%	77.941%
英語学科	21.607%	78.393%
日本語学科	17.568%	82.432%
法律学科	22.012%	77.988%
政治学科	18.972%	81.028%
国際関係学科	14.815%	85.185%
国際文化学科	11.442%	88.558%
経営学科	19.030%	80.970%
スポーツ科学科	24.449%	75.551%
健康科学科	24.737%	75.263%
看護学科	15.186%	84.814%
社会学科	22.879%	77.121%
教職課程センター	27.468%	72.532%
国際交流センター	10.227%	89.773%
全学	19.511%	80.489%

学年	1	2
1	18.149%	81.851%
2	21.663%	78.337%
3	20.547%	79.453%
4	13.615%	86.385%

4.3.2 【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。[シラバス通り]

この設問は Q1a で 2「はい（おおそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は 4.42（前期 4.37）で標準偏差は 0.70（前期 0.71）であった。この結果は 2024 年度前期と同じ傾向である。

学科で最も平均値が高かったのは日本語学科で 4.57（前期は書道学科 4.58）であった。標準偏差の 0.64 を加味すると、その値は 3.92 から 5.2 の幅に位置する。

学科部局別、学年別、全学の回答分布状況は、5「強くそう思う」、4「どちらかと言えばそう思う」の合計は全学 91.58%（前期 90.72%）であった。学生は「シラバスの記述通りに授業が行われた」と認識しており、概ね満足していると言えるだろう。

尚、全学の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数からみると、学科間の格差を確認できる。平均 15.79% に対し、係数が最も大きかったのは教育学科 17.50% (前期：法律学科 17.50%)、次いで法律学科 17.16% (前期：中国文学科 17.16%) が 17% を超えている。尚、17% を超える部局はなかった。

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	894	4.532	0.617	13.617%
中国文学科	234	4.479	0.681	15.197%
英米文学科	583	4.509	0.660	14.629%
教育学科	943	4.392	0.768	17.495%
書道学科	310	4.510	0.671	14.874%
歴史文化学科	393	4.313	0.647	15.001%
社会経済学科	635	4.449	0.695	15.631%
現代経済学科	457	4.354	0.682	15.662%
中国語学科	407	4.391	0.699	15.921%
英語学科	1,094	4.418	0.731	16.540%
日本語学科	255	4.565	0.641	14.036%
法律学科	975	4.317	0.741	17.160%
政治学科	694	4.390	0.689	15.686%
国際関係学科	438	4.459	0.624	14.003%
国際文化学科	402	4.443	0.735	16.544%
経営学科	1,127	4.394	0.673	15.326%
スポーツ科学科	759	4.428	0.724	16.350%
健康科学科	485	4.313	0.683	15.838%
看護学科	567	4.437	0.744	16.758%
社会学科	1,326	4.396	0.667	15.163%
教職課程センター	369	4.436	0.723	16.292%
国際交流センター	80	4.613	0.581	12.592%
全学	13,427	4.418	0.698	15.793%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	6,286	4.400	0.706	16.039%
2	4,339	4.415	0.697	15.778%
3	2,207	4.459	0.672	15.066%
4	574	4.472	0.695	15.535%

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

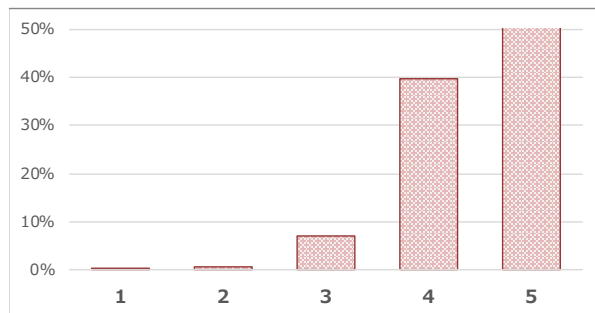
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	0.559%	4.922%	35.235%	59.284%
中国文学科	0.427%	0.855%	5.556%	36.752%	56.410%
英米文学科	0.343%	0.515%	5.660%	34.820%	58.662%
教育学科	1.166%	0.848%	8.059%	37.434%	52.492%
書道学科	0.000%	0.645%	8.065%	30.968%	60.323%
歴史文化学科	0.000%	1.018%	7.125%	51.399%	40.458%
社会経済学科	0.472%	1.260%	5.197%	39.055%	54.016%
現代経済学科	0.219%	0.438%	9.190%	43.982%	46.171%
中国語学科	0.246%	0.246%	10.319%	38.575%	50.614%
英語学科	0.548%	1.188%	7.678%	37.112%	53.473%
日本語学科	0.392%	1.176%	2.353%	33.725%	62.353%
法律学科	0.615%	1.641%	8.000%	44.923%	44.821%
政治学科	0.720%	0.576%	5.764%	44.813%	48.127%
国際関係学科	0.000%	0.913%	4.338%	42.694%	52.055%
国際文化学科	0.746%	0.995%	7.214%	35.323%	55.721%
経営学科	0.177%	0.799%	7.276%	42.946%	48.802%
スポーツ科学科	0.659%	0.264%	9.223%	35.310%	54.545%
健康科学科	0.000%	0.619%	10.722%	45.361%	43.299%
看護学科	0.882%	1.058%	6.878%	35.802%	55.379%
社会学科	0.302%	0.302%	7.541%	43.213%	48.643%
教職課程センター	0.542%	1.084%	7.317%	36.314%	54.743%
国際交流センター	0.000%	0.000%	5.000%	28.750%	66.250%
全学	0.432%	0.797%	7.194%	39.741%	51.836%

Q 1b「シラバス通り」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.477%	0.891%	7.366%	40.678%	50.589%
2	0.346%	0.737%	7.836%	39.272%	51.809%
3	0.317%	0.680%	6.208%	38.378%	54.418%
4	0.871%	0.697%	4.355%	38.502%	55.575%

Q 1b 「シラバス通り」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	58	0.432%
2	107	0.797%
3	966	7.194%
4	5336	39.741%
5	6960	51.836%
合計	13427	

4.3.3 【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

この設問の回答は、5「とても難しかった」～1「とても易しかった」の5段階であり、数値が高いほど良いわけではない。全学の平均は3.53 (24年度前期3.55)、標準偏差は0.76 (24年度前期0.78)であった。どの学科も3「適切だった」から4「やや難しかった」の間に平均があることから、難易度は概ね適切と言えるだろう。学科では看護学科が3.81(標準偏差0.77)と最も高く、授業内容をやや難しいと受け止めている傾向にある。

学科部局別と全学の回答分布状況をみると、全学では3と4の合計が85.51%であり、全体としては概ね適切ではあるものの、やや難しいと受け止めているようだ。なお、3「適切だった」が5割を超える高い数値を示したのは、高い順に教職課程センター64.81%、スポーツ科学科62.73%、日本文学科61.02%、歴史文化学科57.69%、書道学科54.37%、教育学科53.94%、中国文学科53.91%、社会学科53.43%、国際関係学科50.00%であった。

授業を易しいと受け止めている1と2の回答の合計値が比較的高かったのは、国際文化学科6.42%、スポーツ科学科6.39%であった。これに対して、5の回答が他学科に比べて相対的に低かったのは日本文学科5.12%と歴史文化学科5.56%であった。

学年別の平均値は、1年生3.52、2年生3.54、3年生3.52と、ほぼ同じ水準であるが、4年生は3.45と僅かに低くなり、他学年よりは授業を難しいとは捉えていない。

全学の学年別回答分布を前期と比較すると、1年生から3年生は3「適切だった」が増加している(1年生49.37%・前期47.53%、2年生49.34%・前期46.98%、3年生52.77%・前期49.24%)。一方で、4年生52.35%(前期57.11%)は減少している。これに連動して、5「とても難しかった」は3年生10.68%(前期13.06%)、4年生10.50%(前期10.72%)と、3年生で-2.38%、4年生-0.22%の減少がみられた。学年が進むほど、授業を易しいと捉えていることが示された。

変動係数をみると、全学平均21.57%より高い学科が10学科あり、学科間の格差を確認できる。なかでも、国際文化学科23.59%とスポーツ科学科23.22%は相対的に高い値を示し、学力に幅があることがわかる。今後、改善に向けた検討が必要であろう。

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,016	3.375	0.655	19.413%
中国文学科	256	3.453	0.794	22.997%
英米文学科	664	3.502	0.788	22.496%
教育学科	1,090	3.459	0.717	20.736%
書道学科	355	3.482	0.788	22.643%
歴史文化学科	468	3.391	0.675	19.915%
社会経済学科	720	3.499	0.767	21.934%
現代経済学科	537	3.702	0.738	19.930%
中国語学科	476	3.750	0.829	22.111%
英語学科	1,282	3.533	0.751	21.259%
日本語学科	296	3.601	0.795	22.068%
法律学科	1,161	3.639	0.786	21.607%
政治学科	816	3.512	0.733	20.857%
国際関係学科	486	3.506	0.714	20.353%
国際文化学科	436	3.486	0.822	23.591%
経営学科	1,318	3.615	0.759	21.011%
スポーツ科学科	907	3.297	0.765	23.215%
健康科学科	570	3.747	0.756	20.169%
看護学科	615	3.808	0.769	20.185%
社会学科	1,587	3.457	0.749	21.658%
教職課程センター	466	3.376	0.660	19.566%
国際交流センター	88	3.557	0.705	19.816%
全学	15,610	3.526	0.760	21.565%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,148	3.524	0.781	22.159%
2	5,170	3.543	0.732	20.662%
3	2,632	3.516	0.743	21.120%
4	638	3.453	0.813	23.556%

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

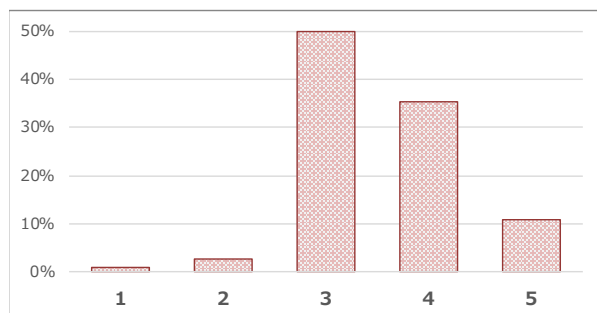
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.886%	1.969%	61.024%	31.004%	5.118%
中国文学科	1.953%	2.734%	53.906%	30.859%	10.547%
英米文学科	1.355%	3.614%	49.398%	34.789%	10.843%
教育学科	0.734%	3.028%	53.945%	34.220%	8.073%
書道学科	1.408%	2.535%	54.366%	29.859%	11.831%
歴史文化学科	0.641%	3.419%	57.692%	32.692%	5.556%
社会経済学科	1.111%	3.611%	49.583%	35.694%	10.000%
現代経済学科	0.559%	1.490%	38.734%	45.624%	13.594%
中国語学科	0.840%	2.101%	38.655%	38.025%	20.378%
英語学科	1.014%	2.730%	48.206%	38.066%	9.984%
日本語学科	1.351%	2.365%	44.257%	38.851%	13.176%
法律学科	0.689%	2.067%	45.134%	36.865%	15.245%
政治学科	1.225%	1.961%	49.877%	38.235%	8.701%
国際関係学科	0.412%	3.292%	50.000%	37.860%	8.436%
国際文化学科	1.606%	4.817%	48.624%	33.257%	11.697%
経営学科	0.759%	2.276%	44.158%	40.364%	12.443%
スポーツ科学科	2.426%	3.969%	62.734%	23.264%	7.607%
健康科学科	0.702%	0.877%	37.544%	44.737%	16.140%
看護学科	0.163%	0.325%	39.024%	39.512%	20.976%
社会学科	0.945%	3.592%	53.434%	32.829%	9.200%
教職課程センター	0.429%	1.717%	64.807%	25.966%	7.082%
国際交流センター	0.000%	4.545%	43.182%	44.318%	7.955%
全学	0.974%	2.652%	50.058%	35.452%	10.865%

Q 2「難易度適切」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.133%	3.148%	49.370%	34.877%	11.472%
2	0.619%	2.340%	49.342%	37.505%	10.193%
3	0.836%	1.900%	52.774%	33.815%	10.676%
4	2.508%	2.665%	52.351%	31.975%	10.502%

Q 2 「難易度適切」に対する全学の回答分布

(1「とても易しかった」 / 2「やや易しかった」 / 3「適切だった」 / 4「やや難しかった」 / 5「とても難しかった」)



回 答	回答者数	割 合
1	152	0.974%
2	414	2.652%
3	7814	50.058%
4	5534	35.452%
5	1696	10.865%
合計	15610	

4.3.4 【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

全学で1「あります」と回答したのは19.54%(前期17.9%)と低い比率ではあるが、前期より僅かに改善(1.64%)がみられる結果となった。

前期において、2「いいえ、したことはありません」と回答したのは全学で82.1%と高い比率を示していた。これに対して、後期の比率は全学で80.46%となり、前期に比べても少し低下しているが、依然として学生の授業における消極的な様子は変わらない。

「1」については、11学科が20%未満であり、看護学科の7.62%は他学科に比べても低い水準であった。

1と回答した学生を学年別の比率でも、全学で1年生19.52%、2年生18.07%、3年生20.74%、4年生25.55%となり、1、2年生は平均値を下回っているが、3、4年生は20%を超えている。

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	20.199%	79.801%
中国文学科	21.260%	78.740%
英米文学科	28.308%	71.692%
教育学科	18.106%	81.894%
書道学科	34.181%	65.819%
歴史文化学科	12.959%	87.041%
社会経済学科	17.877%	82.123%
現代経済学科	16.105%	83.895%
中国語学科	28.145%	71.855%
英語学科	32.862%	67.138%
日本語学科	31.741%	68.259%
法律学科	13.055%	86.945%
政治学科	17.228%	82.772%
国際関係学科	21.739%	78.261%
国際文化学科	23.963%	76.037%
経営学科	15.777%	84.223%
スポーツ科学科	19.064%	80.936%
健康科学科	18.571%	81.429%
看護学科	7.616%	92.384%
社会学科	13.426%	86.574%
教職課程センター	14.783%	85.217%
国際交流センター	46.512%	53.488%
全学	19.538%	80.462%

学年	1	2
1	19.515%	80.485%
2	18.069%	81.931%
3	20.742%	79.258%
4	25.552%	74.448%

4.3.5 【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した学生のみが回答した。全学の平均は4.22（前期は4.15）、標準偏差は0.94（前期は0.96）となり、前期に比べてやや改善している。4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の間にあり、対応は迅速であったと認識されていると言える。

学科部局別回答分布をみても、4と5の合計が75.05%と7割を超えており、前期の4、5の合計72.77%と比較すると、2.28%増加している。

前期は、1「まったくそう思わない」1.95%と2「どちらかといえばそう思わない」1.56%の合計が3.51%であった。後期の1と2の合計は3.08%で僅かに減少した。この結果により、質問に対する教員対応が前年度後期に比べて僅かではあるが改善したと言える。

学科では前期と同様、書道学科（平均4.55、標準偏差0.85）が最も高かった（前期：平均4.59、標準偏差0.71）。部局では国際交流センターが平均4.47、標準偏差0.85であった（前期：平均4.30、標準偏差0.86）。

学年別では、全学の平均は1年生 4.18(標準偏差 0.94)から、2年生 4.22(標準偏差 0.94)、3年生 4.28(標準偏差 0.94)、4年生 4.30(標準偏差 0.96)を示し、学年が上がるに連れて増加している。4年生の数値は他学年に比べて相対的に高い。

変動係数の平均値は 22.35%であった。7 学科がこの平均値を超え、他学科に比べて相対的に高い数値を示し、良い傾向とは言えない。最も高いのは法律学科で 25.67%であり、最も低い日本語学科 18.01%と、7.66%の格差が生じている。前期に続き、5 段階および学科部局別の全学平均をみると改善されているという結果になっているが、学科間では大きな格差が生じていることが確認された。

Q 4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	317	4.369	0.895	20.480%
中国文学科	92	4.326	0.934	21.585%
英米文学科	314	4.379	0.910	20.776%
教育学科	428	4.161	0.964	23.170%
書道学科	164	4.555	0.850	18.663%
歴史文化学科	158	4.095	0.870	21.244%
社会経済学科	268	4.190	0.945	22.550%
現代経済学科	191	4.110	0.900	21.897%
中国語学科	227	4.233	0.887	20.954%
英語学科	654	4.356	0.951	21.840%
日本語学科	150	4.520	0.814	18.013%
法律学科	393	3.944	1.012	25.668%
政治学科	290	4.107	0.902	21.951%
国際関係学科	204	4.392	0.830	18.903%
国際文化学科	196	4.214	0.977	23.178%
経営学科	496	4.083	0.981	24.035%
スポーツ科学科	379	4.288	0.938	21.883%
健康科学科	249	4.197	0.867	20.669%
看護学科	176	4.170	1.008	24.174%
社会学科	553	4.038	0.924	22.884%
教職課程センター	143	4.252	0.942	22.159%
国際交流センター	55	4.473	0.850	18.997%
全学	6,097	4.216	0.943	22.353%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	2,927	4.184	0.943	22.542%
2	1,896	4.217	0.940	22.297%
3	969	4.283	0.938	21.901%
4	288	4.299	0.958	22.286%

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

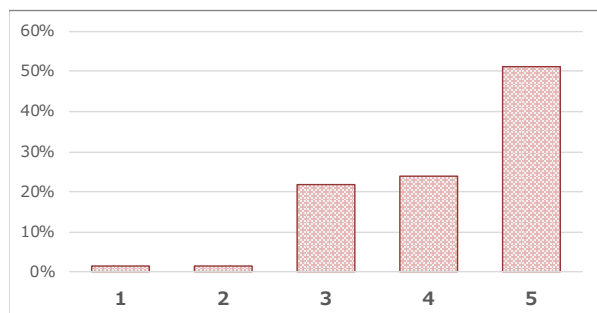
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.893%	0.946%	14.196%	24.290%	58.675%
中国文学科	1.087%	3.261%	16.304%	20.652%	58.696%
英米文学科	1.911%	0.955%	15.287%	21.019%	60.828%
教育学科	1.869%	0.701%	26.402%	21.495%	49.533%
書道学科	1.220%	2.439%	9.146%	14.024%	73.171%
歴史文化学科	0.000%	1.266%	29.747%	27.215%	41.772%
社会経済学科	1.493%	2.239%	21.269%	25.746%	49.254%
現代経済学科	1.047%	1.571%	24.607%	30.890%	41.885%
中国語学科	0.881%	1.762%	19.824%	28.194%	49.339%
英語学科	2.294%	1.529%	15.443%	19.725%	61.009%
日本語学科	1.333%	0.667%	10.667%	19.333%	68.000%
法律学科	2.545%	1.527%	34.351%	22.137%	39.440%
政治学科	1.034%	1.034%	26.552%	28.966%	42.414%
国際関係学科	1.471%	0.000%	13.725%	27.451%	57.353%
国際文化学科	2.041%	3.061%	17.857%	25.510%	51.531%
経営学科	2.016%	2.218%	25.605%	25.806%	44.355%
スポーツ科学科	1.319%	1.583%	21.108%	18.997%	56.992%
健康科学科	0.803%	0.402%	23.695%	28.514%	46.586%
看護学科	2.273%	2.273%	23.295%	20.455%	51.705%
社会学科	1.085%	1.627%	29.476%	28.029%	39.783%
教職課程センター	1.399%	1.399%	22.378%	20.280%	54.545%
国際交流センター	1.818%	0.000%	12.727%	20.000%	65.455%
全学	1.607%	1.476%	21.863%	23.766%	51.288%

Q 4「フィードバック」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	1.640%	1.469%	22.720%	25.145%	49.026%
2	1.530%	1.371%	22.416%	23.207%	51.477%
3	1.548%	1.961%	18.679%	22.291%	55.521%
4	2.083%	0.694%	20.833%	18.056%	58.333%

Q 4 「フィードバック」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	98	1.607%
2	90	1.476%
3	1333	21.863%
4	1449	23.766%
5	3127	51.288%
合計	6097	

4.3.6 【Q5】 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

[自分意欲]

この設問に対する全学の平均は 4.13 (前期：4.11)、標準偏差 0.79 (前期：0.79) であり、前期に比べてやや高い数値であった。学科別では前期と同様、書道学科 4.43 (標準偏差 0.73) が最も高かった (前期：平均値 4.57、標準偏差 0.62)。学科による平均値の幅(最大値 4.434－最小値 3.944)は 0.49 で小さくはない。部局の平均値では、教職課程センターが 4.26 (標準偏差 0.70) と高かった (前期：平均 4.29、標準偏差 0.68)。

学科部局別の回答分布をみても、4「どちらかと言えばそう思う」48.788%、5「強くそう思う」38.866%と、4 と 5 の合計 82.654%と 8 割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んだと言えるだろう。

学年別の平均では、全学年で 4.0 以上であり、4 年生 4.16 (標準偏差 0.77) が最も高い数値を表している。

変動係数から授業参加への意欲や熱意に対する学生自身の認識をみると、平均 19.24%に對し、スポーツ科学科 16.43%、書道学科 16.47%と低い値を示す。一方で、中国語学科 21.21%、現代経済学科 21.04%、社会学科 20.53%、法律学科 20.41%、看護学科 20.26%、経営学科 20.26%、中国文学科 20.13%、日本語学科 19.75%、教育学科 19.63%、部局では国際交流センター20.57%と 9 学科 1 部局が平均を超えている。最大で 4.78%の格差を生じている。

Q 5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,017	4.164	0.743	17.845%
中国文学科	255	4.192	0.844	20.129%
英米文学科	665	4.259	0.755	17.739%
教育学科	1,090	4.150	0.815	19.627%
書道学科	355	4.434	0.730	16.465%
歴史文化学科	467	4.075	0.738	18.112%
社会経済学科	719	4.040	0.777	19.226%
現代経済学科	535	3.944	0.830	21.038%
中国語学科	475	4.042	0.857	21.211%
英語学科	1,282	4.199	0.766	18.244%
日本語学科	296	4.203	0.830	19.745%
法律学科	1,162	3.978	0.812	20.414%
政治学科	816	4.102	0.753	18.356%
国際関係学科	485	4.124	0.769	18.641%
国際文化学科	435	4.232	0.742	17.534%
経営学科	1,315	4.023	0.815	20.258%
スポーツ科学科	907	4.337	0.713	16.433%
健康科学科	567	4.109	0.776	18.878%
看護学科	615	4.127	0.836	20.264%
社会学科	1,582	4.022	0.826	20.526%
教職課程センター	466	4.262	0.700	16.415%
国際交流センター	88	4.182	0.860	20.566%
全学	15,594	4.125	0.794	19.244%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,143	4.114	0.804	19.551%
2	5,160	4.134	0.786	19.007%
3	2,631	4.124	0.787	19.072%
4	638	4.161	0.772	18.555%

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

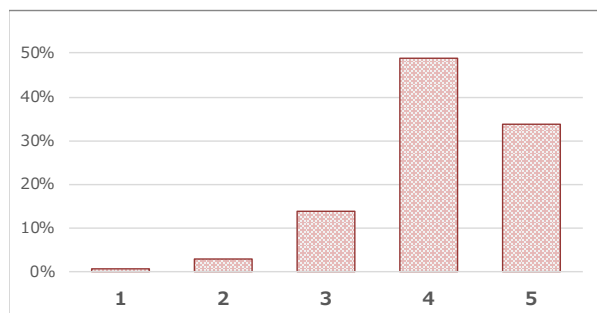
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.688%	2.065%	10.423%	53.786%	33.038%
中国文学科	0.784%	3.529%	12.549%	41.961%	41.176%
英米文学科	0.602%	1.654%	10.376%	46.015%	41.353%
教育学科	0.826%	3.303%	11.927%	47.890%	36.055%
書道学科	0.282%	1.690%	7.606%	35.211%	55.211%
歴史文化学科	0.428%	1.499%	16.702%	52.891%	28.480%
社会経済学科	0.556%	2.643%	16.968%	51.878%	27.955%
現代経済学科	0.748%	4.486%	19.439%	50.280%	25.047%
中国語学科	1.263%	2.947%	18.316%	45.263%	32.211%
英語学科	0.390%	2.106%	12.715%	46.802%	37.988%
日本語学科	1.014%	3.041%	11.149%	44.257%	40.541%
法律学科	0.516%	4.217%	18.330%	50.775%	26.162%
政治学科	0.735%	1.593%	14.583%	52.941%	30.147%
国際関係学科	0.000%	3.918%	12.371%	51.134%	32.577%
国際文化学科	0.000%	2.759%	10.345%	47.816%	39.080%
経営学科	0.456%	4.106%	17.034%	49.506%	28.897%
スポーツ科学科	0.110%	1.433%	9.261%	42.999%	46.196%
健康科学科	0.176%	3.175%	14.638%	49.559%	32.451%
看護学科	1.301%	2.276%	14.797%	45.691%	35.935%
社会学科	0.948%	3.919%	15.550%	51.138%	28.445%
教職課程センター	0.215%	2.146%	7.082%	52.361%	38.197%
国際交流センター	0.000%	4.545%	15.909%	36.364%	43.182%
全学	0.584%	2.892%	13.871%	48.788%	33.866%

Q 5「自分意欲」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.602%	3.248%	13.944%	48.565%	33.641%
2	0.484%	2.674%	14.147%	48.391%	34.302%
3	0.722%	2.661%	13.189%	50.361%	33.067%
4	0.627%	1.724%	14.107%	47.962%	35.580%

Q 5 「自分意欲」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	91	0.584%
2	451	2.892%
3	2163	13.871%
4	7608	48.788%
5	5281	33.866%
合計	15594	

4.3.7 【Q6】 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

この設問に対する全学の平均 4.55(標準偏差 0.68)は、前期の平均 4.51(標準偏差 0.71)に比べてわずかに上昇しているが、ほぼ前期並みと言える。この平均値は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の中間点であり、学科部局別と全学の回答分布をみても、5が63.10%、4が30.24%であった。4と5の合計が93.34%という高い数値を示し、満足してよい結果であると言える。これはどの学科も90%以上の高い値を示しており、同じ傾向にある。

学科別では書道学科の平均が前期に続き、4.67(標準偏差 0.63)と最も高かった(前期：平均 4.77、標準偏差 0.48)。部局では教職課程センターの平均が4.68(標準偏差 0.56)と高かった(前期：平均 4.70、標準偏差 0.53)。

学年別の平均では4.5以上の高い数値を示しており、4年生の数値が最も高い(全学 4.62)。

変動係数からみると、学科間の格差は生じているものの質問項目のなかでは最も低い値である。とはいえ、全学平均 14.96%に対し、現代経済学科 17.76%、中国語学科 16.60%、看護学科 16.21%、法律学科 16.07%、社会経済学科 15.78%、経営学科 15.72%、教育学科 15.64%、歴史文化学科 15.58%、社会学科 15.45%、英語学科 15.24%と平均を超えており、学科間の格差が確認された。

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,017	4.640	0.608	13.109%
中国文学科	255	4.667	0.576	12.348%
英米文学科	664	4.649	0.625	13.440%
教育学科	1,091	4.548	0.711	15.643%
書道学科	356	4.674	0.632	13.522%
歴史文化学科	467	4.467	0.696	15.582%
社会経済学科	719	4.495	0.709	15.779%
現代経済学科	536	4.347	0.772	17.760%
中国語学科	476	4.450	0.739	16.603%
英語学科	1,282	4.566	0.696	15.240%
日本語学科	296	4.625	0.651	14.072%
法律学科	1,164	4.442	0.714	16.069%
政治学科	814	4.544	0.639	14.052%
国際関係学科	485	4.660	0.597	12.812%
国際文化学科	437	4.597	0.637	13.848%
経営学科	1,318	4.443	0.699	15.723%
スポーツ科学科	907	4.648	0.609	13.110%
健康科学科	569	4.531	0.654	14.445%
看護学科	614	4.550	0.737	16.206%
社会学科	1,585	4.521	0.699	15.452%
教職課程センター	465	4.677	0.556	11.881%
国際交流センター	88	4.670	0.598	12.799%
全学	15,605	4.546	0.680	14.963%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,153	4.533	0.683	15.059%
2	5,159	4.526	0.701	15.485%
3	2,632	4.604	0.642	13.935%
4	639	4.617	0.624	13.523%

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

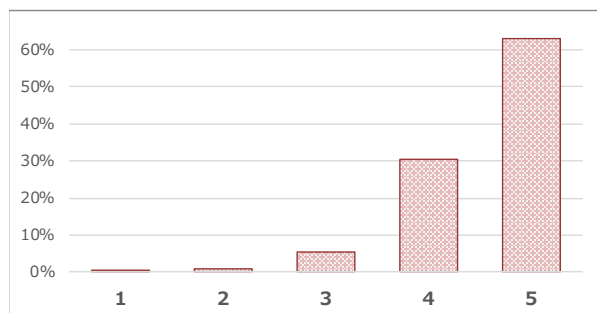
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.393%	0.590%	2.852%	26.942%	69.223%
中国文学科	0.000%	0.784%	3.137%	24.706%	71.373%
英米文学科	0.301%	1.054%	3.163%	24.398%	71.084%
教育学科	0.733%	0.825%	6.049%	27.681%	64.711%
書道学科	0.281%	1.124%	3.933%	20.225%	74.438%
歴史文化学科	0.214%	1.285%	6.638%	35.332%	56.531%
社会経済学科	0.556%	1.252%	5.563%	33.380%	59.249%
現代経済学科	1.119%	1.306%	7.836%	41.231%	48.507%
中国語学科	0.840%	1.471%	5.462%	36.345%	55.882%
英語学科	0.780%	0.624%	5.382%	27.613%	65.601%
日本語学科	0.676%	0.676%	3.378%	26.014%	69.257%
法律学科	0.344%	1.460%	6.701%	36.598%	54.897%
政治学科	0.246%	0.246%	5.774%	32.310%	61.425%
国際関係学科	0.206%	0.412%	4.124%	23.711%	71.546%
国際文化学科	0.229%	0.686%	4.805%	27.689%	66.590%
経営学科	0.228%	0.910%	7.967%	36.115%	54.780%
スポーツ科学科	0.441%	0.441%	3.197%	25.689%	70.232%
健康科学科	0.351%	0.879%	4.218%	34.446%	60.105%
看護学科	0.977%	1.466%	4.560%	27.524%	65.472%
社会学科	0.505%	0.757%	6.625%	30.347%	61.767%
教職課程センター	0.215%	0.215%	2.581%	25.591%	71.398%
国際交流センター	0.000%	0.000%	6.818%	19.318%	73.864%
全学	0.474%	0.859%	5.325%	30.240%	63.102%

Q 6「教員熱意」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.475%	0.839%	5.480%	31.357%	61.848%
2	0.523%	0.930%	6.164%	30.180%	62.202%
3	0.418%	0.760%	3.837%	27.964%	67.021%
4	0.313%	0.939%	2.973%	28.326%	67.449%

Q 6 「教員熱意」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	74	0.474%
2	134	0.859%
3	831	5.325%
4	4719	30.240%
5	9847	63.102%
合計	15605	

4.3.8 【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

この設問に対する全学の平均は 4.35(標準偏差：0.76)であり、前期(平均 4.31、標準偏差 0.78)とほぼ同じ数値となっている。前期と同様に、全体としてはまずまずの結果と言える。学科別の平均は前年度と同じく、書道学科が 4.62(標準偏差 0.63)と最も高く(前期：平均 4.67、標準偏差 0.53)、部局では教職課程センターが平均 4.51(標準偏差 0.68)であった(前期：平均 4.51、標準偏差 0.64)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、4「どちらかと言えばそう思う」41.40%、5「強くそう思う」48.42%である。4よりも5の方が高くなっており、両方の合計が 89.81%と前期(88.27%)に比べて成長実感が 1.54%向上している。ちなみに、4よりも5の割合が高かった学科は、高い順に書道学科 69.21%、国際文化学科 58.03%、中国文学科 57.48%、スポーツ科学科 56.73%、日本文学科 54.42%、国際関係学科 53.40%、英米文学科 53.38%、日本語学科 50.85%、英語学科 50.12%、教育学科 49.45%、政治学科 47.30%、看護学科 46.49%、中国語学科 45.80%、健康科学科 45.61%の 14 学科であった。なかでも、書道学科は 7 割に近い高い数値を示しており、技術の習得が成長実感をもたらしていると考えられる。部局では、教職課程センターも国際交流センターも 5 の割合が高く、教職課程センター 59.23%、国際交流センター 56.82%であった。

学年別の回答分布を見ると、5「強くそう思う」の割合が最も高いのは 4 年生 58.84%で 6 割近い数値であった。

成長実感を変動係数からみると、全学平均 17.58%、平均を超えていたのが 9 学科であった。看護学科 20.26%、中国語学科 19.72%、現代経済学科 19.59%、法律学科 19.46%、社会学科 18.74%、英語学科 18.07%、教育学科 17.99%、健康科学科 17.97%、社会経済学科 17.77%が平均値を超え、バラツキが大きかった。書道学科の変動係数は 13.56%と、バラツキが少ないことが確認された。

Q 7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,018	4.456	0.687	15.419%
中国文学科	254	4.492	0.686	15.268%
英米文学科	665	4.430	0.710	16.021%
教育学科	1,092	4.357	0.784	17.987%
書道学科	354	4.624	0.627	13.552%
歴史文化学科	468	4.301	0.711	16.528%
社会経済学科	720	4.275	0.760	17.771%
現代経済学科	536	4.170	0.817	19.587%
中国語学科	476	4.265	0.841	19.719%
英語学科	1,281	4.358	0.787	18.070%
日本語学科	295	4.400	0.734	16.675%
法律学科	1,163	4.223	0.822	19.460%
政治学科	816	4.357	0.735	16.879%
国際関係学科	485	4.468	0.640	14.328%
国際文化学科	436	4.472	0.727	16.263%
経営学科	1,319	4.272	0.747	17.477%
スポーツ科学科	906	4.474	0.706	15.787%
健康科学科	570	4.309	0.774	17.968%
看護学科	613	4.269	0.865	20.260%
社会学科	1,587	4.267	0.799	18.737%
教職課程センター	466	4.513	0.685	15.171%
国際交流センター	88	4.477	0.657	14.668%
全学	15,608	4.348	0.764	17.576%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,153	4.339	0.767	17.687%
2	5,161	4.308	0.773	17.955%
3	2,633	4.412	0.748	16.958%
4	639	4.502	0.683	15.161%

Q 7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

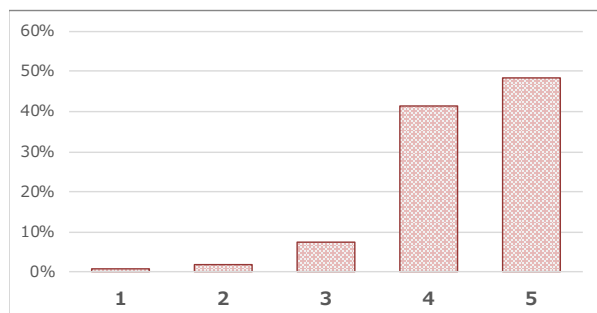
学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.491%	0.884%	5.599%	38.605%	54.420%
中国文学科	0.394%	1.575%	3.937%	36.614%	57.480%
英米文学科	0.301%	1.654%	6.165%	38.496%	53.383%
教育学科	1.190%	1.923%	6.319%	41.117%	49.451%
書道学科	0.000%	1.130%	4.520%	25.141%	69.209%
歴史文化学科	0.214%	1.496%	8.974%	46.581%	42.735%
社会経済学科	0.556%	2.222%	8.889%	45.833%	42.500%
現代経済学科	0.933%	3.731%	9.515%	49.067%	36.754%
中国語学科	1.261%	2.521%	10.504%	39.916%	45.798%
英語学科	1.171%	1.639%	7.572%	39.500%	50.117%
日本語学科	1.017%	1.017%	5.763%	41.356%	50.847%
法律学科	1.032%	3.267%	9.114%	45.572%	41.015%
政治学科	1.103%	0.613%	7.108%	43.873%	47.304%
国際関係学科	0.000%	1.443%	3.711%	41.443%	53.402%
国際文化学科	0.688%	1.147%	6.422%	33.716%	58.028%
経営学科	0.607%	1.213%	10.690%	45.337%	42.153%
スポーツ科学科	0.662%	1.104%	5.188%	36.313%	56.733%
健康科学科	1.053%	1.404%	8.772%	43.158%	45.614%
看護学科	1.958%	2.121%	9.462%	39.967%	46.493%
社会学科	1.071%	2.268%	8.948%	44.360%	43.352%
教職課程センター	0.644%	1.073%	3.863%	35.193%	59.227%
国際交流センター	0.000%	0.000%	9.091%	34.091%	56.818%
全学	0.839%	1.736%	7.611%	41.395%	48.417%

Q 7「成長感覚」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5
1	0.783%	1.748%	8.304%	41.144%	48.022%
2	0.949%	1.841%	8.041%	43.809%	45.359%
3	0.874%	1.747%	5.393%	39.309%	52.678%
4	0.469%	0.782%	5.634%	34.272%	58.842%

Q7「成長感覚」に対する全学の回答分布

(1「まったくそう思わない」 / 2「どちらかと言えばそう思わない」 / 3「どちらとも言えない」 / 4「どちらかと言えばそう思う」 / 5「強くそう思う」)



回 答	回答者数	割 合
1	131	0.839%
2	271	1.736%
3	1188	7.611%
4	6461	41.395%
5	7557	48.417%
合計	15608	

4.3.9【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を10、「まったく満足できなかった」を1として、10段階で最も近いと思われるものを選んでください。[総合満足]

包括的な設問（総合満足）であるQ8の結果をみると、全学の平均は8.35(標準偏差1.69)であり、8を超えているので「合格点」と言えるのではないだろうか。前期(平均8.19、標準偏差1.78)に比べて平均があがっており、僅かながら「総合満足」が上昇していると言える。学科別の平均では、その値が最も高かった学科は前期(平均9.13、標準偏差1.30)と同じく、書道学科であり、8.97(標準偏差1.40)を示している。部局の平均は国際交流センターが高く、8.69(標準偏差1.64)であった(前期：平均8.28、標準偏差2.05)。

学科部局別、および全学の回答分布をみると、8が23.01%(前期23.09%)、9が21.25%(前期19.67%)、10が31.44%(前期29.21%)である。8～10の合計は75.70%(前期71.97%)となり、全体の7割以上を占めている。前期の結果と比較すると、3.73%増加しており、「総合満足」が向上している。なかでも最頻値が10であり、全体としてはますますの結果と考えることができるだろう。

学科別では、10が全学平均値の31.44%を超える数値を示すのは、書道学科49.58%、中国文学科41.41%、日本語学科40.68%、スポーツ科学科39.91%、国際文化学科36.41%、看護学科36.05%、英語学科35.71%、日本文学科35.67%、英米文学科35.24%、国際関係学科32.85%、教育学科31.62%の11学科であった。書道学科は1～2までが0%であり、8～10の合計が86.12%と、概して満足度が高い。

ちなみに、前期に10の割合が平均値(29.21%)を超えたのは、書道学科54.00%、スポーツ科学科42.53%、看護学科38.52%、日本語学科36.10%、英語学科33.54%、国際文化学科35.49%、中国文学科33.45%、中国語学科32.53%、国際関係学科32.01%、教育学科31.06%、英米文学科29.73%の11学科であった。

部局では、10の割合は教職課程センター33.55%、国際交流センター44.32%を示し、全学の平均値(31.44%)を上回っている。8～10の合計は教職課程センター83.23%、国際交流センター81.82%であった。

学年別では4年生が10の割合が高く、これは例年同様の傾向である。

ただし、1と2の数値については注意が必要であろう。1の割合を学年別にみると、どの学年も2より1のほうが高い。さらに、1と2の合計値の場合、1年生と3年生の方が2年生と4年生に比べて相対的に高い値を示している。これは学年ごとに総合満足度に対する認識の違いが存在するということで留意が必要である。

変動係数の平均値から総合満足度を判断する場合、Q2とQ4を除けば、他の質問項目に比べて相対的に高い数値を示しており（つまり、バラツキが大きい）、良い傾向とは言えない。変動係数の変動幅（＝最大値－最小値）も、質問項目のなかでは一番大きい値を示した。これは総合満足度に対する学生認識が、学科間で大きな格差を生じていることを意味する。数値が最も低い学科は書道学科 15.56%、次いで日本文学科 16.65%、国際関係学科 16.91%、スポーツ科学科 17.19%であった。これ以外は 18%以上となる。現代経済学科は 23.51%で最も高く、書道学科との差が 7.95%であった。次いで高い値を示したのが、法律学科 22.96%、看護学科 22.70%、中国語学科 22.10%であった。

Q 8「総合満足」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	1,015	8.637	1.438	16.647%
中国文学科	256	8.672	1.611	18.578%
英米文学科	664	8.541	1.554	18.192%
教育学科	1,091	8.330	1.806	21.683%
書道学科	353	8.972	1.396	15.558%
歴史文化学科	466	8.258	1.668	20.204%
社会経済学科	718	8.262	1.654	20.022%
現代経済学科	534	7.929	1.864	23.509%
中国語学科	474	8.158	1.803	22.102%
英語学科	1,277	8.427	1.720	20.413%
日本語学科	295	8.627	1.627	18.860%
法律学科	1,163	8.051	1.848	22.955%
政治学科	814	8.326	1.667	20.026%
国際関係学科	484	8.550	1.446	16.911%
国際文化学科	434	8.505	1.644	19.327%
経営学科	1,316	8.169	1.677	20.534%
スポーツ科学科	907	8.706	1.496	17.187%
健康科学科	568	8.190	1.636	19.970%
看護学科	613	8.284	1.880	22.695%
社会学科	1,586	8.172	1.700	20.799%
教職課程センター	465	8.572	1.539	17.958%
国際交流センター	88	8.693	1.640	18.867%
全学	15,581	8.354	1.688	20.209%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	7,144	8.304	1.732	20.857%
2	5,145	8.325	1.655	19.879%
3	2,631	8.463	1.659	19.606%
4	639	8.662	1.529	17.647%

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

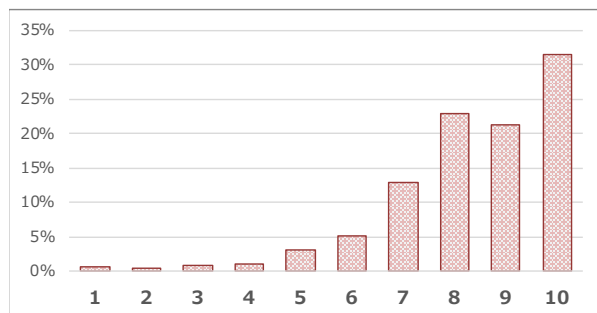
学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.394%	0.099%	0.296%	0.690%	1.478%	3.350%	12.808%	21.281%	23.941%	35.665%
中国文学科	0.000%	0.781%	1.953%	0.000%	1.563%	5.469%	5.859%	22.656%	20.313%	41.406%
英米文学科	0.602%	0.301%	0.151%	0.753%	2.410%	3.916%	13.855%	20.482%	22.289%	35.241%
教育学科	1.192%	1.192%	0.917%	0.642%	2.658%	4.675%	11.916%	23.556%	21.632%	31.622%
書道学科	0.000%	0.000%	0.850%	0.850%	1.700%	2.266%	8.215%	13.031%	23.513%	49.575%
歴史文化学科	0.429%	0.429%	0.858%	1.502%	3.863%	5.365%	13.948%	23.176%	22.961%	27.468%
社会経済学科	0.696%	0.139%	0.696%	1.393%	3.760%	6.267%	11.699%	26.184%	21.866%	27.298%
現代経済学科	1.498%	0.749%	1.124%	1.311%	5.243%	7.865%	13.670%	25.843%	21.536%	21.161%
中国語学科	0.422%	1.055%	1.055%	1.055%	3.797%	8.650%	15.612%	20.675%	16.456%	31.224%
英語学科	1.096%	0.157%	0.548%	0.861%	3.524%	5.325%	12.060%	21.378%	19.342%	35.709%
日本語学科	0.339%	0.678%	0.678%	0.678%	3.051%	4.068%	8.814%	21.017%	20.000%	40.678%
法律学科	1.204%	0.602%	1.376%	1.548%	4.643%	5.847%	15.219%	23.818%	20.464%	25.279%
政治学科	0.614%	0.491%	0.860%	0.983%	3.440%	4.668%	13.759%	23.096%	22.727%	29.361%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.826%	1.446%	1.240%	4.545%	11.364%	24.380%	23.347%	32.851%
国際文化学科	0.000%	1.152%	0.230%	1.613%	2.765%	5.530%	9.217%	22.350%	20.737%	36.406%
経営学科	0.608%	0.152%	0.684%	1.368%	4.483%	6.535%	15.881%	24.088%	19.073%	27.128%
スポーツ科学科	0.441%	0.221%	0.551%	0.551%	1.544%	3.969%	9.702%	20.728%	22.381%	39.912%
健康科学科	0.528%	0.528%	1.232%	0.880%	2.289%	5.634%	17.430%	25.176%	21.479%	24.824%
看護学科	1.305%	0.816%	0.979%	1.305%	3.426%	4.568%	14.845%	22.023%	14.682%	36.052%
社会学科	0.694%	0.504%	0.883%	2.081%	3.279%	4.855%	14.502%	25.914%	22.762%	24.527%
教職課程センター	0.860%	0.000%	0.215%	1.075%	2.366%	4.086%	8.172%	24.731%	24.946%	33.548%
国際交流センター	0.000%	1.136%	1.136%	0.000%	2.273%	5.682%	7.955%	18.182%	19.318%	44.318%
全学	0.706%	0.456%	0.783%	1.142%	3.126%	5.141%	12.952%	23.009%	21.250%	31.436%

Q 8「総合満足」に対する学年別回答分布

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0.714%	0.532%	0.882%	1.288%	3.373%	5.599%	13.620%	22.410%	20.101%	31.481%
2	0.700%	0.389%	0.700%	0.952%	3.479%	4.995%	12.925%	24.898%	21.555%	29.407%
3	0.760%	0.418%	0.722%	1.178%	2.166%	4.599%	12.125%	21.361%	23.033%	33.637%
4	0.469%	0.313%	0.626%	0.939%	1.565%	3.599%	9.390%	21.127%	24.413%	37.559%

Q 8 「総合満足」に対する全学の回答分布

(1「10%」/ 2「20%」/ … / 9「90%」/ 10「100%」)



回 答	回答者数	割 合
1	110	0.706%
2	71	0.456%
3	122	0.783%
4	178	1.142%
5	487	3.126%
6	801	5.141%
7	2018	12.952%
8	3585	23.009%
9	3311	21.250%
10	4898	31.436%
合計	15581	

4.4.1 【クロス表に関する結果（全学）】

当該クロス表(表 1、表 2)では、それぞれの行でもっとも高い数値を赤字で示している。また、右端の列(4+5)に 4「どちらかと言えばそう思う」と 5「強くそう思う」の割合を加算した数字を記載している。尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じる場合がある。

この表に注目すると、教員熱意が向上すればするほど、右側の数字が高くなっていることが見てとれる。右端の列の数字に注目する(24→39→220→3569→9025)と、教員熱意が向上すればするほど、その数値が上がっていくことがより顕著になる。この結果から、学生が教員熱意を感じるようになると、自分意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

表 1

● クロス集計 (【自分意欲】×【教員熱意】) 【回答数】

		自分意欲					合計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教 員 熱 意	1 まったくそう思わない	22	13	15	9	15	74	24
	2 どちらかと言えばそう思わない	10	48	37	33	6	134	39
	3 どちらとも言えない	16	96	497	180	40	829	220
	4 どちらかと言えばそう思う	15	186	943	3,241	328	4,713	3,569
	5 強くそう思う	28	106	665	4,140	4,885	9,824	9,025
合 計		91	449	2,157	7,603	5,274	15,574	12,877

表 2

● クロス集計（【自分意欲】×【教員熱意】）【パーセント】

		自分意欲					合 計	4+5
		1 まったくそう思わない	2 どちらかと言えばそう思わない	3 どちらとも言えない	4 どちらかと言えばそう思う	5 強くそう思う		
教 員 熱 意	1 まったくそう思わない	29.73%	17.57%	20.27%	12.16%	20.27%	100.00%	32.43%
	2 どちらかと言えばそう思わない	7.46%	35.82%	27.61%	24.63%	4.48%	100.00%	29.10%
	3 どちらとも言えない	1.93%	11.58%	59.95%	21.71%	4.83%	100.00%	26.54%
	4 どちらかと言えばそう思う	0.32%	3.95%	20.01%	68.77%	6.96%	100.00%	75.73%
	5 強くそう思う	0.29%	1.08%	6.77%	42.14%	49.73%	100.00%	91.87%

4.5.1 【相関表に関する結果（全学）】

相関係数に関しては、+0.3 以上+0.6 未満(-0.3~-0.6)で弱い正（負）の相関関係、+0.6 以上+1 未満(-0.6~-1)で強い正（負）の相関関係があると解釈できる。当該相関係数表では、弱い正の相関関係を青字で記す。分析の結果、「難易度が適切かどうか」に関わるもの以外の全ての変数(項目)に関して、正の相関関係がみられた。

最も重要な「総合満足度」に対しては、特に「成長実感」との間に弱い正の相関関係 0.59 がみられ、正の相関関係の順に「教員熱意 0.54」「FB 丁寧 0.50」「自分の意欲 0.45」「シラバス通りかどうか 0.45」となっている。ここから、「総合満足度」の向上に対しては、「成長実感を持っているかどうか」が項目の中で最も強い正の相関関係を示している。次いで「教員熱意」「FB 丁寧」「自分の意欲」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

次に、その「成長実感」と関連性の強い項目順に見ていくと、「教員の熱意」との間に弱い正の相関関係 0.55 がみられ、その後、「自分の意欲 0.53」「FB 丁寧 0.51」「シラバス通りかどうか 0.46」と続く。ここから、「成長実感」の向上に対しては、「教員の熱意があるかどうか」が項目のなかで最も強い正の相関関係を示している。次いで「自分の意欲」「FB 丁寧」「シラバス通りかどうか」の順で正の相関関係を表している。

「難易度が適切かどうか」に関してすべての項目間で相関関係がみられないのは、その変数の尺度内容に起因する。「総合満足度」以外の他の変数が 5 点を最大とする間隔尺度であるのに対し、「難易度適切」は 3 点を「適切である」とする質的尺度になっている。そのため、表 1 の相関係数表に基づくと、「難易度適切」と他の変数における関連性は、単純に 2 つの変数が共に変動しているかどうかを測る相関分析で統計的に判断することができない。

まとめると、「教員熱意」が「成長実感や学生の意欲向上」に繋がり、それらが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが示された。

留意すべき点は、「総合満足」と「成長実感」との「相関係数 0.59」、および「成長実感」と「教員熱意」との「相関係数 0.55」が、前期の強い正の相関関係(0.66、0.60)から弱い正の相関関係に変わったことである。この結果について、各学科で検討が必要であろう。

● 相関係数表

		Q1b	Q2	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8
		【シラバス通り】	【難易度適切】	【FB丁寧】	【自分意欲】	【教員熱意】	【成長実感】	【総合満足】
Q1b	【シラバス通り】	1.00						
Q2	【難易度適切】	0.02	1.00					
Q4	【FB丁寧】	0.48	0.00	1.00				
Q5	【自分意欲】	0.39	0.01	0.47	1.00			
Q6	【教員熱意】	0.47	-0.02	0.54	0.45	1.00		
Q7	【成長実感】	0.46	-0.04	0.51	0.53	0.55	1.00	
Q8	【総合満足】	0.45	-0.14	0.50	0.45	0.54	0.59	1.00

まとめと結論（教員所属別）

2024年度後期の主な結果をまとめると、以下のようになる。

1. シラバス内容を知っている学生(Q1a)は全学80.49%であった。この数値は前期の全学80.4%より約0.1%しか増加しておらず、ほぼ横ばいである。シラバスは授業内容や方法、DPとの関連性が示され、カリキュラムの順次性や体系性がわかるようになっていく。学生が自らの学修を振り返るためにもシラバスの確認を促す必要があるだろう。
2. シラバス内容を知っている学生は、授業はシラバス通り(Q1b)に実施されたと概ね認識した。(最頻値：全学5、平均値：全学4.42)
3. 授業の難易度について(Q2)は「適切だった」という認識が最も多く、次に「やや難しかった」という認識が多かった。前期に引き続き、全体としては概ね適切な難易度設定がなされていると考えられる。

ただし、学年別回答分布の動向を前期と比較すると、留意すべき点がある。1年生から3年生までは3「適切だった」が増加している一方で、4年生は減少している。これに連動して、3年生と4年生は5「とても難しかった」が減少している。学年が進み専門科目が増えるにつれ、授業を易しいと捉えていることが示された。学科によっては一定の層が授業を難しいと捉えており、学力差が生じているとも言える。

全体の平均では改善はみられていても、変動係数に基づく、前期と同様に学科間の相

対的な格差がみられ、高い数値を示した学科は今後改善に向けた検討や工夫が必要であろう。

4. 質問をしたことのある学生(Q3)は、全学の平均で19.54%であった。前期に比べて、質問する学生が1.64%増えており、微増とはいえ良い傾向と言える(前期平均：全学17.9%)。
5. 質問に対する対応は概ね「迅速である」(Q4)と認識されていた(最頻値：全学5、平均値：全学4.22)。全学・学科部局別回答分布の平均(=4+5の合計)をみると、「迅速である」と認識している学生が、前期に比べて2.28%増加している。しかし、変動係数の数値が質問項目のなかでは最も高く、学科間の格差が大きいことが確認された。Q3で「質問したことがある」と回答した割合が20%を超えている9学科1部局(3学科1部局は30%を超えている)は、1学科を除き、平均値も高く、学生の質問に対する教員の対応が、学生の質問意欲に影響を与えることが顕著となった。この学科間の格差を縮小させる努力が必要だろう。
6. 学生は「熱意・意欲(Q5)」をもって、授業に取り組んだと概ね認識していた(最頻値：全学4、平均値：全学4.13)。前期(平均値：全学4.11)と比較して、平均値が僅かながら増加していることは良い傾向と言えるだろう。他方、変動係数を用いて判断すると、学科間の格差が生じており、この点は留意が必要である。
7. 担当教員は熱意を持って授業を行っている(Q6)と学生は概ね認識していた(最頻値=全学5、平均値：全学4.55)。その平均値は前期(全学4.51)に比べて、やや上昇している。変動係数をみても他の質問項目よりも平均が低く、前期よりも減少している。学科間の格差はそれほど見られない。学生は教員に対して好意的な評価をしていると言える。
8. 前期と同様に、学生自身の意欲の自己認識と学生が感じる教員の熱意には、弱い正の相関関係が確認された。学生が教員熱意を感じようになると、学生自身の意欲も向上していくと言える。ただし、相関係数表(全学0.45)から判断する限り、教員としては熱意をもって授業に取り組むことは当然として、熱意が学生に伝わるよう一層の工夫と努力が求められるだろう。また、総合満足と学生の意欲との相関係数(0.45)も同じく弱い正の相関関係を示していた。
9. 授業を通じて知識の習得、思考の深化、技術の向上等の成長を感じたという認識(Q7)は多くの学生が持っており、最頻値が前期と同じく5である。学年別では4年生が高い数値を示していた。全学的な平均値(4.35)からも、学科部局回答分布からも(4+5の合計：89.81%)学生の成長実感は高く示された。とはいえ、変動係数からは平均を超える学科が9学科あることがわかる。学科間の格差の広がりには留意が必要であろう。
10. すべてを総合して授業に対して概ね満足だと認識した学生(Q8：8~10を選んだ学生)は全学で75.70%となり、前期(71.97%)より3.73%増加している。総合満足の向上を意味している(最頻値：全学10、平均値：全学8.35)。満足度の低い1と2の合計の割合をみると、1年生・3年生が2年生・4年生に比べて相対的に高い。この数値から判断する限り、学年ごとの認識の違いが生じており、これは無視できない傾向である。変動係数の平均値も20.21%を示し、低いとは言えず学科間格差も大きい。今後の動向を注視する必要がある。
11. 「自分意欲」と「教員熱意」のクロス集計表をみると、教員の「強くそう思う」と学生の「どちらかと言えばそう思う」と「強くそう思う」を合わせると全学91.87%となる。この結果から、前期と同様に学生が授業における教員の熱意を感じるようになると、自分

意欲を強く感じるようになっていくことがわかる。

- 12.「総合満足」に最も影響があるのは、相関係数表によると、全学は「成長実感」であり、次いで「教員の熱意」「フィードバックが丁寧かどうか」「自身意欲」「シラバス通りかどうか」という順序であった。ただし、総合満足と成長実感との相関関係は、前期には強い正の相関(0.66)が見られたが、後期は弱い正の相関(0.59)となったことに留意する必要がある。総合満足度の高い割合、すなわち 8 から 10 の合計は、前期よりも 3.7%の向上が見られた。その一方で、成長実感は前期に比べて 1.54%と微増にとどまっており、総合満足度の向上に成長実感が追いついていない結果となった。
- 13.変動係数から各質問項目における学科間の格差を確認できる。特に、全学平均が20%を超えるのは前期と同じく、「Q2：授業の難易度」21.57%、「Q4：FB丁寧」22.35%、「Q8：総合満足度」20.21%であった。授業の難易度と総合満足度は学生の学力を反映していると考えられ、変動係数の大きい学科ほどバラツキが大きくなっていると言える。その分、授業における学生対応は難しくなる。今後さらなる授業の工夫が求められるだろう。

【全学共通科目（学生所属別）】

2023 年度後期に引き続き、全学共通科目を対象に学生の所属学科ごとに、アンケート結果を集計し分析を行った。2024 年度前期から学科別に「変動係数」を算出し、格差があるか否かの検証を試みた。結果は次の通りである。

回答率が最も高かった学科は看護学科 51.08%（前期：64.21%）であった。全学平均 30.23% は前期の 34.23% より 4.00% 減少している。回答率が平均値以上である学科は、高い順に看護学科 51.08%、書道学科 44.90%、日本文学科 43.19%、社会学科 42.86%、歴史文化学科 35.67%、法律学科 35.48%、英米文学科 32.38% の 7 学科であった。20 学科中 13 学科が平均以下の回答率となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

学科/部局別（左）および学年別（右）回答率

学科 / 部局	回答数	未回答数	合 計	回答率
日本文学科	330	434	764	43.194%
中国文学科	22	74	96	22.917%
英米文学科	158	330	488	32.377%
教育学科	147	438	585	25.128%
書道学科	44	54	98	44.898%
歴史文化学科	127	229	356	35.674%
社会経済学科	265	617	882	30.045%
現代経済学科	166	480	646	25.697%
中国語学科	89	236	325	27.385%
英語学科	196	601	797	24.592%
日本語学科	50	130	180	27.778%
法律学科	314	571	885	35.480%
政治学科	151	319	470	32.128%
国際関係学科	66	272	338	19.527%
国際文化学科	49	182	231	21.212%
経営学科	368	1,096	1,464	25.137%
スポーツ科学科	122	367	489	24.949%
健康科学科	76	196	272	27.941%
看護学科	71	68	139	51.079%
社会学科	210	280	490	42.857%
全 学	3,021	6,974	9,995	30.225%

学年	回答数	未回答数	合 計	回答率
1	1,989	3,451	5,440	36.563%
2	855	2,531	3,386	25.251%
3	101	502	603	16.750%
4	75	486	561	13.369%

【Q1a】 あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか。 [シラバス既知]

2 「知っている」と回答したのは全学平均 82.01%（前期：81.4%）であった。比率が最も高かったのは、国際文化学科 93.88% である（前期：中国文学科 100.0%）。

全学平均の 82.01% を超えている学科は国際文化学科 93.88% に次いで、看護学科 91.78%、中国語学科 90.11%、国際関係学科 87.88%、書道学科 86.36%、現代経済学科 86.15%、政治学科 84.77%、経営学科 84.24%、社会経済学科 84.09%、法律学科 83.01%、日本文学科

82.98%となっている。

これに対して、1「知らない」という回答の平均は17.99%であった。1が最も高かった学科は歴史文化学科 30.23%であった。平均値を超えていたのが、スポーツ科学科 30.08%、中国文学科 26.09%、日本語学科 25.49%、社会学科 23.81%、英米文学科 21.52%、教育学科 18.92%、英語学科 18.59%、健康科学科 18.42%であり、この9学科の学生は他学科に比べてシラバスを見ていないという結果になった。歴史文化学科とスポーツ科学科では3割を超える学生がシラバス内容をあまり認知していないという結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1a「シラバス既知」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（1「いいえ（あまりよく）知りません」/ 2「はい（おおそ）知っています」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	17.021%	82.979%
中国文学科	26.087%	73.913%
英米文学科	21.519%	78.481%
教育学科	18.919%	81.081%
書道学科	13.636%	86.364%
歴史文化学科	30.233%	69.767%
社会経済学科	15.909%	84.091%
現代経済学科	13.855%	86.145%
中国語学科	9.890%	90.110%
英語学科	18.593%	81.407%
日本語学科	25.490%	74.510%
法律学科	16.987%	83.013%
政治学科	15.232%	84.768%
国際関係学科	12.121%	87.879%
国際文化学科	6.122%	93.878%
経営学科	15.761%	84.239%
スポーツ科学科	30.081%	69.919%
健康科学科	18.421%	81.579%
看護学科	8.219%	91.781%
社会学科	23.810%	76.190%
全学	17.987%	82.013%

学年	1	2
1	16.734%	83.266%
2	20.302%	79.698%
3	23.529%	76.471%
4	17.333%	82.667%

【Q1b】 この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。〔シラバス通り〕

この設問はQ1aで2「はい（おおそ）知っています」と回答した学生のみが回答した。

5「強くそう思う」と4「どちらかと言えばそう思う」を回答した比率の合計が最も大きい学科は日本語学科 97.73%であった(前期：国際文化学科 98.39%)。4と5の比率の全学合

計は 92.20%で、前期(91.60%)よりもやや改善した。平均値 92.20%を超えている学科は日本語学科 97.73%、次いで書道学科 97.50%、国際文化学科 95.65%、日本文学科 95.34%、健康科学科 95.24%、中国語学科 95.18%、政治学科 93.28%、現代経済学科 93.20%、経営学科 92.95%、社会学科 92.94%の 10 学科である。一方で、英米文学科 89.86%、国際関係学科 89.83%、中国文学科 88.89%、英語学科 88.57%、スポーツ科学科 88.57%の 5 学科は 90%以下となった。

尚、4 と 5 の合計はローデータに基づいて計算しているため、表では 100 分の 1 の誤差が生じているが、全体には影響を及ぼさない。

変動係数をみると、Q6(教員の熱意/意欲)以外の他の質問項目と比較しても低い水準になっている。最大値は英米文学科 17.86%、最小値は国際文化学科 12.04%であった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	279	4.444	0.674	15.174%
中国文学科	18	4.667	0.667	14.286%
英米文学科	138	4.333	0.774	17.861%
教育学科	133	4.406	0.715	16.238%
書道学科	40	4.525	0.547	12.092%
歴史文化学科	100	4.370	0.730	16.708%
社会経済学科	234	4.402	0.648	14.720%
現代経済学科	147	4.367	0.607	13.899%
中国語学科	83	4.458	0.627	14.059%
英語学科	175	4.297	0.758	17.640%
日本語学科	44	4.477	0.543	12.130%
法律学科	278	4.338	0.764	17.608%
政治学科	134	4.470	0.677	15.141%
国際関係学科	59	4.508	0.673	14.934%
国際文化学科	46	4.652	0.560	12.041%
経営学科	326	4.405	0.684	15.530%
スポーツ科学科	105	4.438	0.716	16.136%
健康科学科	63	4.524	0.587	12.978%
看護学科	70	4.586	0.686	14.969%
社会学科	170	4.394	0.616	14.028%
全学	2,642	4.412	0.689	15.615%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,764	4.410	0.694	15.729%
2	726	4.420	0.665	15.040%
3	85	4.400	0.689	15.669%
4	66	4.394	0.814	18.531%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 1b「シラバス通り」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.717%	1.075%	2.867%	43.728%	51.613%
中国文学科	0.000%	0.000%	11.111%	11.111%	77.778%
英米文学科	1.449%	0.725%	7.971%	42.754%	47.101%
教育学科	0.752%	0.000%	9.023%	38.346%	51.880%
書道学科	0.000%	0.000%	2.500%	42.500%	55.000%
歴史文化学科	0.000%	3.000%	6.000%	42.000%	49.000%
社会経済学科	0.000%	0.427%	7.692%	43.162%	48.718%
現代経済学科	0.000%	0.000%	6.803%	49.660%	43.537%
中国語学科	0.000%	1.205%	3.614%	43.373%	51.807%
英語学科	1.143%	0.571%	9.714%	44.571%	44.000%
日本語学科	0.000%	0.000%	2.273%	47.727%	50.000%
法律学科	1.079%	1.439%	7.194%	43.165%	47.122%
政治学科	0.746%	0.000%	5.970%	38.060%	55.224%
国際関係学科	0.000%	0.000%	10.169%	28.814%	61.017%
国際文化学科	0.000%	0.000%	4.348%	26.087%	69.565%
経営学科	0.613%	0.613%	5.828%	43.558%	49.387%
スポーツ科学科	0.000%	0.952%	10.476%	32.381%	56.190%
健康科学科	0.000%	0.000%	4.762%	38.095%	57.143%
看護学科	0.000%	1.429%	7.143%	22.857%	68.571%
社会学科	0.000%	0.000%	7.059%	46.471%	46.471%
全学	0.492%	0.681%	6.624%	41.522%	50.681%

【Q2】 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。[難易度適切]

「Q2:授業難易度」の回答分布状況をみると、1「とても易しかった」1.06%（前期 1.77%）、2「やや易しかった」2.81%（前期 2.69%）、3「適切だった」54.56%（前期 52.95%）、4「やや難しかった」32.54%（前期 32.89%）、5「とても難しかった」9.03%（前期 9.70%）と、2、3、4が微増している。

3と4の合計が最も高かったのは書道学科 95.46%（前期は国際文化学科 91.43%）である。ただし、国際文化学科は4を選んだ学生の割合(40.82%)が4割を超えており、全学共通科目に対して「やや難しい」と感じている学生が多いと言える。5を選ぶ学生（26.09%・前期 20.00%）が最も多かった中国文学科では、1と2を選ぶ学生も合計 4.35%（前期 12.00%）いる。授業を易しいと捉える学生の割合は減少している一方で、難しいと捉える学生が増加している。授業の難易度の受け止め方が二極化しつつ、難しいと捉える学生が増加傾向にある。

3と4の合計が90%を超えるのは、書道学科を含め、歴史文化学科 92.25%、日本文学科

92.10%、現代経済学科 90.91%、社会学科 90.00%の 5 学科であった。さらに、1 と 2 の合計と 5 を比較すると、両比率が同率であるのは、日本文学科 3.95%と看護学科 5.63%であった。法律学科以外は 5 の方が高い。法律学科は 1 と 2 の合計 8.33%、5 は 4.17%であった。法律学科は、全学共通科目に対して「易しい」と捉えている学生が他学科よりも多いことがわかる。

変動係数をみると全学平均は 21.42%であり、他の質問項目と比べても高い数値を示している。難易度は学生の学力と深く関わることから、この数値は注視する必要があるだろう。中国語学科 19.75%、政治学科 19.71%、現代経済学科 19.65%、経営学科 19.31%、日本文学科 19.11%、歴史文化学科 19.06%、書道学科 16.78%以外の学科は 20%を超えている。学科間の格差が大きく、特に高い数値を示したのは健康科学科 30.29%(前期：中国文学科 31.60%)であった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	329	3.401	0.650	19.113%
中国文学科	23	3.652	0.914	25.028%
英米文学科	156	3.603	0.765	21.242%
教育学科	148	3.615	0.793	21.935%
書道学科	44	3.477	0.583	16.778%
歴史文化学科	129	3.457	0.659	19.060%
社会経済学科	263	3.468	0.723	20.849%
現代経済学科	165	3.394	0.667	19.651%
中国語学科	91	3.791	0.749	19.753%
英語学科	199	3.578	0.745	20.831%
日本語学科	51	3.569	0.823	23.051%
法律学科	312	3.196	0.696	21.776%
政治学科	151	3.430	0.676	19.708%
国際関係学科	66	3.591	0.778	21.667%
国際文化学科	49	3.551	0.784	22.080%
経営学科	368	3.535	0.683	19.312%
スポーツ科学科	123	3.602	0.899	24.970%
健康科学科	76	3.303	1.000	30.287%
看護学科	71	3.352	0.752	22.447%
社会学科	210	3.257	0.684	20.986%
全学	3,024	3.457	0.741	21.423%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,985	3.443	0.755	21.930%
2	862	3.490	0.681	19.507%
3	102	3.392	0.756	22.290%
4	74	3.527	0.948	26.866%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 2「難易度適切」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.608%	3.343%	55.319%	36.778%	3.951%
中国文学科	0.000%	4.348%	52.174%	17.391%	26.087%
英米文学科	1.282%	1.282%	45.513%	39.744%	12.179%
教育学科	2.027%	0.000%	45.946%	38.514%	13.514%
書道学科	0.000%	0.000%	56.818%	38.636%	4.545%
歴史文化学科	0.775%	1.550%	54.264%	37.984%	5.426%
社会経済学科	0.380%	1.901%	58.935%	28.137%	10.646%
現代経済学科	0.606%	3.636%	56.364%	34.545%	4.848%
中国語学科	0.000%	0.000%	40.659%	39.560%	19.780%
英語学科	0.503%	2.513%	47.236%	38.191%	11.558%
日本語学科	1.961%	0.000%	52.941%	29.412%	15.686%
法律学科	1.923%	6.410%	66.026%	21.474%	4.167%
政治学科	0.000%	4.636%	53.642%	35.762%	5.960%
国際関係学科	0.000%	1.515%	54.545%	27.273%	16.667%
国際文化学科	2.041%	2.041%	44.898%	40.816%	10.204%
経営学科	0.272%	1.630%	50.815%	38.859%	8.424%
スポーツ科学科	1.626%	3.252%	48.780%	26.016%	20.325%
健康科学科	5.263%	7.895%	53.947%	17.105%	15.789%
看護学科	2.817%	2.817%	56.338%	32.394%	5.634%
社会学科	1.905%	2.857%	68.095%	21.905%	5.238%
全学	1.058%	2.811%	54.563%	32.540%	9.028%

【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

[質問対応]

1「ある」という回答の全学平均は 11.45%であった。この平均値を超えている学科は、国際関係学科 20.00%、中国文学科 17.39%、健康科学科 16.22%、英語学科 16.15%、英米文学科 14.94%、国際文化学科 14.89%、中国語学科 14.29%、経営学科 13.74%、スポーツ科学科 13.12%、政治学科 11.92%、社会学科 11.90%、日本語学科 11.76%の 12 学科であった。全学共通科目では、質問に関しては消極的な姿勢がみえる。

これに対して、2「したことがない」という回答の全学平均値は 88.56%（前期 87.6%）である。法律学科 94.59%、書道学科 93.02%、歴史文化学科 92.13%、日本文学科 92.03%、現代経済学科 90.18%、看護学科 90.00%、教育学科 89.04%、社会経済学科 88.64%で、8 学科は平均値を上回り、そのうち 6 学科は 9 割を超える。全学共通科目に対する学生の授業参加は必ずしも積極的であるとは言えない結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q3「質問対応」の学科/部局別（左）および学年別（右）回答

（ 1「はい、あります」/ 2「いいえ、したことはありません」）

学科 / 部局	1	2
日本文学科	7.975%	92.025%
中国文学科	17.391%	82.609%
英米文学科	14.935%	85.065%
教育学科	10.959%	89.041%
書道学科	6.977%	93.023%
歴史文化学科	7.874%	92.126%
社会経済学科	11.364%	88.636%
現代経済学科	9.816%	90.184%
中国語学科	14.286%	85.714%
英語学科	16.146%	83.854%
日本語学科	11.765%	88.235%
法律学科	5.414%	94.586%
政治学科	11.921%	88.079%
国際関係学科	20.000%	80.000%
国際文化学科	14.894%	85.106%
経営学科	13.736%	86.264%
スポーツ科学科	13.115%	86.885%
健康科学科	16.216%	83.784%
看護学科	10.000%	90.000%
社会学科	11.905%	88.095%
全学	11.445%	88.555%

学年	1	2
1	11.675%	88.325%
2	10.811%	89.189%
3	10.891%	89.109%
4	13.514%	86.486%

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか。[フィードバック FB]

この設問は、Q3で「授業に関連して質問したことがある」を選んだ学生のみが回答した。5「強くそう思う」と4「どちらかと言えばそう思う」の比率の合計は68.53%であった。前期の合計68.32%よりも僅かに増加した。この68.53%を超える学科は、中国文学科100.00%、健康科学科86.11%、国際文化学科80.00%、日本文学科78.38%、中国語学科77.14%、スポーツ科学科76.00%、国際関係学科75.00%、看護学科73.33%、経営学科72.03%、現代経済学科71.43%、政治学科71.43%の11学科であった

一方で、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は全学で2.46%であった。学科別の合計(=1+2)が2.46%を超えているのは、日本語学科6.25%、英語学科5.21%、日本文学科4.05%、英米文学科4.05%、法律学科3.61%、教育学科3.51%、健康科学科2.78%の7学科であった。

変動係数をみると、教員所属別の結果と同じく、他の項目に比べて相対的に高い数値(22.83%)が確認された。なかでも日本語学科が29.32%という高い数値であった。質問する

学生数が多くなかったとはいえ、質問対応の格差の大きさをみる限り、適切な対応が求められる。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	74	4.203	0.915	21.773%
中国文学科	7	4.857	0.350	7.204%
英米文学科	74	4.027	0.972	24.142%
教育学科	57	4.088	0.923	22.580%
書道学科	11	3.818	0.833	21.822%
歴史文化学科	41	4.024	0.811	20.156%
社会経済学科	98	3.949	0.952	24.098%
現代経済学科	49	4.184	0.896	21.419%
中国語学科	35	4.143	0.761	18.376%
英語学科	96	3.896	1.025	26.323%
日本語学科	16	4.000	1.173	29.315%
法律学科	83	3.735	0.995	26.640%
政治学科	49	4.143	0.833	20.107%
国際関係学科	28	4.214	0.818	19.399%
国際文化学科	15	4.267	0.772	18.087%
経営学科	143	4.098	0.880	21.464%
スポーツ科学科	50	4.240	0.862	20.321%
健康科学科	36	4.361	0.887	20.332%
看護学科	30	4.433	0.883	19.907%
社会学科	63	4.079	0.896	21.970%
全学	1,055	4.074	0.930	22.825%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	727	4.069	0.927	22.780%
2	270	4.126	0.914	22.161%
3	24	3.708	0.978	26.375%
4	33	4.061	1.013	24.953%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 4「フィードバック」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	1.351%	2.703%	17.568%	31.081%	47.297%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	14.286%	85.714%
英米文学科	1.351%	2.703%	29.730%	24.324%	41.892%
教育学科	0.000%	3.509%	28.070%	24.561%	43.860%
書道学科	0.000%	0.000%	45.455%	27.273%	27.273%
歴史文化学科	0.000%	0.000%	31.707%	34.146%	34.146%
社会経済学科	1.020%	1.020%	38.776%	20.408%	38.776%
現代経済学科	0.000%	2.041%	26.531%	22.449%	48.980%
中国語学科	0.000%	0.000%	22.857%	40.000%	37.143%
英語学科	3.125%	2.083%	33.333%	25.000%	36.458%
日本語学科	6.250%	0.000%	31.250%	12.500%	50.000%
法律学科	3.614%	0.000%	44.578%	22.892%	28.916%
政治学科	0.000%	0.000%	28.571%	28.571%	42.857%
国際関係学科	0.000%	0.000%	25.000%	28.571%	46.429%
国際文化学科	0.000%	0.000%	20.000%	33.333%	46.667%
経営学科	0.699%	1.399%	25.874%	31.469%	40.559%
スポーツ科学科	0.000%	2.000%	22.000%	26.000%	50.000%
健康科学科	2.778%	0.000%	11.111%	30.556%	55.556%
看護学科	0.000%	0.000%	26.667%	3.333%	70.000%
社会学科	0.000%	1.587%	31.746%	23.810%	42.857%
全学	1.137%	1.327%	29.005%	26.066%	42.464%

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。[自分意欲]

「Q5：学生の意欲/熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の合計が 83.11%と、前期（81.51%）より高かった。学科別で最も高かったのが健康科学科 92.11%であった。健康科学科以外では、4と5の合計が全学合計の 83.11%を上回る学科は、政治学科 92.05%、日本文学科 89.39%、看護学科 88.73%、社会学科 87.14%、英語学科 85.86%、国際関係学科 84.85%、日本語学科 84.31%であった。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計は 3.57%と、前期（3.63%）よりもやや低くなった。一方で、この 3.57%を超える学科は、中国文学科 8.70%、国際文化学科 8.16%、書道学科 6.82%、法律学科 6.39%、教育学科 6.21%、社会経済学科 4.92%、現代経済学科 4.85%、日本語学科 3.92%、経営学科 3.80%、英米文学科 3.80%の 10 学科であった。健康科学科と看護学科は 0.00%であった。

変動係数に基づいて判断する限り、学科の格差は明らかであり、その係数を最も高く示しているのは国際文化学科 24.47%であった。変動係数の変動幅が 10.14%(=最大値 24.473

ー最小値 14.335)となっており、全学共通科目に対する意欲・熱意のバラツキが見られた。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	330	4.252	0.670	15.758%
中国文学科	23	4.174	1.007	24.116%
英米文学科	158	3.994	0.838	20.987%
教育学科	145	3.931	0.852	21.679%
書道学科	44	4.159	0.878	21.100%
歴史文化学科	129	4.023	0.720	17.904%
社会経済学科	264	4.011	0.805	20.061%
現代経済学科	165	4.024	0.794	19.719%
中国語学科	91	3.978	0.726	18.249%
英語学科	198	4.197	0.770	18.341%
日本語学科	51	4.216	0.800	18.973%
法律学科	313	3.968	0.799	20.129%
政治学科	151	4.305	0.651	15.122%
国際関係学科	66	4.182	0.716	17.117%
国際文化学科	49	4.041	0.989	24.473%
経営学科	368	4.071	0.798	19.596%
スポーツ科学科	123	4.154	0.797	19.176%
健康科学科	76	4.421	0.634	14.335%
看護学科	71	4.437	0.687	15.474%
社会学科	210	4.143	0.723	17.447%
全学	3,025	4.109	0.781	18.998%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,985	4.110	0.784	19.080%
2	862	4.117	0.752	18.259%
3	102	4.039	0.816	20.191%
4	75	4.067	0.943	23.184%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 5「自分意欲」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.000%	1.212%	9.394%	52.424%	36.970%
中国文学科	0.000%	8.696%	17.391%	21.739%	52.174%
英米文学科	1.899%	1.899%	18.354%	50.633%	27.215%
教育学科	0.690%	5.517%	19.310%	48.966%	25.517%
書道学科	0.000%	6.818%	11.364%	40.909%	40.909%
歴史文化学科	0.000%	3.101%	15.504%	57.364%	24.031%
社会経済学科	0.379%	4.545%	15.909%	51.894%	27.273%
現代経済学科	0.606%	4.242%	13.939%	54.545%	26.667%
中国語学科	1.099%	0.000%	20.879%	56.044%	21.978%
英語学科	0.505%	2.525%	11.111%	48.485%	37.374%
日本語学科	0.000%	3.922%	11.765%	43.137%	41.176%
法律学科	0.639%	5.751%	12.460%	58.466%	22.684%
政治学科	0.000%	1.325%	6.623%	52.318%	39.735%
国際関係学科	0.000%	1.515%	13.636%	50.000%	34.848%
国際文化学科	4.082%	4.082%	10.204%	46.939%	34.694%
経営学科	0.815%	2.989%	14.674%	51.359%	30.163%
スポーツ科学科	0.000%	2.439%	17.886%	41.463%	38.211%
健康科学科	0.000%	0.000%	7.895%	42.105%	50.000%
看護学科	0.000%	0.000%	11.268%	33.803%	54.930%
社会学科	0.476%	2.381%	10.000%	56.667%	30.476%
全学	0.529%	3.041%	13.322%	51.240%	31.868%

【Q6】教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。[教員熱意]

「Q6：教員の意欲/熱意」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の比率の合計が93.98%であった。全学共通科目を担当する教員の意欲や熱意を高く評価している。スポーツ科学科(86.99%)以外の学科は90%以上の高い比率を示しており、健康科学科は100%であった。

1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」の合計が英米文学科3.16%であったが、この学科以外は2%未満であった。中国文学科、書道学科、国際関係学科、国際文化学科、健康科学科、社会学科は1と2の合計は0%であり、教員の授業における熱意を高く評価している結果となった。

変動係数をみると全学平均が14.47%と質問項目のなかで最も低い数値であった。教員熱意に関して学科間の格差は生じているものの、大きな値ではなく、良い傾向と言えるだろう。ただし、英米文学科(17.16%)とスポーツ科学科(17.12%)は、他学科に比べて相対的に高い数値を示している。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	329	4.584	0.609	13.283%
中国文学科	23	4.826	0.480	9.951%
英米文学科	158	4.481	0.769	17.162%
教育学科	147	4.476	0.673	15.045%
書道学科	44	4.750	0.483	10.161%
歴史文化学科	129	4.597	0.591	12.854%
社会経済学科	264	4.489	0.702	15.631%
現代経済学科	165	4.521	0.628	13.901%
中国語学科	91	4.484	0.652	14.550%
英語学科	198	4.505	0.702	15.576%
日本語学科	51	4.686	0.671	14.324%
法律学科	314	4.506	0.688	15.260%
政治学科	151	4.623	0.669	14.462%
国際関係学科	66	4.500	0.657	14.603%
国際文化学科	49	4.633	0.560	12.097%
経営学科	366	4.505	0.630	13.994%
スポーツ科学科	123	4.496	0.769	17.106%
健康科学科	76	4.711	0.454	9.628%
看護学科	71	4.732	0.649	13.716%
社会学科	210	4.567	0.584	12.783%
全学	3,025	4.545	0.658	14.468%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,988	4.537	0.659	14.515%
2	859	4.558	0.660	14.476%
3	102	4.569	0.586	12.825%
4	75	4.573	0.696	15.222%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 6「教員熱意」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.304%	0.304%	3.647%	32.219%	63.526%
中国文学科	0.000%	0.000%	4.348%	8.696%	86.957%
英米文学科	1.266%	1.899%	3.797%	33.544%	59.494%
教育学科	0.000%	1.361%	6.122%	36.054%	56.463%
書道学科	0.000%	0.000%	2.273%	20.455%	77.273%
歴史文化学科	0.000%	0.775%	3.101%	31.783%	64.341%
社会経済学科	0.000%	1.515%	7.576%	31.439%	59.470%
現代経済学科	0.000%	1.212%	3.636%	36.970%	58.182%
中国語学科	0.000%	1.099%	5.495%	37.363%	56.044%
英語学科	1.010%	0.000%	6.061%	33.333%	59.596%
日本語学科	0.000%	1.961%	5.882%	13.725%	78.431%
法律学科	0.637%	1.274%	3.503%	35.987%	58.599%
政治学科	0.662%	0.662%	4.636%	23.841%	70.199%
国際関係学科	0.000%	0.000%	9.091%	31.818%	59.091%
国際文化学科	0.000%	0.000%	4.082%	28.571%	67.347%
経営学科	0.273%	0.273%	4.918%	37.705%	56.831%
スポーツ科学科	0.813%	0.000%	12.195%	22.764%	64.228%
健康科学科	0.000%	0.000%	0.000%	28.947%	71.053%
看護学科	1.408%	0.000%	2.817%	15.493%	80.282%
社会学科	0.000%	0.000%	4.762%	33.810%	61.429%
全学	0.364%	0.694%	4.959%	32.033%	61.950%

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。[成長実感]

「Q7：成長実感」の回答結果は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の合計は90.09%を示し、前期の88.56%から1.53%増加した。

一方で、国際関係学科89.39%、経営学科88.86%、看護学科88.73%、歴史文化学科87.60%、社会経済学科86.79%、英語学科85.79%、教育学科85.71%、スポーツ科学科84.55%、中国語学科82.42%の9学科が平均を下回った。とはいえ、8割以上の学生が授業を通じて成長を実感しているという結果となった。中国文学科と看護学科は1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が0%と、全学共通科目を通じての学びを高く評価していると言える。

変動係数をみると、全学平均17.35%であった。20%を超えたのは歴史文化学科20.85%と英語学科20.12%の2学科で、この2学科以外は比較的バラツキが少ない結果となった。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 7「成長感覚」の学科/部局別（左）および学年別（右）の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	329	4.392	0.694	15.799%
中国文学科	23	4.478	0.580	12.953%
英米文学科	158	4.297	0.767	17.854%
教育学科	147	4.313	0.806	18.699%
書道学科	44	4.523	0.690	15.267%
歴史文化学科	129	4.209	0.878	20.849%
社会経済学科	265	4.234	0.846	19.972%
現代経済学科	166	4.367	0.679	15.552%
中国語学科	91	4.275	0.771	18.043%
英語学科	197	4.223	0.850	20.115%
日本語学科	51	4.392	0.716	16.305%
法律学科	313	4.358	0.710	16.300%
政治学科	151	4.397	0.652	14.823%
国際関係学科	66	4.333	0.704	16.235%
国際文化学科	49	4.388	0.664	15.143%
経営学科	368	4.299	0.754	17.535%
スポーツ科学科	123	4.268	0.766	17.943%
健康科学科	76	4.342	0.680	15.652%
看護学科	71	4.521	0.689	15.243%
社会学科	210	4.338	0.687	15.827%
全学	3,027	4.325	0.750	17.349%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,989	4.330	0.743	17.157%
2	860	4.322	0.753	17.425%
3	102	4.196	0.793	18.889%
4	75	4.413	0.834	18.901%

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q7「成長感覚」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5
日本文学科	0.608%	1.824%	3.040%	46.809%	47.720%
中国文学科	0.000%	0.000%	4.348%	43.478%	52.174%
英米文学科	1.899%	0.633%	5.696%	49.367%	42.405%
教育学科	0.680%	2.041%	11.565%	36.735%	48.980%
書道学科	0.000%	2.273%	4.545%	31.818%	61.364%
歴史文化学科	2.326%	3.101%	6.977%	46.512%	41.085%
社会経済学科	1.509%	3.019%	8.679%	44.151%	42.642%
現代経済学科	0.000%	1.205%	7.831%	43.976%	46.988%
中国語学科	0.000%	1.099%	16.484%	36.264%	46.154%
英語学科	2.030%	1.523%	10.660%	43.655%	42.132%
日本語学科	0.000%	1.961%	7.843%	39.216%	50.980%
法律学科	0.639%	1.597%	5.112%	46.645%	46.006%
政治学科	0.662%	0.662%	3.311%	49.007%	46.358%
国際関係学科	0.000%	1.515%	9.091%	43.939%	45.455%
国際文化学科	0.000%	2.041%	4.082%	46.939%	46.939%
経営学科	0.815%	1.359%	8.967%	44.837%	44.022%
スポーツ科学科	0.813%	0.000%	14.634%	40.650%	43.902%
健康科学科	1.316%	0.000%	3.947%	52.632%	42.105%
看護学科	0.000%	0.000%	11.268%	25.352%	63.380%
社会学科	0.476%	0.952%	6.667%	48.095%	43.810%
全学	0.859%	1.487%	7.565%	44.433%	45.656%

【Q8】すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。10 を「100%満足」、1 を「10%満足」として10段階で最も近いと思われるものを選んで下さい。[総合満足]

「Q8：総合満足」は、8から10までの比率を合計すると、全学平均は75.64%となり、前期の73.21%に比べて2.43%増えた。各学科の回答は68.68%（社会経済学科）から86.84%（健康科学科）の間に分布している。そのなかで全学平均の75.64%を下回るのは、法律学科75.48%、現代経済学科75.30%、歴史文化学科74.02%、スポーツ科学科73.77%、国際文化学科73.47%、英米文学科73.42%、中国語学科71.91%、英語学科70.41%、社会経済学科68.68%の9学科であった。8から10の比率の合計でみると、20学科中9学科が平均を下回った。これを7から10に広げると、全学平均は89.51%となる。9割には満たないが、全体としてはまずまずの結果となる。

ただし、各評価ごとに今年度前期と比較すると次のような結果となった。1の全学平均0.70%（前期0.55%）、2は0.46%（前期0.32%）、3は0.79%（前期0.69%）、4は0.66%（前期1.27%）、5は2.95%（前期4.30%）、6は4.93%（前期5.77%）、7は13.87%（前

期 13.89%)、8 は 24.30% (前期 23.10%)、9 は 20.90% (前期 19.59%)、10 は 30.39% (前期 30.53%) であった。1 から 3 までのすべての評価が増加し、4 から 7 までは減少している。また、8 と 9 は増加しているが、10 は僅かに減少している。すなわち、総合満足度の低い層が増えているが、中間層と最も高い層で減少していることになる。微増減であるが、この傾向が前期から表れていることに留意が必要であろう。

変動係数をみると、全学共通科目の総合満足は、学科間に大きな格差が生じていることが確認できる。全学平均 19.74% に対し、歴史文化学科 25.53%、英米文学科 23.02%、国際文化学科 22.82%、日本語学科 22.50%、英語学科 22.34%、社会経済学科 21.84%、スポーツ科学科 21.34% の 7 学科が 20% を超え、高い数値を示した。最も数値の低い書道学科 14.94% と最も数値の高い数値の歴史文化学科 25.53% では、10.59% の格差が生じている。

【全学共通科目〈学生所属別〉】

Q 8「総合満足」の学科/部局別 (左) および学年別 (右) の平均値と標準偏差

学科 / 部局	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
日本文学科	330	8.461	1.533	18.125%
中国文学科	22	8.864	1.424	16.062%
英米文学科	158	8.146	1.875	23.022%
教育学科	147	8.401	1.501	17.870%
書道学科	44	8.864	1.324	14.942%
歴史文化学科	127	8.039	2.052	25.525%
社会経済学科	265	8.072	1.763	21.841%
現代経済学科	166	8.373	1.433	17.113%
中国語学科	89	8.404	1.534	18.252%
英語学科	196	8.194	1.830	22.338%
日本語学科	50	8.440	1.899	22.501%
法律学科	314	8.287	1.574	18.998%
政治学科	151	8.596	1.443	16.785%
国際関係学科	66	8.545	1.281	14.995%
国際文化学科	49	8.449	1.928	22.818%
経営学科	368	8.332	1.627	19.522%
スポーツ科学科	122	8.270	1.765	21.341%
健康科学科	76	8.776	1.465	16.697%
看護学科	71	8.873	1.501	16.911%
社会学科	210	8.319	1.546	18.578%
全学	3,021	8.349	1.648	19.741%

学年	回答者数	平均	標準偏差	変動係数
1	1,989	8.353	1.631	19.521%
2	855	8.368	1.655	19.773%
3	101	8.089	1.830	22.622%
4	75	8.387	1.750	20.871%

【全学共通科目〈学生所屬別〉】

Q 8「総合満足」に対する学科/部局別回答分布

学科 / 部局	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本文学科	0.606%	0.606%	0.303%	0.303%	1.515%	5.152%	12.727%	25.152%	23.030%	30.606%
中国文学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.545%	4.545%	4.545%	22.727%	13.636%	50.000%
英米文学科	2.532%	0.633%	0.633%	0.633%	1.266%	6.329%	14.557%	29.114%	15.823%	28.481%
教育学科	0.000%	0.000%	0.680%	0.680%	3.401%	5.442%	13.605%	28.571%	14.286%	33.333%
書道学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	2.273%	2.273%	11.364%	25.000%	9.091%	50.000%
歴史文化学科	0.787%	1.575%	3.937%	0.787%	7.087%	2.362%	9.449%	24.409%	22.047%	27.559%
社会経済学科	0.377%	1.132%	1.509%	1.132%	3.019%	8.302%	15.849%	23.396%	20.377%	24.906%
現代経済学科	0.000%	0.000%	0.602%	0.602%	3.012%	4.819%	15.663%	25.904%	21.687%	27.711%
中国語学科	0.000%	0.000%	0.000%	1.124%	4.494%	5.618%	16.854%	19.101%	19.101%	33.708%
英語学科	1.531%	0.510%	0.510%	2.551%	1.020%	6.633%	16.837%	21.429%	18.878%	30.102%
日本語学科	2.000%	0.000%	2.000%	0.000%	2.000%	6.000%	12.000%	18.000%	18.000%	40.000%
法律学科	0.955%	0.318%	0.637%	0.318%	2.866%	4.140%	15.287%	24.204%	28.662%	22.611%
政治学科	0.662%	0.000%	0.000%	0.662%	1.987%	3.311%	12.583%	21.192%	27.152%	32.450%
国際関係学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	3.030%	3.030%	12.121%	30.303%	21.212%	30.303%
国際文化学科	0.000%	4.082%	0.000%	2.041%	0.000%	2.041%	18.367%	16.327%	14.286%	42.857%
経営学科	0.815%	0.272%	0.543%	0.543%	3.533%	5.163%	13.315%	25.272%	21.467%	29.076%
スポーツ科学科	0.820%	0.820%	0.820%	0.000%	4.918%	6.557%	12.295%	23.770%	18.033%	31.967%
健康科学科	1.316%	0.000%	0.000%	0.000%	2.632%	0.000%	9.211%	19.737%	30.263%	36.842%
看護学科	0.000%	0.000%	0.000%	0.000%	4.225%	4.225%	12.676%	14.085%	8.451%	56.338%
社会学科	0.000%	0.000%	1.905%	0.476%	3.810%	3.333%	14.286%	28.571%	19.524%	28.095%
全学	0.695%	0.463%	0.794%	0.662%	2.946%	4.932%	13.870%	24.297%	20.953%	30.387%

まとめと結論（全学共通科目・学生所屬別）

2024 年度前期に続き、学生の所属を軸に全学共通科目のみを対象として集計を行った。全学共通科目は 1、2 年生の履修者が多いことから、各学科の 1、2 年生の傾向がうかがえる結果となった。

- 全学共通科目は幅広い知識を得る機会であり、学生の関心に沿って自由に選択できる科目である。その選択においてシラバスは重要な役割を果たす。「シラバス内容を知っている」学生が、前期 81.4%であったのに対し、後期は 82.01%と僅かながら増加したのは良い傾向といえる。前期も指摘したことではあるが、内容だけでなく授業方法や DP との関連性等も明記されており、学生が自身の学びを体系立てて理解する一助となる。学生たちにシラバスの確認を強く促していくことも重要であろう。
- 授業での質問の有無については「質問したことがない」学生が 88.56%と依然として高数値を示した。受講者の多い全学共通科目は様々な学科・学年の学生が混在することもあり、学生が受け身になりがちで、教員との距離が生じやすい点は否めない。「質問したことがない学生」が前期(87.6%)より微増しており、これが一時的なものなのか注視しておく必要がありそうだ。
- 授業難易度に関しては「適切」と捉えている学生が 5 割を超えている。一方で、「やや

難しい」「とても難しい」と捉えている学生も4割を超えている。逆に「とても易しい」「やや易しい」と捉えている層が一定数を占める学科があり、学科間の相違が顕著となった。これは前期同様である。一つの学科内で授業を「易しい」と「難しい」と捉える層の二極化の傾向がみられる学科もある。2025年度には新学習指導要領のもとで学んだ高校生が入学してくることから、各学科においても初年次教育や補充教育を通して、学生の状況を注視しながら丁寧な対応がより一層求められることになりそうだ。

授業難易度の変動係数をみると全学平均は21.42%であった。これは他の質問項目の平均値と比べても、「質問への対応：フィードバック」(22.83%)に次いで高い数値を示し、良い傾向とは言えない。全学共通科目は人文・社会・自然科学と幅が広く、学生の得意、不得意が難易度の受け止め方に影響する可能性はあるだろう。とはいえ、学科間の格差が大きく、全学共通科目の授業の難易度の受け止め方は、主として1年生、2年生の学力のバラツキを反映していると考えられる。このバラツキが今後広がるのか、一時的なものであるのか推移を見る必要があるだろう。

8. 教員の意欲や熱意は4と5の合計が93.98%と高い数値を示している。前期の92.95%と比較しても微増している。12学科が全学の平均値を上回っており、多くの学生が教員の熱意を高く評価している。大人数の授業が多いなかで、教員による授業の工夫と授業改善の努力や熱意が学生に伝わっている結果であろう。

変動係数は質問項目のなかで最も低い数値を示しており、学科間の格差は生じているものの大きい値ではない。学生は教員の熱意に対して好意的な見方をしていると言えるだろう。

5. 成長実感は、4「どちらかと言えばそう思う」と5「強くそう思う」の合計が前期に比べると5.42%増加している。一部の学科では、1「まったくそう思わない」と2「どちらかと言えばそう思わない」が0.00%であった。先述したように、授業の難易度の受け止め方にバラツキは見られたが、それでも全学共通科目に積極的に取り組み、授業を通じての学びを高く評価していると言えるだろう。その意味では、多くの学生が大学生活の前半で受講する全学共通科目が、学生の学ぶ意欲を促していると言えそうである。変動係数も比較的バラツキが少ない結果となった。

6. 総合満足度に関しては、今後の推移を注視する必要があるだろう。学科部局別回答分布によると、満足度の低い層の増加、逆に満足度の高い層の減少といった前期から見られた傾向が続いている。微増減とはいえ、この傾向は無視できない。各評価の合計だけを見るとまずまずの結果となるが、詳細をみると満足度が落ちてきている。

授業の難易度の受け止め方についても二極化の傾向が続く。近年の学生の学力との関連性がないとは言えないだろう。授業についていけない層と物足りない層が一定数いることから、教員側も学生の動向を見ながらさらなる工夫が必要となりそうだ。授業難易度、および総合満足度の変動係数は相対的に高いことから、2025年度以降の推移は気にかかる。

以上

3. 各学部・学科によるアンケート結果についての考察

文学部 日本文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

すべてのQにおいて、全学平均を上回っていた。特にQ6「教員熱意」に関して、「1 まったくそう思わない」「2 どちらかと言えばそう思わない」が、832人の回答で0%という結果は、教員の全般的な努力の成果と思われる。昨年、Q7「授業を通じて成長したか」は、「5 強くそう思う」が全学平均 4.26 で学科が 4.28 であったが、今年は全学 4.31、学科 4.36 と多少の改善が見られた。授業で得た新たな知見について、丁寧に説明して学生の自覚を促すなど、工夫をしたい。

以上

文学部 中国文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a「シラバス既知」2「はい」(前期 84.10・後期 85.938)、Q1b「シラバス通り」(前期 4.36・後期 4.479)、Q2「難易度適切」3「適切」(前期 59.73・後期 53.906)については、総合的に全学平均値よりも高かった。Q3「質問対応」2「はい」(前期 79.50・後期 78.740)については、全学平均値より若干低かった。学生に質問を促すような指導や質問がしやすい環境作りに留意していきたい。Q4「フィードバック」(前期 4.22・後期 4.326)、Q5「自分意欲」(前期 4.23・後期 4.192)、Q6「教員熱意」(前期 4.63・後期 4.467)、Q7「成長感覚」(前期 4.34・後期 4.492)については、全学平均値よりも高く、とりわけ Q6「教員熱意」については、学科別で前期は3番目、後期は2番目に高く、Q7「成長感覚」については、後期は学科別で3番目に高かった。教員の熱意が学生にしっかりと届き、それによって成長を実感する学生が増えたと思われる。Q8「総合満足」(前期 8.37・後期 8.672)についても、全学平均値よりも高く、後期は学科別でも4番目に高かった。

次年度以降も、よりよい授業を目指して改善すべき所は改善していきたい。

以上

文学部 英米文学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

英米文学科における複数年に渡っての課題の一つとして、退学する学生への対応に関わるものがある。退学する学生数を減少させるための方策の一部として、授業の内容および難易度を、英米文学科の学生にとって適切なものになるよう維持、調整する努力を行うべきだということが、これまでも学科内で話し合われてきた。今後予定されているカリキュラム改訂においても、その課題への取り組みが模索されている。このような観点から、学生にとっての授業難易度を調査する「Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか」は、われわれ英米文学科の教員が毎年注視すべき項目であると言える。2024 年度前期の結果を見ると「適切だった」と答えた学生が 42.86%、「やや難しい」と答えた学生が 37.77%、2024 年度後期の結果を見ると「適切だった」と答えた学生が 49.39%、「やや難しい」と答えた学生が 34.78%であった。前期の結果は、大学全体の平均である（「適切だった」＝48.03%、「やや難しい」＝35.89%）と比べると、適切だと答えた学生の割合が約 6%低く、「難しい」と答えた学生の割合も学科内では 15.29%と、大学全体の平均を約 3%上回っていることから、難易度が学生にとって高めである傾向が見られた。ただ、後期になると、各数値がほぼ大学全体の平均と同程度であった。後期に限って言えば、学内の水準と大差がない難易度が維持されていたと言える。ただし、学科内での意識的な取り組みによって、このような良い結果の変化が生じたわけではない。むしろ、この結果のとらえ方のひとつの可能性として、英米文学科においては、年度始めには、学生にとって難解／やや難解な内容の授業を提供しているものの、一年を通して、学生がそれを難解／やや難解ととらえる割合を減らせているのだと言えるかもしれない。これはある意味、大学における学びの理想形に近いともいえる。つまり、当初は必ずしも簡単とは言えなかった授業内容が、1 年を通じての授業での学びにより、学生にとって十分に理解可能なものになっていったという見方ができる。いずれにせよ、今後のアンケート結果分析において、詳しく見ていくべき点のひとつとなるであろう。

これに加えて、学科の結果が、大学全体の結果と比べて、著しく高い項目としては「【Q3】 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか」がある。「ある」と答えた学生の学科内の割合は前期 26.5%(大学全体平均は 17.9%)、後期 28.3%(大学全体平均は 19.5%)という結果であり、学生にとって質問をしやすい環境があり、また教員が積極的に学生から質問が出ることを促しているということが推測される。文学、語学の両方を行うのが英米文学科の特色であるが、それらの学びの核にあるのはなにより、学生の主体性である。学生の主体性を積極的に受け入れる学科の現状が現れているのだと言えるかもしれない。

以上

文学部 教育学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

大部分の受講生はシラバスを確認し、また授業は概ねシラバス通りに行われていることが伺える（Q1,Q2）。前期アンケートにおいて、授業難易度については、85%以上の受講生が「適切だった」「やや難しかった」と回答しており、概ね、学生の理解力にあわせた授業が提供されていることが伺える。ただし、（教員に対する調査をしてみなければわからないが）近年は、意識的に難易度を下げて授業をつくっている教員も少なくないと思われる。それにもかかわらず、どちらかといえば難易度が高いと感じる受講生が多いことから、教員が理想と考える大学の授業と学生の授業認識との間には、一定のギャップがあることも想像できる。以上の傾向は、前期後期さほどの変化はない。

授業で質問したことのある受講生は、前期 16.1%、後期 18.1%と低い。授業が適切難易度で行われているために質問が少なくなっているという可能性、あるいは授業時のやりとりが頻繁であるために、わざわざ改めて質問する必要がなくなっているという可能世もあるが、授業に対する積極的な関与を引き出せていないという可能性もある。この回答傾向の背後にある状況を確認する必要がある（Q3）。フィードバックは概ね適切に行われている様子がうかがえる（Q4）。

授業に対する意欲は、概ね高いことが伺える（Q5）。また、受講生の多くは、授業に対する教員の「熱意」も高いものと感じているようである（Q6）。ただし、自分の意欲について「どちらともいえない」と回答する割合も 15%程度存在しており、教員の授業に意欲を感じない学生も数パーセントは存在している。これらの学生がなぜそのように感じているのか、フォローアップの必要性がある。

「この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか」という問いに対して、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答する割合が、88%（前期）90%（後期）となっており、受講生たちは一定の「成長感覚」を得ていることが伺える。ただし、「強くそう思う」の割合は50%弱にとどまっているという点では、課題もある（Q7）。

最後に授業満足度については、10点満点で平均 8.24 であり、満点の 10点と回答している割合も前期後期ともに 30%を超えており、概ね高いといえる。ただし、5点以下で回答している学生も 5%程度存在している。授業に対する学生の満足度がどのように分岐しているのかを検討する必要性も感じられる。

以上、教育学科の授業は、一定程度の課題はありつつも、概ね学生の実態に噛み合ったものが提供されていることが伺える。ただし、授業認識アンケートの回収率が低いので、来年度以降は、回収率をあげていく必要性もある。

以上

文学部 書道学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

【授業の難易度】

Q2「難易度適切」では、3)適切であった、の回答が54.37%と前期(57.6%)同様、全学4位。昨年前期は、やや難しい、の回答が全学科中最も多かったが、以降その傾向はみられない。授業の難易度設定を変えてはいないので、学生の反応に応じた教員の指導対応、フィードバックが適切であったことがうかがえる。

【フィードバック】

Q4「教員対応の適当」については、5段階平均4.55(前期4.59)と高く、特に、5)強く思う、の回答が73.2%と、前期(71.09%)に続いて他学科を圧倒している。昨年よりも数値が向上している点も見逃せない。

【学生の意欲/熱意】

Q5「自分意欲」については、5段階平均4.43(前期4.57)と高く、特に、5)強く思う、の回答が55.21%(前期61.87%)と、全学科中最も高い。書道学科の学生は専願入学者が多く、就学目的が明確であるため、他学科に比べて意欲的な傾向が強いといえる。

ただし、前期に比べ、後期の数値が下降する傾向がみられる。例年よりも休学者が多かったためであろうか。今後、初年次教育の強化も含め、個別面談の実施等、学生意識の把握に努めたい。

【教員の意欲/熱意】

Q6「教員熱意」は4.67と、前期(4.77)に続いて全学科中最も高く、学生の強い意欲(Q5)に対して、教員の対応、フィードバックが丁寧であり、適切であったことが見てとれる。

【成長実感】

Q7「成長実感」は前期後期ともに書道学科が最も高い(前期4.67/後期4.62)。特筆すべき点は、5)強く思う、の回答が、前期後期ともに全学科の中で突出している(前期70.1%/後期69.2%)。知識の獲得と技術の習得が強く実感できているようであり、何よりの結果である。

【総合満足】

Q8「総合満足」は10段階平均8.97と前期(9.13)に続いて最も高く、10)大いに満足、の回答が前期54.0%、後期49.58%。1)2)の満足できなかった、が0%。8)～10)の合計が86.12%を占め、他学科を圧倒している。学生の意欲と教員の熱意が密接に相互作用した結果であろう。また、学生個々の志向に応じた細やかなフィードバックも適切であったと思われる。

文学部 歴史文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

まずアンケート結果全体としては、全学平均程度か（前期のQ6「教員熱意」4.52で、全学平均（4.51）とほぼ同じだった。Q7「成長感覚」も4.29で、全学平均（4.31）とほぼ同じだった）、それより低い傾向にある。特に、後期のQ1b「シラバス通り」は4.313で健康科学科と並んで最も低く、前期も5番目に低かった。次に残念な項目としては、後期のQ3 授業で教員に授業に関連して質問したことがある学生が12.959%で、看護学科について2番目に少なかった。前期も授業で教員に授業に関連して質問をしたことがない、と答えた学生は85.9%で5番目に高かった。

逆により結果だった項目としては、後期のQ2で5「とても難しかった」の回答が5.56%と日本文学科について2番目に低く、難しいと考えている学生が少ないことがあげられる。なお、3「適切だった」の回答も57.69%という高い数値を示し4番目に高かった。前期もQ2で、3「適切だった」の回答が54.67%と、5割を超える数値を示し7番目に高かった。全体としては今回の結果を真摯に受けとめ、よい点を維持しつつも、特によくない結果の事項から改善していくことにしたい。具体的には、難易度の適切さを維持していくとともに、シラバス通りの授業と質問をしやすい環境整備を心がけていきたい。

経済学部 社会経済学科・現代経済学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

アンケート結果について、10点満点で評価した「Q8 総合満足」について、社会経済学科の平均は前期 8.16・後期 8.26、現代経済学科の平均は前期 7.41・後期 7.93 であり、全学平均の前期 8.19・後期 8.35 と比べるとやや低い。原因を考察するうえで、「Q2 難易度適切」「Q3 質問対応」「Q5 自分意欲」の回答に着目してみる。

授業の難易度を尋ねた「Q2 難易度適切」の結果を見ると、社会経済学科が前期 3.56・後期 3.50 であり、現代経済学科が前期 3.88・後期 3.70 である（全学平均は前期 3.55・後期 3.53）。これより、授業をやや難しいと感じている学生が多いことが伺える。

しかし、「Q3 質問対応」において、質問をしたことがあると答えた学生は、社会経済学科で前期 14.8%・後期 17.9%、現代経済学科で前期 16.5%・後期 16.1%と極めて少ない（全学平均は前期 19.5%・後期 17.9%）。ただし、前後期では回答者数が異なっている（社会経済学科は 174 名増・現代経済学科は 170 名減）。人数でとらえると、社会経済学科で前期 80 名・後期 128 名、現代経済学科で前期 116 名・後期 86 名である。質問内容は問われていないため、講義内容に関する質問も出席等の扱いに関する質問も含まれてしまうが、いずれにせよ、多くの学生が質問をしていない実態が浮かび上がる。講義で理解できていない点があっても解決することなく放置している学生が多いと思われる。

授業に対して意欲・熱意を持って取り組んだかどうかを尋ねた「Q5 自分意欲」の回答からは、経済学部生の意欲は、社会経済学科は前期 4.06・後期 4.04、現代経済学科は前期 3.87・後期 3.94 となっており、全学平均（前期 4.11・後期 4.12）よりも低い。

調査設計上の問題により、意欲が低いから満足度が下がったのか、あるいはその逆なのかの因果関係までは、本調査結果からは明らかにできない。しかし、経済学部内で前後期を比較すると、後期は前期に比べて、①難易度はやや低下、②満足度はやや上昇、③質問率は低いまま、となっており、質問などの積極的なアクションを起こさずとも、少し理解できる部分が増えたことにより、満足度も増えたと考えることもできる。つまり、特に前期において、もともと意欲が低い学生が、少し難しく理解が追いつかないことがあっても質問をして解消しようとしせず放置した結果、わからない部分が多いこととなり、満足度が低くなっている可能性が考えられる。

ただし、全学的に見ても代表性が疑問視される状態であること、学科の数値と全学平均の差が統計的に意味のある大きさなのかも不明であることなどから分析上、結果の解釈には留意が必要である。昨年度と比べ、学生満足度の大きな違いは見られない。経済学部のアンケート結果について、設問によって平均を上回ることもあれば下回ることもあるが、

平均値と極端に違うような項目は無い。平均値だけでなく、回答の分布を見ても、経済学部の結果が大学全体の傾向と大きく違うことはないように思える。

以上

外国語学部 中国語学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

【Q1a】あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

「はい(おおよそ)知っています」の割合は以下のとおりである。

前期 77.2%(全学平均 80.4%)(19/22 位)

後期 77.9%(全学平均 80.5%)(16/22 位)

シラバス内容を知っている学生が後期の方が前期より若干増えているものの、全学平均を下回っており、学生への周知を強化する必要がある。

【Q1b】この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか？

前期 4.35(全学平均 4.37)(19/22 位)

後期 4.39(全学平均 4.42)(17/22 位)

前期、後期何れも全学平均とほぼ変わらなかった。概ねシラバス通りに授業が行われているとの評価を受けたと考えられる。

【Q3】あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問したことがありますか？

「はい、あります」の割合は下記のとおりである。

前期 28.1%(全学平均 17.9%)(4/22 位)

後期 28.1%(全学平均 19.5%)(6/22 位)

前期、後期ともに全学平均を上回っている。学生が積極的に授業を理解しようとする姿勢がうかがえる。

【Q4】質問に対する教員の対応は適当だったと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強く思う」の肯定的な評価の割合は下記のとおりである。

前期 4.16(全学平均 4.15)(12/22 位)

後期 4.23(全学平均 4.21)(11/22 位)

前期、後期ともに全学平均を僅かながら上回っており、学生の質問に対する対応がある程度評価されていると考えられる。

【Q5】あなたはこの授業に対して意欲/熱意を持って取り組んだと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強く思う」の肯定的に取り組んだという学生の自己評価の割合は下記のとおりである。

前期 4.15(全学平均 4.11)(8/22 位)

後期 4.04(全学平均 4.13)(17/22 位)

前期に比べ、後期の割合が下がってしまった。次年度は学生の積極的な学習態度を生み出

すように一層努力する必要があると思われる。

【Q6】 教員は熱意をもってこの授業を行ったと思いますか？

「4.どちらかというと思う」、「5.強く思う」の肯定的評価の割合は下記のとおりである。

前期 4.49(全学平均 4.51)(14/22 位)

後期 4.45(全学平均 4.54)(19/22 位)

前期に比べ後期の評価は若干下がり、平均とそれほど変わらない。しかしながら、他学科と比べると評価は低いため、次年度は評価が上がるようにする必要があると思われる。

【Q7】 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉え方が深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか？

前期 4.29(全学平均 4.31)(11/22 位)

後期 4.27(全学平均 4.35)(19/22 位)

前期、後期の何れも全学平均を若干下回った。次年度は改善できるようにする必要がある。

【Q8】 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか？「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

前期 8.10(全学平均 8.19)(16/22 位)

後期 8.16(全学平均 8.35)(20/22 位)

前期、後期の何れも全学平均をやや下回っている。学生が満足していない点を探り、学生が満足するような授業を展開する努力が必要であるとする。

外国語学部 英語学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q3の回答結果によれば、「授業中に質問をした」と回答した英語学科の学生は全体の32.86%で、これは全学平均の19.54%に比べてはるかに高い割合であるといえる。また、Q4の回答結果によれば、教員の対応に対する評価の平均値(4.36)は、全学平均(4.22)より高い。このことから、英語学科の学生は他学科の学生に比べて授業に積極的であり、また、それに対する教員の対応も適切になされていることがわかる。また、他の回答結果も総じて英語学科は評価が高く、Q8の総合満足度でも「10」が35.71%と、全学平均の31.44%を上回る数値であることは評価できる。

前期から後期にかけての回答率の低下は、全学的傾向ではあるものの、英語学科の5.65ポイントの下落は顕著である。英語学科の学生は積極的に意見をいう傾向があるので、原因はアンケートに対する教員側の積極性にあると考えられる。ポイントを上げるためには、教員が告知に積極的になり、また学生の回答に対してフィードバックを確実に行う必要がある。

外国語学部 日本語学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

学生の自分意欲、成長実感、総合満足にかかる設問（Q5、Q7、Q8）について検討する。

「自分意欲」にかかる【Q5】については、本学科は4.20で全学平均4.13を上回っている。また、「成長実感」にかかる【Q7】では、全学平均4.35のところ本学科は4.40であった。ここで注目したいのは、【Q7】において「5強く思う」「4どちらかと言えば思う」の合計で92.21%を占め、その内「5強く思う」が50.85%、「4どちらかと言えば思う」が41.36%で、4よりも5の方が高い点である。

「総合満足」にかかる【Q8】も、本学科の平均は8.63で全学平均8.35を上回っている。特に、10が40.68%で、書道学科（49.58%）、中国文学科（41.41%）に次いで高かった。全学の結果では、「教員熱意」が「成長実感や学生の意欲向上」に繋がり、それらが「総合満足度」に大きく影響を与えていることが報告されているが、本学科においても【Q6】の「教員の熱意」は4.63（全学平均4.55）と全学科の中でも高い値を示しており、このことが「自分意欲」「成長実感」「総合満足」の高さに関係していると思われる。

これらの結果は、本学科で行っている少人数体制によるきめ細かい指導の成果と言えるであろう。

法学部 法律学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

(1)シラバス・授業内容について

シラバスの既知度(Q1a)に関しては、「知っている」が前期 79.1%(80.4%、以下カッコ内の数値は全学平均)、後期 77.9%(80.4%)と若干後期の方が下がっている。授業がシラバス通りの進行であったか(Q1b)については、前期 4.31(4.37)、後期 4.31(4.41)と同水準である。Q1a と Q1b に関する値は、前期・後期ともに全学平均より若干低いが大幅な差はないことから数値は適切であると思われる。シラバスと授業内容の周知については、引き続き学科として意識的に取り組んでいきたい。授業の難易度(Q2)については、前期 3.63(3.55)、後期 3.63(3.52)ともに同水準で、全学平均より若干高いものの、大幅な差はないことから、学科の教育内容の難易度は適切であると判断している。

(2)質問とそれに対するフィードバックについて

教員への質問の有無(Q3)については、「したことがある」が前期 10.7%(17.9%)、後期 13.05%(19.5%)と全学平均より低い。法律学科では履修者が 100 人を超えるような講義科目が多いが、こうした大講義科目では教員と学生間に距離があり、質問等に行きにくい環境があるのではないかと推測される(結果から推察するに、これは社会科学系の学部学科に共通の傾向と思われる)。今後対応を検討していく必要がある。フィードバック

(Q4) に関しては、前期 3.99(4.15)、後期 3.94(4.21)となっている。昨年度からは改善されており、回答分布を見てもマイナス評価(1や2の回答)はほとんどないが、まだまだ不十分と思われるので、質問とフィードバックについては教員に呼びかける等、学科としても意識的に改善に取り組んでいきたい。

(3)学生/教員の授業に対する意欲・熱意及び学生の満足度

学生の授業に対する意欲(Q5)については、前期 3.98(4.11)、後期 3.97(4.12)、教員の授業に対する熱意(Q6)については、前期 4.39(4.51)、後期 4.44(4.54)と、全学平均と比べるとやや低いと思われる。ただし回答分布を見る限り、マイナス評価はほとんどない。教員の熱意はある程度学生には伝わっているようであるが、それに対応する学生側の意欲や熱意の数値が高くないことから、学生側の意欲を向上させる取り組みを検討していく必要がある。また、成長実感に関する設問(Q7)に対して、前期 4.23(4.31)、後期 4.22(4.34)と全学平均と差はないものの、法律学科の様々な取り組みから考えると、やや低い印象がある。自身の成長を感じられるような取り組みを講義科目においても取り入れることによっ

て、この数字を向上させていくことが、学生の意欲(Q5)向上にもつながるのではないかと考えられる。学生の満足度(Q8)については、前期 7.83(8.19)、後期 8.05(8.35)と、全学平均よりもやや低いと思われる。また、満足度について 5 以下の回答をした者が、前期 11.24% (8.24%)、後期 9.37%(6.21%)と全学平均よりもやや高くなっている点にも注意が必要と思われる。結果報告でも成長実感(Q7)が満足度(Q8)に最も影響があることが指摘されていることから、まずは成長実感の向上により、学生の満足度を高める方向へと繋げていきたい。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

部局別回答率について、前期 29.07%(32.89%)、後期 24.11%(30.65%)と、全学平均と比較して（特に後期は）低いと思われる。ただし、全学共通科目における法律学科生の回答率は前期 47.74% (34.23%)、後期 35.48% (30.22%) と高くなっている。学科としては回答率が低く、特に 1 年生以外の未回答者割合が高いことから、教員に対して、学生の授業中の入力を促すよう引き続き求めていきたいと考えている。

法学部 政治学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

本学科学生の回答率は前期 38.10%、後期 35.81%と推移した。昨年度は回答率が上昇したことを考えると、2%強の減少はやや気がかりである。ただし、昨年度の回答率が 29.04%、後期 33.69%だったことを考えれば、回答率そのものは昨年度から上昇しているといえる。この数値をできるだけ上げていくための工夫が今後必要となるだろう。

また、教員によるコメント入力率は 50.0%と半数を満たしてはいるものの、やはり低いと言わざるを得ない。この点は今後の大きな課題である。

Q2 授業の難易度は、後期の全学平均 3.526 に対し本学科は 3.512 で、標準的。ほかの項目についてもおおむね標準的な数値である。Q8 総合満足度は 10 段階評価で 8.326 と、昨年度後期に比べて 0.2 上昇しており、さらに評価 8 以上と答えた学生は 75.184% と、昨年から 2%以上上昇している。大教室講義が一定数あり、教員一人当たりの学生数も多いことをも考え合わせるなら、前年に引き続き、本学科は健闘していると言える。このような上昇傾向はこの 3 年間で顕著になっており、さらにこの数値を伸ばしていくべく努力したい。

国際関係学部 国際関係学科・国際文化学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

国際関係学部全体で、2024年度後期の回答率は、前期と比較して5.35%減少している。特に、国際関係学科（以下、関係）では28.49%、国際文化学科（以下、文化）では32.10%と、全学平均(30.66%)を下回っている。学生への回答を促すとともに教員回答率も関係28.6%、文化32.3%と低いので、教員にも学生が答えてくれたアンケートへの回答を促したい。

シラバスの内容を認知している学生の割合は関係85.18%、文化では88.56%と、全学平均(80.49%)を大幅に上回っており、昨年度と同じ傾向である。

授業の難易度が「適切」または「やや難しい」と回答した学生の割合が関係で87.86%、文化では81.89%と、全学平均(85.51%)とほぼ同等である。しかし、文化では「適切」と回答した学生が48.62%と低く、文化には難しいと感じる学生が多いようだ。

授業中に教員に質問したことがある学生の割合は関係21.74%、文化では23.96%と、全学平均(19.54%)を上回り、昨年よりも上昇し、質問に対する教員の対応についても、肯定的な意見が多い。

学生の授業に対する意欲は関係が全学平均と同程度で、文化は全学平均よりも高い。教員の熱意については関係4.66、文化は4.60と高い評価を得ている。

質問への対応や熱意からわかるように、関係の総合満足度は8.55、文化では8.50と、全学平均(8.35)を上回っている。

今後の課題として、国際関係学部全体として、回答率の低下に加え、教員のアンケートへのフィードバックを促すとともに、依然、授業における難易度設定は学生間でばらつきがある。今後も、教務委員会や教授会で議論を重ね、各数値をより高めるよう、授業の改善や向上に努めたい。

経営学部 経営学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

Q1a「シラバス既知」は、前後期とも80%以上で全学平均と同水準であった。Q1b「シラバス通り」は、前後期とも4pt台前半と全学平均と同水準であった。学生はシラバスを参照したうえで履修登録を行い、教員はシラバスに基づいた授業運営を行っていると考えられる。

Q2「難易度適切」は、前後期とも3pt台後半であり全学平均と同水準であった。適切な難易度設定のもと、学生は授業に取り組めていたと考えられる。

Q3「質問対応」は、前期10.3%、後期15.8%であり、全学平均（前期17.9%、後期19.5%）と比べてやや低い。教員への質問手段の周知方法の改善など、さらなるインタラクションの工夫の余地があるといえるだろう。

Q4「フィードバック」は、前期（3.83pt）・後期（4.08pt）とも全学平均をやや下回る。Q3の結果と同様に、学生とのインタラクションの工夫の余地があるだろう。

Q5「自分意欲」は、前期（3.94pt）・後期（4.02pt）とも全学平均と同水準である。他学科と比べて5点をつけた比率（前後期でおよそ25-28%）がやや低く見受けられる。

Q6「教員熱意」は、前後期で4.3-4.4ptであり、全学平均よりもやや低かった。しかし、前後期とも最頻値は5点（前後期ともおよそ50%）である。

Q7「成長実感」は、前期（4.18pt）は全学平均よりやや低かったが、後期（4.27pt）は全学平均とほぼ同水準であった。

Q8「総合満足」は、前期（7.73pt）は全学平均よりやや低かったが、後期は8.17ptに向上した。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

全学FD委員会による今回調査データによる相関分析の結果から、「総合満足」には、学生のQ7「成長実感」、Q6「教員熱意」、Q4「フィードバック」などが正の相関を持つことが示唆されている。

本学科にて「成長実感」をさらに高めるには、授業の理解度の確認などにさらなる工夫が必要であると考えます。2024年度は、前後期の調査により、Q4「フィードバック」が後期に上がることが明らかになった。また、Q3「質問対応」に関するポイントも同様である。しかし、Q3およびQ4ともに全学平均をやや下回り、学生とのインタラクションの機会を持ちながら年間を通じてどのように授業運営すべきか、検討の余地があるといえる。経営学科教員のQ6「教員熱意」は特設問題のある水準とは思われないが、大教室で

の授業運営が多いという学科上の特質から、教員の熱意が学生に十分に伝わりきらないことが想定される。

なお、学生の回答率は前期 26.43%、後期 22.39%であり、回答率は前期の方が高かった。しかし、高い水準とはいえないだろう。授業認識アンケートへの回答も含め、学科 FD 研究会などの取り組みをとおして、学生の積極的な授業参加を促す工夫を各授業で検討したい。

スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値を取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

スポーツ科学科は2024年度前期においては回答率が32.98%であったが、後期には26.48%というように、6.5%の減少となり、健康科学科に次いでの減少率となった。今後は回答率を高めるように努力していきたい。なおこのアンケートは学年が上がるにつれて回答率が下がっているが、恐らく学生側から見た場合、アンケート回答が直接、当該授業の改善につながらないと考えられているためではないかと推測される。

【学生からの高評価】

Q2「難易度適切」については、教職課程センターを除くと、3（授業難易度が適切）が最多で（62.734%）、全学平均よりも12%以上高く、これは適切な内容の授業が行われている証拠と思われる。今後も学科全体として学生の理解度の高い授業展開を目指していきたい。しかし他方でこの設問では授業の難易度について「とても易しい」「易しい」と回答している学生が6%程度おり、全学平均と比較して1.5倍から2倍程度の数値であるのも特徴で、これは長年スポーツにある程度通曉した学生が本学科に入学する傾向があるためであろう。なお、「とても易しい」「易しい」と回答する学生が全学平均より多いことに関しては、一般入試で入学した学生と、特別入試および推薦入試で入学した学生との基礎学力の差がある可能性が影響しているかもしれない。つまり一般入試で入学した学生を中心とした、比較的基礎学力の上位層にいる学生にとっては少し物足りないレベルに感じてしまう授業もあるのかも知れない。いずれにせよ、そうした学生に対してもより高度な技術・知識を伝達できているのかといった検討が必要である。

またQ5の「自分意欲」については、本学科は5が特に多く、かつ4と5の合計数値が書道学科に次いで高いのも特徴である。これはQ2との関連で言えば、授業を易しく感じる学生には、数々のフォローによって、習熟レベルの個人差を超え、各学生たちが授業により高い意欲を保っている結果と考えられる。

Q6の「教員熱意」についても、5の評価が全学平均よりも高いことから明らかなように（学科としては5番目）、学科全体で熱意をもって教育活動を行っていることが学生たちに伝わっていることが判る。特に1年生には、入学当初にスタートアッププログラムが実施され、その後もフレッシュマンセミナーをはじめとする、スポーツ科学科独自の授業が配置されており、その授業内容（校歌や社会的マナーの教授等）から教員の熱意を感じ取っているのではないかと。また2年生のキャリアセミナーでもそれぞれの教員が時事問題・SPI・一般常識を担当するだけでなく、就職市場で学生のリクルーティングに関わる者を外部講師として招聘するなど、直接就職につながるマナーや技能・技術を熱心に伝授

していることも影響したものと思われる。そして上記の内容に加えて、教員が一人一人の学生のことをよく把握することに努め、コミュニケーションをよくとっていることも、教員の熱意を感じて取って貰える要因になっていると考えられる。フレッシュマンセミナーやキャリアセミナーに加え、特にスポーツ実技、演習、教職等、学生との距離が近い授業ではその熱意が伝わりやすいのであろう。

Q7「成長感覚」については、5割を超えた学生が5を付け（56.733%）、全学平均（48.417%）よりもかなり高い数値である。また2023年度には約1割程度の学生たちが3（どちらとも言えない）や2（どちらかと言えばそうとは思わない）、1（まったくそう思わない）を付けていたが、今年度は6.954%となり、成長感覚が感じられない学生が減少した点でも本学科の教育は評価できる。

Q8「総合満足」については、全部署のうち書道学科に次ぐ2位であり（平均値8.706、全学8.354）、喜ばしいことである。いずれにせよ、全ての項目において学生たちの満足度を高めることは重要であるが、今後も「成長感覚」「教員熱意」「難易度適切」を高めていくことが、学生の「総合満足」の上昇に大きく貢献するものと思われる。

【学生からの低評価】

本学科の学生アンケートは、学内において比較的ネガティブな要素が少ない傾向にあると考えられるが、いくつか気になる点も見られた。たとえばQ1aの「シラバス既知」に関しては、全学平均よりも「あまりよく知りません」が5%程度多い。既にガイダンス等での周知は行っているのに、なぜこのようになるのかは疑問であるが、今後はより徹底させる方法を教員一同で考えていきたい。

後、やや気掛かりな数値として看取できるのは、全学共通科目におけるQ2「難易度適切」に関する回答分布で、5（とても難しかった）の回答が全学9.028%であったのに対し、本学科の学生の反応は20.325%というように2倍以上に及んだことである。4（やや難しかった）の回答を合わせると、その比率は46.341%となり、全学（41.568%）よりも5%程度、全学共通の授業についていくのが難しい学生が多いことが看取される。ところが他方で1（とても易しい）2（やや易しい）を付けた本学科の学生の比率は4.878%で、これは全学平均の3.869%よりも1%多い。つまり本学科は他学科以上に学生間の学力格差が大きく、かつ一見スポーツと関係ない教養科目に対する無関心ぶりも高いことが窺われる（専門科目における「難易度適切」で3【適切である】が多かったのとは対照的である）。こうした格差解消のためにも、リメディアル教育等に力を入れていく必要があるとも考えられる。

【その他】

スポーツ科学科の教員による昨年度の授業評価アンケートの回答率は常勤教員で23.8%、非常勤で41.9%であったため、今年度は回答率上昇を目指していたが、遺憾ながら、前者で20.2%、後方で40.2%に留まってしまった。あらためて事を重く受けとめ、次年度以降の回答率上昇を目指して、何らかの対応策を考えていきたい。特に学生に対し課

題等の提出物について、べ切り厳守等を求める立場である教員の多くが回答していない状況はお粗末と言わざるを得ないであろう。

スポーツ・健康科学部 健康科学科

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

本学全体のアンケートに対する回答率として、本学全体では、前期 32.89%、後期 30.66%という結果であったが、健康科学では、前期 47.44%、後期 35.79%であったので、後期では 11.65%、回答率が低下した結果となった。全学レベルと比較して回答率は良いものの、後期では前期より 10%を越える低下があった。本学科において昨年度と比較すると、昨年後期では前期比、19.4%の上昇であった（全学は 8.93%の上昇）ため、本年度の低い結果は、学生への周知が悪かったことが原因なのか、それとは別の問題があるのか検討が必要と思われる。後期に限ってみると、回答数は 568、未回答数が 1019 であったため、数として今後の対策が必要であるが、ネット経由でのアンケートであるため、実際にアンケート用紙を回収する方式とやや異なり、提出したかどうかの最終確認が難しいことが、学生の回答率を上げるという点では課題である。また、本学科が担当する全学部共通科目では、回答率が 27.94%であった。全学平均に比してやや低い、全体として受講者数が 272 名という全学部のなかでも少ない数であり、回答数が 76 であるため、百分率で表したことも影響している可能性がある。しかしながら、来年度は学生への周知を通してなるべく回答率を上昇させる努力が必要と思われる。

細かく検討すると、Q1 のシラバスの既知度を示す数字としては、前期 81.0%、後期 75.3%であり、全学のそれぞれ前期 80.4、後期 80.4%と比較して実数的にはほぼ同等の数字であった。これは、本学科に特徴的な傾向ではなく、更にこの周知度を上げるためには、全学的な取り組みが課題といえる。また、教員のコメント入力状況が学生のアンケートに対する入力への動機付けともなると考えられるため、その意味では、コメント入力割合が、学生への動機づけになり、学生の学びの姿勢や満足度にも繋がる内容と言え、今後の数値の上昇へ向けた努力の必要性を感じる。次年度への重要課題として教員間の情報共有をしたい。また、シラバス活用法や折りにふれた学生への周知についても教員側の工夫が引き続き健康科学科における教学上の課題といえる。

一方で、Q1b の回答にあるシラバスに沿った講義であったかの回答では、5 段階の評価で 4.31 の回答であった。全学部でみると、4.31 から 4.61、平均 4.418 であり各学部学科ともほぼ同じ数字である。これに関して、講義では教科書を指定し、学生の理解度を確認しながら予習、復習を前提に進めること、学習目標を定めてそれに向けた計画を進めるためほぼ同じとなることが想定できる。今後も学生の学習計画として、予習復習が行いやすいようなシラバスの表記や講義計画を心がけるように教員間での情報共有を行いたい。

ところで、健康科学科は、本学においては数少ない自然科学系を主とした学科であるこ

とは周知のとおりである。3コース制（臨床検査、健康マネジメント、理科）を展開することになり、各コースを選択する学生が新しく各コースで実験・実習を進めることになったが、学科の特性として、どのコースとも学習量が多く、実習の内容が実践的であることが特徴である。また本学科の場合は、入学時点での自然科学系の知識・理解量に関して、学生ごとに差が大きく、場合によっては高校時代に文系コースに在籍していた学生が少なからず存在し、本学科独自に入学から前期の終了時まで、化学、生物の補習授業・リメディアル教育は欠かせないものとなっている。加えて留学生の受け入れを開始した令和5年度以降において、日本語が母語でない留学生の受け入れへの対応にも少なからず困難さがあった。

以上のような学科の実情に鑑みてアンケート結果を考察すると、Q2「授業の難易度の適切性」については、「4・難しかった」「5・とても難しかった」等の評価で平均3.747であった事が示すのは、学生にとって、「授業は難しい」ものと写っていることである。他の学科と比較をしても「授業がとても難しい」と感じている学生の割合が16.14%点と全学科のなかでも、看護学科（20.98%）とともに非常に高く、リメディアル教育の不十分な点が数字として表れているのかもしれない。特に臨床検査コースでは、膨大な医学用語を記憶する必要もあり、学生の日々の努力も必要となるが、教育する上で実践に活用できる工夫の共有を教員間で情報共有するなど必要性を感じる結果でもあった。

学生自身は、講義内容が難しいと分析、判断しているものの、難易度が適切かというQ2の質問では、評価3、評価4で82%を超え、評価3が52.8%に登るため、講義の内容は難しいものの、自らの目標とする国家試験や資格取得という目標に対峙した場合、講義の内容が概ね妥当であり、適切と理解しているものと考えてよいと思われる。

気になるアンケート項目の結果として、Q3の「質問対応」であり、質問をしたことがないという学生が81.4%いることである。同様な科目特性をもつ看護学科も92.4%の高い割合という結果になっている。この数字が示していることは、医療分野では、内容を理解し記憶するという特性が高いため、「なぜ？」という疑問が講義後などに生じにくいものかもしれない。しかし、一歩踏み込んで考えると、「なぜそうなるのか？」という疑問が生じてしかるべきであり、その一歩の踏み込みができていない可能性がある。その一歩を踏み込み込む事が出来れば、さらに理解が進み、将来の研究や深い学びに繋がると考えられるため、そのような深い学びへ導く指導法が今後に残す課題と考えられる。

それに連動するフィードバックに関しての質問である、Q4「質問に対する教員の対応」であるが、評価は、4.20という値であり、全学平均とほぼ同じであった。教員の対応は、学生にとっての満足度に直結する項目でもあり、質問に対する満足度が低いと、質問をする頻度が低くなるという悪循環に陥ってしまうことは容易に想像される。今以上に、学生の満足度が上がるような質問を受ける体制作りも更なる課題と言ええる。

次いでQ5「意欲をもって取り組めたか。」の質問については、自分意欲の有無という質問として考えているが、4「どちらかと言えばそう思う」49.56%、5「強くそう思う」

32.45%と、4と5の合計82.01%で8割を超えており、学生は意欲をもって授業に取り組んでいたことが伺える。この数字はどの学部、学科においてもほぼ差がなく学生の学習意欲は概ね高いことがわかる。質問の仕方としては、余り客観性がなく、主観的に聞くとどうしても自己評価としては「取り組んだ」という回答になる傾向もあると考えられ、出席日数とかレポートの提出の割合、課題提出までの日数など客観性を持つ質問形式の方が良かったのかもしれない。

Q6「教員は熱意を持って取り組めたか」の質問に関しては、Q6に対する値として、全学の平均値が4.55であるのに対して、健康科学科の値は4.53であり、ほぼ同じ値であった。「1」の評価が0.53%であったことや、「4」、「5」の評価で94.5%という値であり良い評価であったと考えられる。この傾向を今後も維持する努力が望まれる。

Q7「この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは技能が向上した」などの成長に関する質問では、「4」および「5」の評価で88.77%を占めており、また「4」より「5」の評価のほうが高い。これは本学科のみならず全学的な傾向であるものの、良い傾向といえる。具体的な効果が同反映したかの判断は難しいが、今後もこの傾向を維持しつつ、学びをとおして「より向上したという実感を持つことができる指導」を工夫する必要があると思われる。

Q8 総合的に判断した満足度に関する分析として、「10」が30%を越える学科があるなか、本学部では、健康科学科のみが「10」の評価が30%を越えることが出来ておらず、24.83%であった。「1」の評価が0.53%（前年は0であった）ため、今後の対策により「10」の評価が増加していくこと、「1」、「2」の評価をなくす努力が期待される。学科全体での工夫や教員間でのFD等を通した情報共有などが必要と考えられる。

■アンケート結果について上記以外でお気づきのことがあれば、記述してください。

新型コロナウイルス禍で中学、高校生活を送った学生が大学生活を過ごす中で、オンライン中心の授業から実際の講義として対面式講義、実際の実技、実習の学びが進められ、学びの方法や質が大きく変化し、本学での学びに戸惑いを感じていることは講義などを通して感じているが、その戸惑いを可能な限り解消して、大学での学びを自分のものとし、これまでの受け身の学びから、自らが学ぶという姿勢を獲得させることや社会で活躍できるような人材に育てることは大学の大きな使命である。アンケートを取ることで、学生自身もまた、大学で学生に接する教職員も認識を新たにすることができたと思われる。本学科についても様々な問題点・課題が浮き彫りになった。本調査の詳細な分析を今後を活用していきたい。

以上

■Q1a～Q8の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

「のべ回答者数ならびに回答率」については全学的には減少傾向にあるとのことであるが、当学科は昨年度の取り組みが本年度も継続された背景があるためか、増加率の高さが全学的に1位（9.28%増加率、回答率は後期66.56%、前期57.28%）で飛びぬけている。この様な結果に至った具体的な取り組みとして、アンケート実施開始時ならびに実施中、終了直前において学科内周知および授業に差し支えない範囲で単元内に取り入れるなど能動的かつ意識的に回答機会を設けるなど工夫を行った。今後も自らにおけるFDの一環等、明確な目的を持つ性質であることを念頭に継続した活動となるようにしていきたい。

「シラバス通りに運営していたか」の問いに関しては平均より4ポイントほど高く、学科の特性もあろうがシラバスと授業内容において一貫した教育活動がなされていると推察される。今後もさらにわかりやすいシラバス作成に向け意欲的主体的な学習に臨めるような学習環境の提供の一端として取り組みたい。

「授業の難易度適切性」に関する問いでは「難易である回答」が比較的多いが、これは基礎教育から発展・応用にかかる際の段階的において、そのレディネスを十分に踏まえた教授内容となっているのか等の学生観を鑑みることが重要であると考え、教務委員会を中心に今後検討していきたい。

「質問に対する教員の対応の適当性（フィードバック）」に関して、最も高い法律学科に次ぎ、変動係数は24.174%であった。これは『医療職育成』という課程でもあり、特に臨地実習等に関わる科目に関して、伝達相違（フィードバックミス）は許されないという背景があることから、このような結果が導き出されたと考える。

上記の質問に対応する回答として「授業に対して意欲/熱意をもって取り組んだか」に対しては変動係数20.96%と平均を超え全学の上位位置にいる。これは、学生と教員が意思を交わし、かつ、学習進捗に合わせた教育活動の一端を垣間みえる。医療職人材教育には「報告・連絡・相談」は高い看護実践能力を修得するためには必須技術である。また「教員は熱意をもって授業を行ったか」の問いにおいても16.21%という結果を持ち全学平均以上かつ全学上位にある。学生および教員の熱意をさらに良いパワーに向くように歩んでいきたい。

「この授業を通じて『知識が増えた』『知識が深まった』『技術が向上した』などの成長実感」では20.26%である全学トップの変動係数の結果であった。これは教員が学生それぞれの『特性』や『強み』を見出し、学生が教員の指導に応じ体感した結果にあると考える。学生個々人そして集団として十分な学生との対話を大切にした学科の取り組みの成果であると考え、今後もこの結果をふまえ精進していきたい。また「全てを総合してどの

程度満足したか」の問いにも平均を大きく超え 38.52%であり全学上位に入っている。大変光栄に思う反面、これに甘んじず今以上に円滑かつ高い次元での科目到達目標を達することができるようブラッシュアップしてまいりたい。

社会学部 社会学科

【総括】

全体として web 回収率が 30.656%となるなかで、社会学科は回答率 41.693%と全学科中 2 位（回答数は 1 位、1,586）であり全学科で 40%を超えているのは看護学科（66.558%）と本学科の 2 学科だけであった。しかし、教員のコメント入力状況は、社会学部 46.4%は全学部中 6 位と下から 3 番目の低さであり、上位 1 位の国際関係学部 60.0%と 13.6 ポイントの差がある。アンケート結果にもあるが、教員のコメントは学生のアンケート回答意欲にも関わってくると考えられるため、アンケートに対する学生意識の維持向上を図るとともに、教員への積極的な働きかけをしていきたい。

社会学科は、シラバス内容の学生理解（Q1a）とシラバスにもとづいた授業運営（Q1b）は低い数値となっておりシラバス活用について学生、教員ともに周知していく必要がある。教員のフィードバック（Q4）は全学平均と同程度だが、学生の授業参加（Q3）は消極的であるという結果となった。改善に努めたい。Q8「総合満足」は下から 5 番目の低さであり、学生が入学前または在学中に抱いていた期待に応えられていない可能性がある。今後は、前年度の結果とも比較しながら個々の結果に対してより詳細な分析を行い、学生の意欲・満足を高める授業運営ができるよう授業の質を高めていきたい。

■Q1a～Q8 の中で貴学科において気になった数値などを取り上げて、全学平均値や他学科との比較などの観点から分析し、記述してください。

【シラバス】

Q1a あなたはこの授業のシラバス内容を知っていますか？

この質問に対し、全学で「知っている」と回答した学生が 80.49%であるのに対して、社会学科では 77.12%であり、全学よりも 3.37 ポイント低かった。最も高い学科である国際文化学科は 88.56%であるため、それとの差は 11.44 ポイントとなる。また同じ社会科学でも経済学部（85.28%、80.82%）や法学部（77.99%、81.03%）の、いずれよりも低くなっている。総じて 20 学科中、下から 3 番目の低さである。シラバスに基づいての履修登録に改善の余地を残す結果となっており、各学年のガイダンス等での周知徹底が必要かと思われる。

Q1b この授業はシラバスの記述通りに行われたと思いますか。

設問 Q1a で「知っている」と回答した学生のみが回答するもので、選択肢は「1」の「まったくそうは思わない」から、「5」の「強くそう思う」までの 5 ランクである。全学の平均は 4.42 であるのに対し、社会学科での平均値は 4.40 であり、全学平均をやや下

回った。社会学部の回答別では、「強く思う（回答5）」が48.64%、「どちらかと言えばそう思う（回答4）」が43.21%で、合計は91.85%となる。全学での回答5と回答4の合計は91.58%で、ほぼ同じである。社会学部としては、回答5の回答率がそれほど高くない代わりに、回答4が高くなり、両者で全学の値に近くなる結果となっている。変動係数の社会学部15.16も、全学の15.79より小さく、バラツキは小さくなっている。以上より、9割以上の回答が5か4であった点からすると、社会学部の授業は概ねシラバスの記述通り行われていたと言ってよい。

【授業の難易度】

Q2 自分にとってこの授業の難易度は適切だったと思いますか。

全学の平均値3.526に対し社会学科の平均値は3.457で、その差わずか0.07と大差なかった。いっぽう難易度別の回答者比率をみると「適切だった」または「やや難しかった」との回答者が合計86.26%おり、全学の85.51%を上回っている。これは全学にくらべ「適切だった」との回答者が3ポイントほど多かった（社会53.4%、全学50.1%）ことによる。「とても易しかった」または「やや易しかった」との回答は計社会学科で4.54%、全学で3.63%である。また「とても難しかった」との回答は社会9.20%、全学10.87%とやや少ない。変動係数もやや低い（社会15.16、全学15.79）。したがって社会学科の授業の難易度は、全学に比べやや適切で易しい側に寄りつつ、平均値周辺に集まっている。部局・年度によって学生の理解力やカリキュラムの要求する難易度も異なるので単純な比較はできないが、社会学科の授業の難易度は比較的適正な状態にあると言える。

【質問対応】

Q3 あなたはこの授業で教員に授業に関連して質問をしたことがありますか。

全学の平均値19.538%と比較すると社会学部は13.426%と、看護学科、歴史文化学科、法律学科に次ぐ低さである。これが何を意味するかについては解釈の難しいところであるが、授業参加に消極的であることは良いことではなく、改善が必要である。

【フィードバック】

Q4 質問に対する教員の対応は適切だったと思いますか。

Q3で「授業に関連して質問したことがある」と回答した6,097人の教員からのフィードバックに関する意識の平均が4.22(前期は4.15)、標準偏差0.94(前期は0.96)となり、前期より改善している。社会学科平均は、4.04(0.92)であり教員のフィードバックがあったと回答していると解釈できることから、全学平均と大差はない。Q3の結果と合わせて、発問力のある学生を増やすことで教員のフィードバックも増加するのではないかとと思われる。

【学生の意欲／熱意】

Q5 あなたはこの授業に対して意欲／熱意を持って取り組んだと思いますか。

全学の平均は 4.13 で、前期に比べてやや高い数字で、社会学科は 4.02 であった。社会学科の「強く思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計は 79.57%であった。他学科に比べて「まったくそう思わない」と回答した学生の値が 0.98%と全学平均（0.58%）に比べてやや高い。数は少ないものの、学習意欲を喪失した者が複数存在する可能性があり、丁寧なケアが必要である。

【教員の意欲／熱意】

Q6 教員は熱意を持ってこの授業を行ったと思いますか。

全学の平均は 4.55（前期は 4.51）であった。社会学科は、4.52 であり全学の平均並であった。この熱意の度合いを見ると、社会学科は「強くそう思う」（61.77%）、「どちらかと言えばそう思う」（30.35%）を合わせると 92.12%であり、全学的な傾向と同様、教員が熱意を持って授業を行っていることが伺えた。

【成長実感】

Q7 この授業を通じて「知識が増えた」あるいは「ものごとの捉えかたが深くなった」あるいは「技能が向上した」などの成長があったと思いますか。

全学の平均値は 4.32 で、社会学科では平均値 4.33 であり、他学部と比較しても標準的である。次に、社会学科の「成長感覚」について、回答別に見てみると、「強く思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合計した割合は 91.90%であり、「成長感覚」を高く感じていることが分かる。その一方で、「どちらとも言えない」「どちらかと言えばそう思わない」「まったくそう思わない」の合計が 8.09%で、8%ほどが「成長感覚」を実感していないことが浮き彫りとなった。この学生に対して学習意欲の改善などの手立てが必要であろう。

【総合満足】

Q8 すべてを総合して、この授業に対してどの程度満足しましたか。「大いに満足した」を 10、「まったく満足できなかった」を 1 として、10 段階で最も近いと思われるものを選んでください。

全学の平均値は、8.34 であり、前年（8.26）より僅かだが上昇している。社会学科の場合には総合満足の平均値は、8.31 となっており前年（8.12）と比較し上昇している。

また本質問に対する社会学科の回答分布は、「10」が 28.09%、「9」が 19.52%、「8」が 28.57%となっており「8」以上が 7 割以上を占めている。他方「6」以下は、9.52%である。

4. おわりに

2024 年度の「学生による授業認識アンケート」の全容は以上のとおりである。各学科がさまざまなデータを基に議論され、今後の課題を明確に把握されたことがよくわかる。ここでは全学的な課題と今年度の試みを改めて挙げておきたい。

継続課題として、回答率の低さと結果に対しての教員からのリプライ率の低さが挙げられる。昨年度同様に対象科目を各教員が担当する科目のなかから履修者の最も多い科目に限定したことで、回答率については前期後期ともになんとか 30% 台を保つことができた。とはいえ、決して高い数字ではない。それでも 30% 台を維持できたのは、多くの教員が授業中に回答を促してくれるようになったことが大きいと思われる。アンケート実施を失念することがないように、教員控室で声をかけてくれる事務の方々のご協力があったことも大きい。アンケート結果を解釈する上での妥当性を考えると、より一層の回答率の向上が求められる。

回答率の向上にあたっては、Web 回答方式が一つの壁になっているようだ。これも昨年度同様の課題である。スマートフォンからの回答は思ったよりも回答率が伸びず、授業の出席者数に比べ回答者数が少ないことに驚く声が聞かれた。スマートフォンを手にしても、アンケートに答えているとは限らないのだ。大人数を抱える科目の回答率が芳しくないのも回答率が伸びない要因となっており、大人数の科目ほど web 回答方式がネックとなっていることも考えられる。根気強く回答を促すしかなさそうだ。

学生の回答に対する教員からのリプライも十分とは言えない。本アンケートの目的は、その結果を授業改善に活かすことである。意見や感想を寄せてくれた学生たちの声に耳を傾け、今後のアンケート回答に対するモチベーションを維持するためにも、教員からのリプライを徹底していく必要がある。

最後に、今年度からの試みについて触れておきたい。新たな情報として変動係数を提示し、学科間のバラツキの相対的な格差を可視化した。数字の大きさはバラツキの大きさを示すため、多様な入試形態で学生が入学してくることを考えると、この数字は留意しておくほうが良いと思われる。各学科で教育方法や学生指導を考えるうえでの参考にしていただければと考えている。

今後は学科内での FD 活動等を通じて、これらの結果や考察がより積極的な授業改善の動きにつながっていくことを期待したい。

以上

資料

1. 大東文化大学全学 FD 委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、大東文化学園内部質保証推進委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教員の教育の内容及び技法の改善、その他研究活動、社会活動等における教員の資質の向上を組織的に支援することを目的とする。この目的達成のため、全学FD委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教員の教育活動、研究活動、社会活動等に対するFDの視点からの分析及び提言、並びにこれらの効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) FDに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) FDに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者 1名
- (2) 各学部が選出する者 各1名
- (3) 各研究科が選出する者 各1名
- (4) 学長が指名する者 若干名

2 委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。

3 委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。

- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 委員会が必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則（平成21年6月15日）

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則（平成22年2月22日）

- 1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

附 則（平成27年3月18日）

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則（平成31年2月25日）

(施行期日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日より施行する。

(規程の改正及び名称の変更)

2 平成18年5月15日制定及び施行の「大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を改正し、名称を「大東文化大学全学FD委員会規程」に変更する。

附 則（令和元年10月28日）

この規程は、令和元年10月28日から施行する。

2. 2024 年度 学生による授業認識アンケート実施要項

全学 FD 委員会

2024 年度『学生による授業認識アンケート』実施要項

1. 目的

履修学生の授業に対する認識を調査することで、授業の内容や方法の改善に役立てるために実施する。

2. 対象科目

- (1) 本アンケートは前期および後期に実施する。前期実施時は、前期科目（前期後半含む）を対象とする。後期実施時は、通年および後期科目（後期後半含む）を対象とする。
- (2) シラバスに記載されている開講科目（大学院の科目を除く）。但し、受講者が5名未満の科目、オムニバス科目、専門演習科目（ゼミ）については対象外とする。
- (3) 対象科目は教員（専任・非常勤問わず）1名につき1科目を対象とし、原則として履修者の多い科目を対象とする。
- (4) 所定の期間内に教員より、アンケート実施科目の追加または変更について、希望があった場合には全学 FD 委員長と協議のもと個別対応とする。
- (5) 対象科目の確認、追加・変更申請期間（予定）
前期：2024年5月28日（火）～6月9日（日） 後期：2024年10月29日（火）～11月10日（日）

3. 調査項目

- (1) Web 方式 C-Learning 上で、選択式項目を基本とし、加えて自由記述欄を設ける。
- (2) 任意で教員独自の設問（個々の教員が受講生から意見を聴取したいと思う内容）を設けてもよい。独自の設問を実施する際は、設問を提示または配信して学生に周知する。

4. 回答期間（当該教員は随時結果閲覧可能）

前期 2024年7月1日（月）～7月14日（日）対象科目：前期科目（前期後半含む）

後期 2024年12月2日（月）～12月15日（日）対象科目：通年・後期科目（後期後半含む）

5. 実施方法

Web 方式 C-Learning にて実施。可能な限り方法 A で実施し、不可能な場合は方法 B による。

方法 A：実施期間内のどこかの授業内の10分程度を使って実施する。

方法 B：アンケートの QR コード等を提示/配信した上で、実施期間内（上記4）の

回答を促す。(この場合、実施期間途中で回答率をモニターし、必要に応じて回答をリマインドするとよい)

6. 結果の閲覧と集計

(1) 担当教員は、回答期間終了後は、各自のデバイス(PC/スマートフォンなど)上で、自身の授業の集計結果および自由記述内容を確認する。

(2) 全学FD委員会は、全学的な集計結果をまとめ、その分析方法を検討する。

7. 結果の取扱い

アンケートの結果を、担当教員に対する管理の強化や不利益な取扱いに利用することはしない。

8. 結果の公表と活用

(1) 担当教員は当該授業についての数値結果および自由記述についての具体的なコメントを

C-Learning上に掲載する。このコメントは当該授業の履修者が閲覧可能とする。

(2) 上記の全学的集計結果の数値部分については『報告書』に掲載し、その『報告書』は、学生を含め学内に公開される。

(3) 自由記述欄の内容は『報告書』に記載せず、今後の授業の参考資料として活用する。

(4) 外部への公表および活用については、全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。ただし、設問内容によっては、外部には公表しない。

以 上